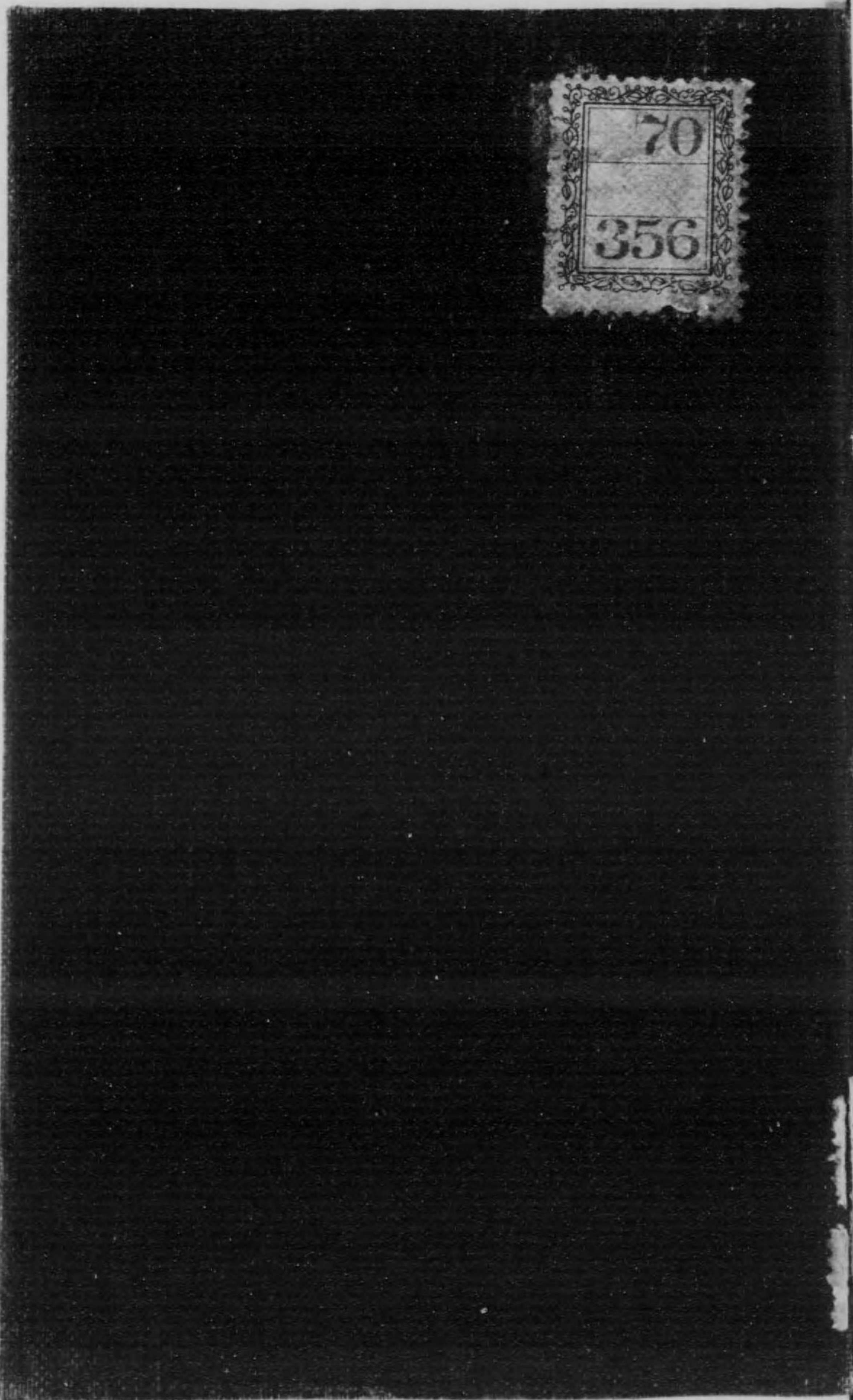
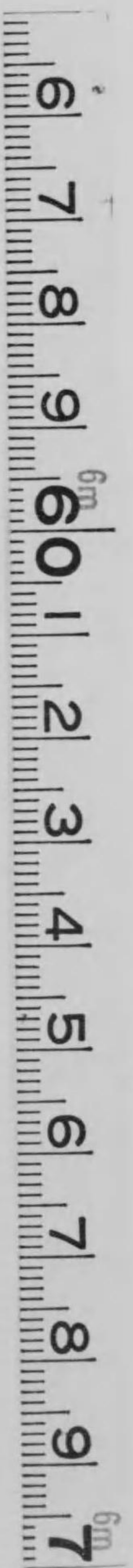


始



步兵第二十七旅團長
陸軍少將

志岐守治閣下題辭

東京

茨城縣立
水海道中學校校長

鶴見次昌先生閱並序

軍事教育綱要

大正

5. 4. 4

東京
目録
店內
發兌

陸軍步兵
大尉

小城彦熊

陸軍步兵
少尉

飯田金吾

共編

陸軍憲兵
中尉

鰻澤久次

陸軍步兵
少尉

遠藤諦道

發兌

亂

生



於治
志は即
志は即

序

國運ノ隆替、ソノ岐ルルトコロ、一ニシテ足ラズト雖、士氣ノ振否、與ツテ多キニ居ルハ、固ヨリソノ所ナリ。故ヲ以テ、國民ニシテ、常ニ、金革ヲ衽ニシ、死シテ厭ハザルノ概アラムカ、國運隆昌ナラザラムト欲スト雖、得ベカラザルナリ。

本邦今ヤ、國民皆兵ノ古制ニ復シ、舉國ノ壯丁ハ、

皆、赳々タル武夫ニシテ、學校ノ教科、亦、教練ノ一科ヲ交へ、以テ士氣ノ振作ニ務ム。蓋、亦、盛矣ナリト謂ツベシ。

然レドモ、因襲ノ久シキ、封建制度ノ餘習、未ダ全ク去ラズ、武事ハ、専門家ノ事ニシテ、齊民之ヲ知ルヲ須ヒズト爲スモノナキニ非ズ、是豈、聖世ノ一恨事ニアラズヤ。

小城彦熊、蝦澤久次、飯田金吾、遠藤諦道君等、茲ニ

慨スルトコロアリ。頃者、相謀リテ一書ヲ編シ、命ヅケテ軍事教育綱要ト云ヒ、序ヲ余ニ乞フ。余受ケテ之ヲ閱スルニ、其收ムルトコロ、教育勅語、戊申詔書、勅諭五箇條ヨリ、兵種、隊伍、操典、兵役等ニ至ルマデ、凡ソ國民須知ノ要アルモノハ、皆、網羅セザルハナク、一讀以テ兵制ノ梗概ヲ知悉シ、尙武ノ氣象ヲ振作スルニ足ル。孫子曰ク、百戰百勝、非善之善者也。不戰而屈人之兵、善之善者也。ト。今、コ

ノ書出ヅルヤ、士氣ノ振作、國運ノ隆昌、蓋、測ルベカラザルモノアラム。是レ、豈、戰ハズシテ人ノ兵ヲ屈スルモノニアラズヤ。乃欣然之ヲ以テ序ト爲ス。

大正丙辰三月下浣

鶴見次昌識

緒言

軍紀ハ軍隊ノ命脈ナリ紀律ハ團體ノ精神ナリ幾多ノ人士ヲシテ能ク一定ノ方針ニ從ヒ一致ノ動作ヲ爲サシメ所謂萬人ノ心ヲシテ一人ノ如クナラシムルモノ即チ規律ナリ故ニ規律ハ上下ヲ一貫スル脈絡ニシテ其弛張ハ實ニ軍國ノ運命ニ關ス協同一致ハ凡テノ目的ヲ達スル爲最モ重要ナルモノナリ艱苦缺乏ハ志氣ヲ作興シ成功ノ素因ヲ鞏固ニスルヲ得ヘシ軍紀嚴正ニシテ精神鞏固ナル軍隊ヲ練成シ規律嚴肅ニシテ堅忍不拔ノ氣象ヲ養成スルヲ得ヘシ軍事ノ學タル動作ヲ以テ教授スル事多シ然レトモ動作ヲ以テ示シ

得ラレサル學科モ亦尠カラス本書ハ主トシテ各人ニ了解シ易カラシメン爲繁ヲ去リ要ヲ取り且國民トシテ須知ノ事項ヲ掲ケ勉メテ軍事思想ノ發達ヲ圖リ併セテ義勇奉公ノ念ヲ惹起セシメ兼テ公事ニ忠勤シ勤儉ノ美風ヲ涵養セシメンコトヲ期セリ

此書編纂ニ際シ步兵第二十七旅團長陸軍少將壹岐守治閣下茨城縣立水海道中學校長鶴見次昌殿大ニ此舉ヲ贊セラレ一閱ノ後題辭序文ヲ賜ヒタルハ編者ノ深ク感謝スルトコロナリ

大正丙辰三月

編者識

軍事教育綱要目次

教育勅語	一
戊申詔書	二
勅諭	三
讀法	九
誓文	一一
朝見式大詔	一二
陸海軍人ニ優詔	一三
第一章 各兵種ノ性能及識別	二
第二章 團隊ノ編成	八
第三章 武官ノ階級及任務ノ概要	九

目次

一

第四章 服制……………一一

第五章 勳章及記章……………一三

第六章 軍隊內務ノ摘要……………一八

第七章 陸軍懲罰令摘要……………三〇

第八章 陸軍刑法摘要……………三一

第九章 步兵操典摘要……………三三

綱領……………三三

第一部 教練……………三七

總則……………三七

第一 各個教練……………三九

徒手……………三九

執銃……………四六

散兵……………五五

第二 中隊教練……………五九

要則……………五九

密集……………六〇

散開……………八一

第二部 戰鬥ノ原則……………九八

一、戰鬥一般ノ要領……………九八

二、攻撃……………一〇〇

三、防禦……………一〇二

四、追擊及退却……………一〇四

五、夜戰……………一〇五

六、持久戰……………一〇七

七、山地及河川ノ戰鬪……………一〇八

八、森林及住民地ノ戰鬪……………一〇九

九、他兵種ニ對スル歩兵ノ動作……………一〇九

第十章 陣中要務令摘要……………一一〇

綱領……………一一〇

一、戰鬪ノ序列……………一一三

二、通報……………一一三

 A、搜索及諜報勤務……………一一七

 B、警戒勤務……………一二六

 C、前哨……………一三四

 D、斥候ノ諸種ノ地形ニ於ケル搜索法……………一五三

 E、行軍……………一五六

第十一 射擊學ノ大要……………一六九

 一、射擊ニ關スル定説……………一七〇

 二、射擊教育……………一七五

第十二 野戰築城學大意……………一八六

第十三 兵語及地形……………一九二

第十四 方位ノ識別……………一九九

第十五 軍制大要……………二〇一

第十六 兵役ノ大要附聯隊區司令部……………二〇八

第十七 軍人恩給並俸給諸給與概要……………二一四

附録

陸戰條規摘要……………二二〇
 赤十字條約ノ大意……………二二二

附表

陸軍軍人階級表
 陸軍常備團隊配備表

目次終

教育勅語

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民
 克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世世厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我國體ノ精華ニ
 シテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相
 信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ
 成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義
 勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タ
 ルノミチラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン
 斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今
 ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ拳拳服膺シテ咸其德ヲ
 ニセンコトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名 御璽

教育勅語

戊申詔書

朕惟フニ方今人文日ニ就リ月ニ將ミ東西相倚リ彼此相濟シ以テ其ノ福利ヲ共ニ
ス朕ハ爰ニ益國交ヲ修メ友義ヲ惇シ列國ト與ニ永ク其ノ慶ニ頼ラムコトヲ期ス
顧ミルニ日進ノ大勢ニ伴ヒ文明ノ惠澤ヲ共ニセムトスル固ヨリ内國運ノ發展ニ
須ツ戰後日尙淺ク庶務益更張ヲ要ス宜ク上下心ヲ一ニシ忠實業ニ服シ勤儉產ヲ
治メ惟レ信惟レ義醇厚俗ヲ成シ華ヲ去リ實ニ就キ荒怠相誡メ自彊息マサルヘシ
抑我カ神聖ナル祖宗ノ遺訓ト我カ光輝アル國史ノ成跡トハ炳トシテ日星ノ如シ
定ニ克ク恪守シ淬礪ノ誠ヲ輸サハ國運發展ノ本近ク斯ニ在リ朕ハ方今ノ世局ニ
處シ我カ忠良ナル臣民ノ協翼ニ倚藉シテ維新ノ皇猷ヲ恢弘シ祖宗ノ威徳ヲ對揚
セムコトヲ庶幾フ爾臣民其レ克ク朕カ旨ヲ體セヨ

御名 御璽

明治四十一年十月十三日

勅諭

我國の軍隊は世々天皇の統率し給ふ所にそある昔神武天皇躬つから大伴物部の
兵ともを率る中國のまつろはぬものともを討ち平け給ひ高御座に即かせられて
天下しろしめし給ひしより二千五百有餘年を経ぬ此間世の様の移り換るに従ひ
て兵制の沿革も亦屢なりき古は天皇躬つから軍隊を率る給ふ御制にて時ありて
は皇后皇太子の代らせ給ふこともありつれと大凡兵權を臣下に委ね給ふことは
なかりき中世に至りて文武の制度皆唐國風に倣はせ給ひ六衛府を置き左右馬寮
を建て防人など設けられしかは兵制は整ひたれとも打續ける昇平に狃れて朝廷
の政務も漸文弱に流れければ兵農おのつから二に分れ古の徵兵はいつとなく壯
兵の姿に變り遂に武士となり兵馬の權は一向に其武士どもの棟梁たる者に歸し
世の亂と共に政治の大權も亦其手に落ち凡七百年の間武家の政治とはなりぬ世
の様の移り換りて斯なれるは人力もて挽回すへきにあらすとはいひながら且は

我國體に戻り且は我祖宗の御制に背き奉り淺間しき次第なりき降りて弘化嘉永の頃より徳川の幕府其政衰へ剩外國の事とも起りて其侮をも受けぬへき勢に迫りければ朕か皇祖仁孝天皇皇考孝明天皇いたく宸襟を惱し給ひしこそ忝くも又惶けれ然るに朕幼くして天津日嗣を受けし初征夷大將軍其政權を返上し大名小名其版籍を奉還し年を経ずして海内一統の世となり古の制度に復しぬ是文武の忠臣良弼ありて朕を補翼せる功績なり歴世祖宗の專蒼生を憐み給ひし御遺澤なりといへとも併我臣民の其心に順逆の理を辨へ大義の重きを知れるか故にこそあれされは此時に於て兵制を更め我國の光を輝さんと思ひ此十五年か程に陸海軍の制をは今の様に建定めぬ夫兵馬の大權は朕か統ふる所なれば其司々をこそ臣下には委すなれ其大綱は朕親之を攬り肯て臣下に委ぬへきものにあらず千々孫々に至るまで篤く斯旨を傳へ天子は文武の大權を掌握するの義を存して再中世以降の如き失態なからんことを望むなり朕は汝等軍人の大元帥なるをされは朕汝等を股肱と頼み汝等は朕を頭首と仰きてそ其親は特に深かるへき朕か國家

を保護して上天の恵に應し祖宗の恩に報いまるらする事を得るも得ざるも汝等軍人か其職を盡すと盡さゝるとに由るそかし我國の稜威振はさることあらは汝等能く朕と其憂を共にせよ我武維揚りて其榮を耀さは朕汝等と其譽を偕にすへし汝等皆其職を守り朕と一心になりて力を國家の保護に盡さは我國の蒼生は永く太平の福を受け我國の威烈は大に世界の光華ともなりぬへし朕斯も深く汝等軍人に望むなれば猶訓諭すへき事こそあれいてや之を左に述べむ

一、軍人は忠節を盡すを本分とすへし

凡生を我國に稟くるもの誰かは國に報ゆるの心なかるへき況して軍人たらん者は此心の固からては物の用に立ち得へしとも思はれず軍人にして報國の心堅固ならざるは如何程技藝に熟し學術に長するも猶偶人にひとしかるへし其隊伍も整ひ節制も正くとも忠節を存せざる軍隊は事に臨みて烏合の衆に同しかるへし抑國家を保護し國權を維持するは兵力に在れば兵力の消長は是國運の盛衰なることを辨へ世論に惑はず政治に拘らす只々一途に己か本分の忠節

を守り義は山嶽よりも重く死は鴻毛よりも軽しと覺悟せよ其操を破りて不覺を取り汚名を受くるなかれ

一、軍人は禮儀を正くすへし

凡軍人には上元帥より下一卒に至るまで其間に官職の階級ありて統屬するのみならず同列同級とても停年に新舊あれば新任の者は舊任のものに服従すへきものそ下級のものは上官の命を承ること實は直に朕か命を承る義なりと心得よ己か隸屬する所にあらずとも上級の者は勿論停年の己より舊きものに對しては總て敬禮を盡すへし又上級の者は下級のものに向ひ聊も輕侮驕傲の振舞あるへからず公務の爲に威嚴を主とする時は格別なれとも其外は務めて懇に取扱ひ慈愛を專一と心掛け上下一致して王事に勤勞せよ若軍人たるものにして禮儀を紊り上を敬はず下を惠ますして一致の和諧を失ひたらんには營に軍隊の蠹毒たるのみかは國家の爲にもゆるし難き罪人なるへし

一、軍人は武勇を尙ふへし

夫武勇は我國にては古よりいとも貴へる所なれば我國の臣民たらんもの武勇なくては叶ふまじし況して軍人は戰に臨みて敵に當るの職なれば片時も武勇を忘れてよかるへきかさはあれ武勇には大勇あり小勇ありて同しからず血氣にはやり粗暴の振舞なとせんは武勇とは謂ひ難し軍人たらむものは常に能く義理を辨へ能く膽力を練り思慮を殫して事を謀るへし小敵たりとも侮らず大敵たりとも懼れず己か武職を盡さむこそ誠の大勇にはあれされは武勇を尙ふものは常々人に接るには溫和を第一とし諸人の愛敬を得むと心掛けよ由なき勇を好みて猛威を振ひたらは果は世人も忌嫌ひて豺狼などの如く思ひなむ心すへき事にこそ

一、軍人は信義を重んずへし

凡信義を守ること常の道にはあれとわきて軍人は信義なくては一日も隊伍の中に交りてあらんこと難かるへし信とは己か言を踐行ひ義とは己か分を盡すを云ふなりされは信義を盡さむと思は、始より其事の成し得へきか得へか

らざるかを審に思考すへし臆氣なる事を假初に諾ひてよしなき關係を結ひ後に至りて信義を立てんとすれば進退谷りて身の措き所に苦むことあり悔ゆとも其詮なし始に能々事の順逆を辨へ是非を考へ其言は所詮踐むへからすと知り其義はとも守るへからすと悟りなは速に止るこそよけれ古より或は小節の信義を立てんとて大綱の順逆を誤り或は公道の理非に踏迷ひて私情の信義を守りあたら英雄豪傑ともか禍に遭ひ身を滅し屍の上の汚名を後世まで遺せること其例尠からぬものを深く警めてやはあるべき

一、軍人は質素を旨とすへし

凡質素を旨とせされは文弱に流れ輕薄に趨り驕奢華靡の風を好み遂には貪汚に陥りて志も無下に賤くなり節操も武勇も其甲斐なく世人に爪はしきせらるる迄に至りぬへし其身生涯の不幸なりといふも中々愚なり此風一たび軍人の間に起りては彼の傳染病の如く蔓延し士風も兵氣も頓に衰へぬへきこと明なり朕深く之を懼れて曩に免黜條例を施行し略此事を誡め置きつれと猶も其惡

習の出んことを憂ひて心安からねは故に又之を訓ふるそかし汝等軍人のめ此訓誡を等閑に思ひそ

右の五ヶ條は軍人たらんもの暫も忽にすへからすさて之を行はんには一の誠心こそ大切なれ抑此五ヶ條は我軍人の精神にして一の誠心は又五ヶ條の精神なり心誠ならされは如何なる嘉言も善行も皆うはへの裝飾にて何の用にかは立つへき心たに誠あれは何事も成るものそかし況してや此五ヶ條は天地の公道人倫の常經なり行ひ易く守り易し汝等軍人能く朕か訓に遵ひて此道を守り行ひ國に報ゆるの務を盡さは日本國の蒼生舉りて之を悦ひなん朕一人の憚のみならんや

明治十五年一月四日

御名

讀法

兵隊ハ 皇威ヲ發揚シ國家ヲ保護スル爲ニ設ケ置カル、モノナレハ此兵員ニ

讀法

加ル者ハ堅ク左ノ條件ヲ守リ違背スヘカラス

第一條 誠心ヲ本トシ忠節ヲ盡シ不信不忠ノ所爲アルヘカラサル事

第二條 長上ニ敬禮ヲ盡シ等輩ニ信義ヲ致シ粗暴倨傲ノ所爲アルヘカラサル事

第三條 長上ノ命令ハ其事ノ如何ヲ問ハス直チ之ニ服従シ抗抵干犯ノ所爲アルヘカラサル事

ルヘカラサル事

第四條 膽勇ヲ尙トヒ軍務ニ勉勵シ恐怯柔懦ノ所爲アルヘカラサル事

第五條 血氣ノ小勇ニ誇リ争鬪ヲ好ミ他人ヲ侮慢シ世人ノ厭忌ヲ來ス等ノ所爲アルヘカラサル事

アルヘカラサル事

第六條 道德ヲ修メ質素ヲ主トシ浮華文弱等ニ流ル、ノ所爲アルヘカラサル事

第七條 名譽ヲ尙トヒ廉耻ヲ重シ賤劣貪汚ノ行爲アルヘカラサル事

以上掲クル所ノ外法律規則ニ違犯シ罪ヲ國家ニ得ルニ至テハ父祖ヲ辱シメ家

聲ヲ汚シ醜ヲ後世ニ遺ス獨リ其身現在ノ耻辱ノミナラサルナリ況ンヤ重罪ノ

如キハ各人天賦ノ公權ヲモ剝奪セラレ世ニ立チ人ニ接ルモ總テ對等ノ權利ヲ

得サルニ至ルニ於テヤ名譽ヲ尙トヒ廉耻ヲ重ニスルノ軍人ニ在テハ殊ニ戒
慎ヲ加ヘサルヘカラス就中陸軍刑法ハ軍隊ノ害ヲ爲ス者ヲ懲ス爲ニ特ニ設ケ
ラル、モノタルヲ以テ其刑亦頗ル嚴ナリ軍人ニシテ之ヲ犯セハ營ニ本分ヲ誤
リ軍隊ノ安寧ヲ害スルノミナラス遂ニ世人ノ信用ヲ損シ陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等
其責更ニ重シ平素自ラ戒飭シ決シテ違犯スヘカラサルモノナリ

誓 文

今般御讀聞相成候讀法之條々堅ク相守リ誓テ違背仕間敷候事
右宣誓如件

年月日

姓

名

朝見式大詔

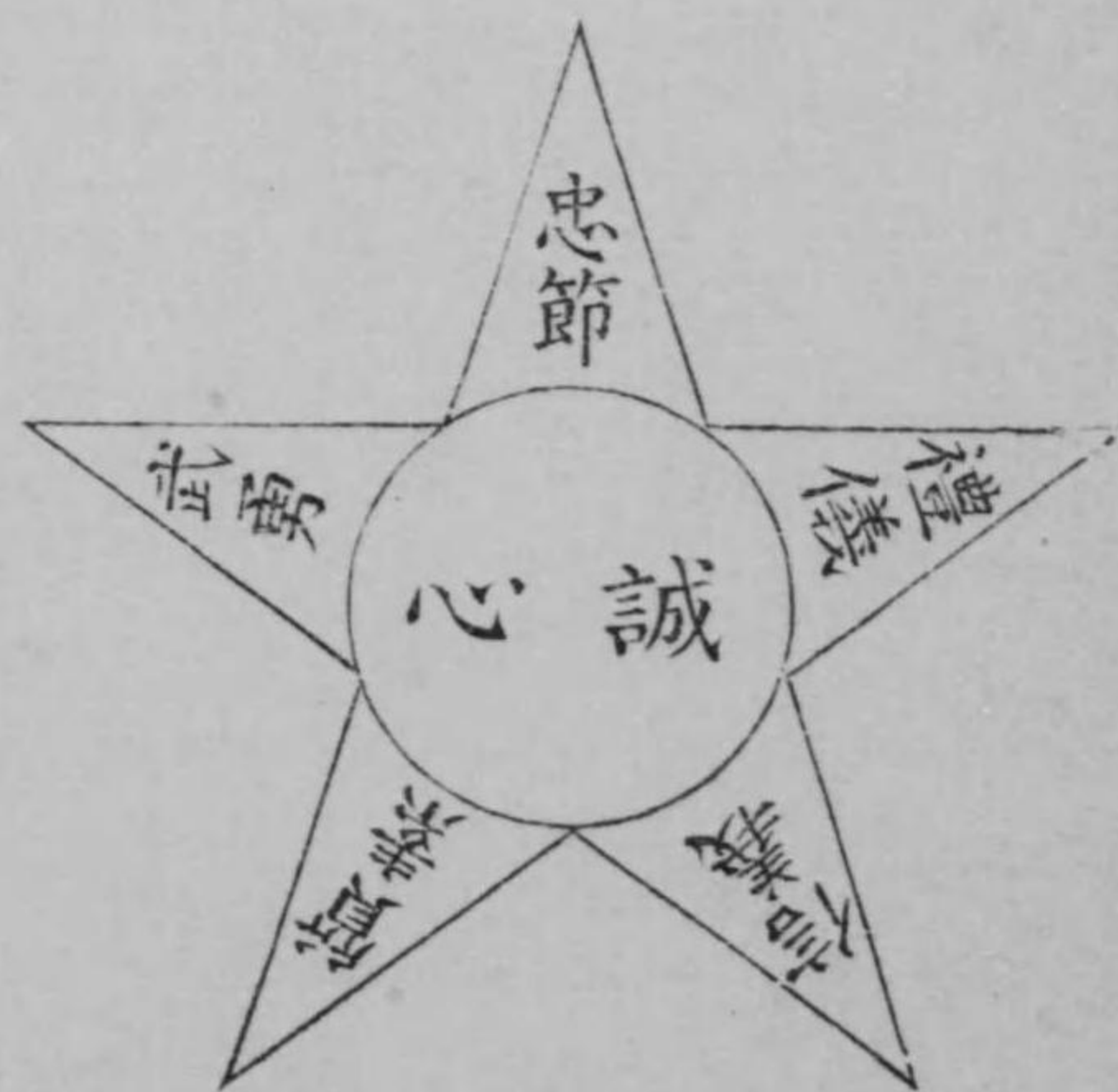
朕俄ニ大喪ニ遭ヒ哀痛極リ罔シ但タ皇位一日モ曠クスヘカラス國政須臾モ廢スヘカラサルヲ以テ朕ハ茲ニ踐祚ノ式ヲ行ヘリ
願フニ先帝叡明ノ資ヲ以テ維新ノ運ニ膺リ萬機ノ政ヲ親ラシ内治ヲ振刷シ外交ヲ伸張シ大憲ヲ制シテ祖訓ヲ昭ニシ典禮ヲ頒テ蒼生ヲ撫ス文教茲ニ敷キ武備爰ニ整ヒ庶績咸熙リ國威維揚ル其ノ盛德鴻業萬民具ニ仰キ列邦共ニ視ル寔ニ前古未タ曾テ有ラサル所ナリ
朕今萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ統治ノ大權ヲ繼承ス祖宗ノ宏謨ニ遵ヒ憲法ノ條章ニ由リ之レカ行使ヲ愆ルコトナク以テ先帝ノ遺業ヲ失墜セサラムコトヲ期ス有司須ラク先帝ニ盡シタル所ヲ以テ朕ニ事ヘ臣民亦和衷協同シテ忠誠ヲ致スヘシ爾等克ク朕カ意ヲ體シ朕カ事ヲ獎順セヨ

陸海軍人ニ優詔

(大正元年七月三十一日陸海軍
兩大臣ヲ宮中ニ召サセラレテ)

朕茲ニ大統ヲ嗣キ列聖ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ムニ方リ特ニ朕カ親愛スル陸海軍人ニ告ク
惟フニ皇考曩ニ汝等ニ軍人ノ精神五ヶ條ヲ訓諭シ一誠以テ之ヲ貫クヘキヲ示シ給ヘリ汝等軍人ハ夙夜此聖訓ヲ奉體シ累次ノ征戰ヲ經國威ヲ宣揚シ皇基ヲ恢弘シ以テ曠古ノ偉勳ヲ翼成シタリ朕ハ朕カ統率スル所ノ軍隊ハ即チ是レ皇考ノ慈育愛撫シ給ヒタル所ノ軍隊ナルヲ念ヒ汝等軍人ノ忠勇ニ信倚シ皇考ノ遺業ヲ紹述シ倍々皇國ノ光威ヲ顯彰シ億兆ノ福祉ヲ増進センコトヲ冀フ汝等軍人ハ皇考ノ遺訓ニ由リ以テ直ニ之ヲ朕カ躬ニ效シ愈々奉公ノ志ヲ鞏クシ思索ノ選ヲ慎ミ宇内ノ大勢ニ鑑ミ時世ノ進運ニ伴ヒ拮据勵精各々其本分ヲ竭クシ朕カ股肱タルノ實ヲ舉ケ以テ皇謨ヲ扶翼セムコトヲ期セヨ

陸軍徽章圖解



軍事教育綱要

第一章 各兵種ノ性能及識別

各兵種ノ性能

陸軍ノ兵種ヲ六科四部ニ分ツ六科トハ歩兵騎兵砲兵工兵輜重兵及憲兵科ヲ云ヒ四部トハ衛生部經理部獸醫部及軍樂部ヲ云フ

一、歩兵ノ性能

徒歩ニテ小銃ヲ使用シ遠方ヨリ射撃ヲ以テ戦ヒ漸次敵ニ近ツキ遂ニ銃劍突撃ヲナス兵種ニシテ如何ナル所ニテモ隨意ニ戦闘シ得ラレ他兵種ノ協同動作ハ歩兵ヲシテ其任務ヲ遂行セシムルヲ主眼トシテ行ハル、ヲ通則トス故ニ戦闘ノ主兵ト稱ス

歩兵ノ中ニ機關銃ヲ以テ戦闘シ得ルモノアリ機關銃隊ト稱ス此隊ハ六銃編成

トシ其銃ノ腔徑ハ歩兵銃ト同一ナリ而シテ射撃速度ノ迅速ナル點ニ於テ特有ノ價值アリ現時歩兵聯隊及騎兵聯隊ニ附屬ス(一分間ノ發射彈數凡ソ六百發位ナリ)

二、騎兵ノ性能

騎兵ハ騎馬ヲ以テ服務シ其性能ハ其馬ノ速力ト衝突力トニ因ルモノトス其任務ハ戦闘前ニアリテハ將帥ノ耳目トナリ遠ク離レテ警戒勤務ニ任シ其成績ハ實ニ全軍ノ安危ニ關ス戰鬥中ニアツテハ襲撃ヲ以テ敵ヲ擊破驅散シ或ハ友軍ノ側面ヲ警戒ス戰鬥後ニ於テハ敗兵ヲ追撃シ成効ヲ完ウスルニアリ又下馬シテ一時陣地ヲ占領シ徒歩戰ヲナスコトアリ

騎兵ノ兵器ハ軍刀ヲ主器トシ騎銃ヲ携フ此器ハ徒歩戰ノ時ニ用フ時ニ或ハ破壊器具ヲ携行セシメ鐵道電線道路橋梁等ノ破壊ニ任セシムルコトアリ現時騎兵中隊ハ四小隊編成ニシテ一小隊ハ四分隊ヨリ成ル中隊ノ人員百數十名アリ

(甲、旅團騎兵三聯隊、五中隊編成)
乙、聯隊三中隊編成

三、砲兵ノ性能

砲兵ハ猛烈ナル火力ヲ以テ砲戰スル所ノ兵種ニシテ其火効ニ至リテハ射距離壓力破壊力等皆歩兵ニ超越ス而シテ其發射ノ響ト彈丸破

裂ノ音トハ軍隊ノ志氣ヲ振起セシメ且敵ノ膽ヲ奪フニ至ツテハ極メテ効果大ナリトス然レトモ砲兵自身ニハ防禦力乏シキ故歩兵或ハ騎兵ノ掩護ヲ受クルニ非レハ獨立動作困難ナリトス戰場ニ於ケル砲兵ノ作業ヲ約説セハ即チ戦闘ヲ開始シ軍隊ノ展開ヲ庇護シ又敵ヲ追撃スルニ當リ射撃ヲ以テ敵ヲ畏怖攪亂セシメ決勝點ノ攻撃ヲ準備シ歩兵ノ進出スルニ從ヒ前進シ又退軍ニ當リテハ砲火ヲ以テ友軍ヲ掩護ス

砲兵ハ分ツテ二種トス野戰砲兵及重砲兵是ナリ砲兵中隊ハ三小隊ヨリ成リ一小隊ニ砲二門ヲ有ス(一中隊ヲ砲四門編成トナス議アリ未タ實行ニ至ラス)

野戰砲兵ハ更ニ野砲兵騎砲兵山砲兵ノ三種ニ分タル

野砲兵ハ口徑七珊五内外ノ速射火砲ヲ具ヘ其一乗車砲兵ハ防楯ヲ備ヘタル砲車ヲ六馬ヲ以テ挽カシメ急速ノ歩度ヲ取ルトキハ其砲手ハ悉ク乗車スルモノトス一聯隊ハ二大隊ニシテ一大隊ハ三中隊ノ編成トス

騎砲兵ハ砲手皆乗馬シ騎兵ニ屬シ迅速ニ運動スルモノナリ

山砲兵ハ專ラ山地ノ戦闘ニ用フル一種ノ野砲ニシテ輕便ナル材料ヲ備ヘ馬背ニ馱シテ運搬ス其砲手ハ皆徒歩スルモノトス(三中隊編成トス)

野戰砲兵ノ兵卒ハ各自銃劍ヲ帶ヒ危急ノトキハ自衛ノ用ニ供ス

重砲兵ハ要塞ノ防禦攻撃ヲ以テ主トシ輓近之ヲ野戰ニ用フルニ至レリ其火砲ハ野砲ニ比スレハ口徑更ニ大ナルヲ要ス加農榴彈砲臼砲等アリ編成ハ種々ニシテ旅團及獨立聯隊大隊等アリ

加農ハ強裝藥ヲ以テ平射ヲ行ヒ榴彈砲及臼砲ハ弱裝藥ヲ以テ曲射ヲナスヲ本然トス

野戰重砲ハ野戰築城ヲナシタル陣地若クハ支阻堡等ヲ攻撃シ且野山砲ヲ以テ射撃シ得サル遮蔽若クハ遠距離ノ敵ヲ射撃スルヲ目的トス

攻城砲ハ砲塔堡壘建築物等ヲ破壊シ又ハ人馬ヲ殺傷スルニアリ此重砲兵ハ銃ヲ携ヘ銃劍ヲ帶フ

附手榴彈

各兵種ノ性能及識別

軍樂部

軍樂ノ吹奏ヲナス

各兵科各部ノ識別

各兵科ヲ見分クルハ服ノ襟章ノ色ニテ區別ス

歩兵ハ紺

騎兵ハ綠

砲兵ハ黃

工兵ハ鶯

輜重兵ハ藍

憲兵ハ黑

經理部ハ銀茶

衛生部ハ深綠

獸醫部ハ紫

軍樂部ハ紺青

(將官ハ襟章ヲ附セス)

各兵科ト各部ハ又上衣ノ鈕或ハ帽ノ星章肩章及筋色ニヨリ區別スルヲ得即チ

各兵科ハ金色而シテ各部ハ銀色トス

近衛師團ハ各兵科各部トモ帽ノ星章ノ下方ニ同色ノ櫻枝ヲ付ス

第二章 團隊ノ編成

現時我國ニハ近衛師團ノ外二十箇ノ師團ヲ有ス此外臺灣南滿洲及天津ニ守備隊ヲ置ク其師團ノ編成ハ次ノ如シ

歩兵二旅團

騎兵一聯隊

野砲兵一聯隊

工兵一大隊

輜重兵一大隊

此外交通兵旅團重砲兵隊騎砲兵山砲兵警備隊軍樂隊等アリ

(師團配置表別表ノ如シ)

第三章 武官ノ階級及任務ノ概要

武官ヲ分チテ將校準士官下士及兵卒ノ四階級トス (別表ノ如シ)

將校トハ少尉以上大將マテヲ云フ

準士官トハ特務曹長上等工長樂長補ヲ云フ

下士トハ曹長軍曹伍長諸工長看護長計手樂手ヲ云フ

兵卒トハ上等兵一二等卒輜重輪卒靴工卒縫工卒磨工卒樂手補ヲ云フ又上等兵

ニシテ下士勤務ヲ掌ルモノアリ伍長勤務上等兵ト云フ

見習士官・見習軍醫・見習主計ハ皆曹長ノ階級ニテ士官勤務ノ見習ヲナスモノ

團體ノ編成 武官ノ階級及任務ノ概要

ナリ此外下士兵卒ノ階級ニテ士官候補生及一年志願兵アリ
任務ノ概要ハ大略左ノ如シ

大將 元帥 參謀總長 軍事參議官 陸軍大臣 東京衛戍總督 教育總監
等

中將 侍從武官長 東宮武官長 參謀次長 師團長 憲兵司令官 要塞司

令官 教育總監部參謀長等

少將 旅團長 陸軍省各局長 築城本部長 士官學校長等

大佐 師團參謀長 聯隊長等(騎兵聯隊長ハ佐官又工兵輔
重兵大隊長モ亦佐官トス)

中佐 聯隊區司令官 聯隊附等

少佐 大隊長 師團副官 聯隊附等

大尉 中隊長 旅團副官 聯隊副官 聯隊區司令部副官等

中尉 大隊副官 中隊附 旅團副官等

少尉 聯隊旗手 中隊附等

特務曹長及下士ハ聯隊附大隊附及中隊附等ナリ

憲兵科ニアリテハ次ノ如シ

憲兵司令官 中少將

憲兵隊長 大中少佐

憲兵分隊長 大中少尉

憲兵副官 少佐大中尉

憲兵隊副官 中尉

班長 特務曹長曹長軍曹伍長

尙憲兵司令部隊本部及分隊ニ下士ヲ附シ書記トナス

第四章 服制

軍人ノ階級ハ服ノ肩章ニヨリテ區別ス

將官ノ肩章 緣ニ細キ金色繩ノ線(相當官ハ銀)ヲ附シ中央ニ太キ金線(相當

服制

官ハ銀)一條アリ而シテ大將ハ三個中將ハ二個少將ハ一個ノ金屬製星章ヲ附ス 地質緋羅紗

佐官ノ肩章 縁ニ細キ金色繩ノ線(相當官ハ銀)ヲ附シ中央ニ細キ金線(相當官ハ銀線)二條ヲ附ス而シテ大佐ハ三個中佐ハ二個少佐ハ一個ノ金屬製星章ヲ附ス

尉官ノ肩章 縁ニ細キ金色繩ノ線(相當官ハ銀)ヲ附シ中央ニ細キ金線(相當官ハ銀線)一條ヲ附ス而シテ大尉ハ三個中尉ハ二個少尉ハ一個ノ金屬製星章ヲ附ス

準士官ノ肩章 縁ニ金色繩ノ線(相當官ハ銀線)ヲ附シ中央ニ細キ金線(相當官ハ銀線)一條アルノミニテ星章ヲ附セス

下士ノ肩章 肩章ノ中央ニ細キ金線一條アリテ曹長ハ三個軍曹ハ二個伍長ハ一個ノ金屬製星章ヲ附ス繩狀ノ縁ハ附セス

兵卒ノ肩章 赤キ地質ノ肩章ノ中ニ黃絨ノ星形ヲ縫着ス上等兵ハ三個一等卒

ハ二個二等卒ハ一個トス又伍長勤務上等兵ハ左腕ニ赤色及金線ノ二様ヨリナレル山形ノ徽章ヲ附ス

一年志願兵ノ肩章 各階級ニ應シ前述ノ如シト雖モ只肩章ノ縁ニ赤及白ノ毛絲製ノ繩狀ノモノヲ附スヲ異ナレリトス

附聯隊號ノ識別

現役者ハ襟ノ前方ニ123等ノ「アラビヤ」數字ノ聯隊號ヲ附ス(金屬製)又I II III等ノ羅馬數字ニテ示セルハ後備隊トス而シテ襟ニ數字等ナキハ官衙學校 附又ハ在郷軍人ナリ尙士官候補生ハ星章ヲ襟ニ附ス 憲兵ハ現役者ト在郷者トヲ問ハス數字等ヲ襟ニ附セス

第五章 勳章及記章

勳章ハ國家ニ功績アル者ニ賜ハル名譽ノ表章ニシテ勳章ヲ始メテ制定セラレタルハ明治八年ナリ

勳章及記章

詔 勅

朕惟フニ凡ソ國家ニ功ヲ立テ績ヲ顯ハスモノ宜シク之ヲ褒賞シ以テ之ニ酬フヘシ依テ勳等賞牌ノ典ヲ定メ人々ヲシテ寵異表彰スル所アルヲ知ラシメントス汝有司其レ斯ノ旨ヲ體セヨ

明治八年二月

此年十二月三十一日陛下賢所ニ出御遊ハサレ躬ヲ明治旭日賞牌親佩ノ式ヲ舉ケラレシナリ

臣民ニシテ初メテ勳章ヲ賜ハリシハ侯爵西郷從道氏ナリ氏ハ臺灣征討ノ功ニ依リ明治九年二月勳一等旭日大綬章ヲ賜ハル

勳章ノ種類

一、菊花章 偉勳アル者ニ賜フ

大勳位菊花章頸飾

大勳位菊花大綬章

二、旭日章 勳功アル者ニ賜フ

勳一等旭日桐花大綬章 勳一等旭日大綬章

勳二等旭日重光章 勳三等旭日中綬章

勳四等旭日小綬章 勳五等雙光旭日章

勳六等單光旭日章 勳七等青色桐葉章

勳八等白色桐葉章

三、金鷄章 殊勳アル者ニ賜フ

功一級ヨリ七級マテトス

四、瑞寶章 勳勞アル者ニ賜フ

勳一等ヨリ八等マテトス

五、寶冠章 勳功アル婦人ニ賜フ

勳一等ヨリ八等マテトス

勳一等ハ大綬ヲ右肩カラ左脇ニ垂レ勳二等ハ綬ヲ用キス右肋ニ帶ヒ勳三等ハ

勳章及記章

中綬ヲ以テ喉下ニ下ケ四等以下ハ小綬ニテ左胸部ニ帶フ

勳章ノ起因

明治八年勳章賞牌ノ典ヲ定ム明治二十一年一月瑞寶章ヲ設ケラル同時ニ旭日大綬章制定セラル明治二十三年二月十一日次ノ詔ト共ニ金鷄章制定セラル

朕惟ミルニ

神武天皇皇業ヲ恢弘ニシ繼承シテ朕ニ及ヘリ今ヤ復ニ登極紀元ヲ算スレハ二千五百五十年ニ達セリ朕此ノ期ニ際シ

天皇裁定ノ故事ニ徴シ金鷄章ヲ創設シ將來武功拔群ノ者ニ授與シ永ク天皇ノ威烈ヲ輝シ其忠勇ヲ獎勵セントス汝衆庶此旨ヲ體セヨ

記章ノ種類及褒章

- 一、憲法發布記念章
- 二、大婚二十五年祝典ノ章
- 三、明治七年征臺ノ役從軍記章
- 四、明治廿七八年戰役從軍記章
- 五、明治卅三年事變從軍記章
- 六、明治卅七八年戰役從軍記章

七、大正三四年戰役從軍記章

八、大禮記念章

九、赤十字社員章

徽章ニハ左ノ各徽章アリ

侍從武官徽章

元帥徽章

陸軍大學卒業生徽章

射擊優等徽章

在郷軍人徽章

褒章ノ種類

褒章ニハ紅綬章綠綬章藍綬章ノ三種アリ

紅綬章

自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者ニ賜ハル

綠綬章

孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絶ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆民

ノ模範タルヘキ者ニ賜ハル

藍綬章

學術技藝上ノ發明改良著述教育衛生慈善防疫ノ事業學校病院ノ建設

道路河渠堤防橋梁ノ修築田野ノ開墾森林ノ栽培水産ノ繁殖農工商業ノ發達

ニ關シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞功顯著

ナル者ニ賜ハル

勳章及記章

第六章 軍隊内務ノ摘要

綱領

一、兵營ハ艱苦ヲ共ニシ生死ヲ同ウスル軍人ノ家庭ニシテ其起居ノ間ニ於テ軍紀ニ慣熟セシメ軍人精神ヲ鍛鍊セシムルヲ以テ主要ナル目的トス
軍人能ク此精神ヲ鍛鍊ス故ニ身心ヲ君國ニ獻ケ職分ノ存スル所水火且辭セス義ヲ重シ節ヲ尙ヒ恥ヲ知り名ヲ惜ミ死生ノ間ニ從容タリ此精神ヤ我國民ノ世々砥礪セシ所ノ精粹ニシテ國運ノ隆替戰爭ノ勝敗一ニ其消長ニ繫ルモノトス是ヲ以テ上官ハ演習勤務等ノ際ハ勿論坐臥寢食ノ際ニ於テモ細心注意シ部下ヲシテ其鍛鍊ニ餘念ナカラシムヘシ蓋シ精神教育ハ唯精神ヲ以テ教育スルヲ得ヘシ而シテ其教育ノ任ニ膺ルモノヲ將校トス即チ將校ハ軍人精神ノ淵源ニシテ一國ノ元氣ノ樞軸ナリ其教育薰陶ニ依リ國軍ノ精神ヲ最高度ニ發揚スルコト必要ナリ

軍紀ハ軍隊成立ノ大本ナリ故ニ軍隊ハ必ス常ニ軍紀ノ振作ヲ要ス將校ト下士卒トヲ問ハス時ト處トヲ論セス上官ノ命令ニ服從シ法規ヲ恪守シ熱誠以テ軍務ニ努力ス之ヲ軍紀振作ノ實證トス而テ服從ハ軍紀ヲ維持スルノ要道タリ上官ト部下トノ間ニ於テ絕對ニ之ヲ厲行シ慣習遂ニ其性ヲ成スニ至ラシムルヲ要ス其他軍人一般ニ其階級及新古ノ順序ニ從ヒ服從ノ道ヲ守リ恭謙柔順以テ全軍ノ秩序ヲシテ整然タラシメサルヘカラス蓋シ服從ハ下級者ノ忠實ナル義務心ト崇高ナル德義心トニ依リ軍紀ノ必要ヲ覺知シタル觀念ニ基キ上官ノ正當ナル命令周到ナル監督及其感化ト相俟テ能ク其目的ヲ達シ衷心ヨリ出テテ形體ニ現レ遂ニ彈丸雨飛ノ間ニ於テ甘シテ身命ヲ上官ニ致シ一意其指揮ニ從フニ至ルモノトス外形ノミノ服從ハ此際何等ノ價值ナキコトニ留意シ衷心誠實ニ之ヲ行ハシムルコトニ付テハ須臾モ怠ルコトアルヘカラス而テ其最良ナル方法ハ上官先ツ自ラ諸法則ヲ遵奉シ禮義ヲ正クシ服從ノ道ヲ守リ以テ模範ヲ垂ルルニ在ルコトヲ忘ルヘカラス

二、各職員ノ勤務服行ニ付テハ事事軍隊成立ノ要義ト戰時ノ必要トニ稽ヘ獨立其責ニ任シ且相互ノ聯絡ヲ失ハスシテ迅速確實ニ事件ヲ處理シ苟モ滯滞アルヘカラス其命令ヲ下シ報告ヲ受クルハ定時ノ會報ニ於テシ事ノ輕易ナルモノハ稍長キモノト雖勉メテ筆記ヲ用ヒスシテ口演シ一タヒ復唱シテ之ヲ會得セハ武士ノ面目ニ懸ケ必ス之ヲ遂行スルノ習慣ヲ養フヘシ又迅速ニ諸命令ヲ傳達シ常ニ其實行ヲ監督シテ些少ト雖怠慢非違ヲ許サス部下ヲシテ上官ハ己レノ擁護者ナリトノ觀念ヲ懷カシムヘシ凡ソ諸規則ハ其多カランヨリハ單簡ニシテ服行ノ確實ナルヲ貴フヘシ又單簡正確ニシテ平易ナル言語ヲ用フルハ戰爭ニ於テ極メテ必要ナリ故ニ平時ニ於テモ勤務間ハ勿論燕居ノ際ト雖此ノ軍人ノ言語ニ慣レシムルヲ要ス以上ハ平時事務執行ノ要訣タルノミナラス亦事務ヲ進捗セシムルノ捷徑ト爲ス

上官ハ隊中ニ在ルト否トヲ論セス其言行總テ部下ノ儀表タラサルヘカラス故ニ上官ハ常ニ氣品ヲ高尚ニシ行狀ヲ端正ニシ其態度服裝ヲ正クシ篤貌ノ中自ラ威容ヲ存シ以テ部下ヲシテ己レヲ敬愛セシムルコト猶幼兒ノ其嚴父ニ於ケルカ如クナラシムルヲ要ス就中下士ハ常ニ兵卒ト起居ヲ共ニスルモノナルカ故ニ其言動ノ兵卒ニ感染スルコト最モ甚シキ所以ト百ノ訓誨ハ一ノ模範ニ如カサルコトトヲ考ヘ克己堅忍深ク其躬行ヲ慎ミ兵卒ニ接スルニハ常ニ懇切公平ヲ旨トシ而モ其身分ノ尊嚴ヲ保チ以テ兵卒ヲシテ己レニ信賴セシムルコト猶幼兒ノ其慈母ニ於ケルカ如クナラシムルヲ要ス

壯丁ノ始メテ入營スルヤ生活狀態ノ劇變ニ依リ頗ル其心性ヲ刺戟シテ銳敏ナラシムルモノアリ故ニ上官ハ初メヨリ懇篤ニ之ヲ誘導シ漸次營内ノ起居ニ慣レシメ遂ニ兵營生活ハ一舉一動各々規準スル所アリテ苟モ放肆偷安ヲ許サス些少ノ怠慢過失モ必ス上官ノ矯正ト督責トヲ免レサルコトヲ悟ラシメ以テ自然ニ其品性ヲ謹嚴方正ナラシムルト同時ニ又諄々之ヲ訓育シ明治十五年軍人ニ賜ハリタル

勅諭ノ御趣意ヲ銘肝セシメ我國體ノ萬國ニ冠絶スル所以ト聖朝御歷代ノ高德

トヲ講話シ兼テ忠勇義烈ノ事績ヲ述ヘ又諸規則典範類ヲ説明シテ近世戰鬪ノ性質ヲ知ラシメ以テ戰爭ノ勝利ハ軍人精神充溢シ軍紀克ク行ハレ協同一致ノ觀念熾ニシテ勇往邁進スル軍隊ニ歸スルモノナルコトヲ了解セシムヘシ兵卒ハ一意專心上官ノ教訓ヲ迎ヘ

勅諭ノ御趣意ヲ遵奉シ命令規則ヲ嚴守シ諸勤務演習ニ勉勵シ兵器ヲ尊重シ馬ヲ愛護シ官物ノ取扱ヲ丁寧ニシ新參者ヲ慈ミ古參者ヲ敬ヒ蔭日向ナク内務ノ規定ヲ守リ上官ニ仕フルコト猶父母ニ事フルカ如クシ衛生ヲ重シ筋骨ヲ鍛ヒ困苦缺乏ニ耐ヘ百折不撓ノ心ヲ養ヒ以テ軍人ノ面目ヲ完クスルコトヲ瞬時モ懈ルヘカラス

三、各級ノ上官及兵卒右ノ如ク各々其分ヲ盡ストキハ營内ノ生活ハ茲ニ大ナル一家庭ヲ成シ融融和樂ノ間ニ於テ全隊ノ一致團結ヲ鞏固ニシ士氣旺盛ニシテ軍務ニ勤勞シ上下相愛シ緩急相救ヒ有事ノ日欣然トシテ起テ國事ニ斃ルルヲ樂ムニ至ルヘシ是レ實ニ日本帝國軍隊ノ本領ニシテ

皇室ノ藩屏タリ國家ノ干城タル所以ノ道亦此ニ外ナラサルナリ

服從

凡ソ部下タル者其上官ニ服從スルハ如何ナル場合ヲ問ハス必ス嚴重ナルヘシ部下ニアラサル受令者ノ命令者ニ對スル場合モ亦同シ

凡ソ命令ハ謹テ之ヲ守リ直ニ之ヲ行フヘシ決シテ其當不當ヲ論シ其原因理由等ヲ尋ヌルコトヲ許サス然レトモ其命令不明瞭ナルトキ徐ニ之ヲ尋ヌルハ妨ケナシ

服從ハ身分階級ノ如何又ハ上下懸隔ノ大小ニ依テ嚴否ノ度ヲ異ニスルモノニアラス

週番勤務

週番諸官ハ營内ノ取締ニ任シ軍紀風紀ノ維持諸法則ノ實施如何ヲ警視スルヲ任トス而シテ之ヲ分チテ聯隊週番勤務中隊週番勤務トス而シテ

此勤務ハ通常土曜日正午ニ始リ次週土曜日正午ニ終ルモノトス

聯隊週番勤務ハ中隊長及聯大隊附大尉ヲ通シ一名之ヲ週番大尉ト云フ特務曹長一名ヲ以テ之ニ服セシム

中隊週番勤務ハ中隊附中少尉一名之ヲ週番士官ト云フ軍曹伍長一名之ヲ週番下士ト云フ上等兵二名トス乘馬隊ニアリテハ上等兵ノ中一名ハ厩當番トス

風紀衛兵

風紀衛兵ハ兵營毎ニ之ヲ設ケ週番大尉ノ指揮ニ屬シ營内ノ取締ニ任シ營門出入ノ者ヲ監視スルヲ以テ任務トス

風紀衛兵ノ其歩哨ヲ出スハ通常軍旗營門營倉彈藥庫等トス其服務ハ通常二十四時間トシ一哨所ニハ兵卒三名ヲ以テ之ニ充ツ單哨ニシテ概ネ一時間毎ニ交代ス但シ必要ニヨリ哨所ノ數ヲ増シ又ハ複哨下士哨トナスコトヲ得

風紀衛兵司令ハ通常下士ヲ以テ之ニ任シ衛舎掛歩哨掛ハ上等兵ヲ以テ之ニ任ス

風紀衛兵ノ服裝ハ軍裝トス

隊營倉

重(輕)營倉ニ處セラレタル者ヲ鋼シ又犯罪者ニシテ處分未決ノ者及一時營倉入ヲ必要トスル者ヲ留置ク所トス

當番卒及從卒

傳令其他諸雜役ニ充ツル所ノ兵卒ヲ當番卒ト稱ス師旅團長及隊附將校ニハ必要アルトキハ從卒トシテ其隊中ヨリ兵卒一名ヲ採リ使用スルコトヲ許ス其兵卒ハ主トシテ三(二)年兵中品行方正勤務勉勵技藝熟達ノ者ヲ選拔ス

起居及容儀

凡ソ家庭ノ修養足ラサルトキハ如何ニ學校教育完備セリト雖有爲ノ青年ヲ造ルコト能ハサルト同様營内ノ修養足ラサルトキハ如何ニ教練ニ熟シ武技ニ長スルモ真正ノ軍人ヲ出スコト能ハスサレハ各上官ハ兵營起居ニ付テハ全幅ノ注意ヲ加ヘ軍隊ニ於ケル家庭ノ修養ヲ全ウセシムルコトヲ期セサルヘカラス

下士以下ハ毎朝起床ノ號音ニテ床ヲ離レ著裝ヲ正シ日朝點呼ノ號音ニテ兵卒ハ所定ノ位置ニ於テ週番士官監視ノ下ニ内務班長ヨリ人員檢査ヲ受クヘシ當日診斷ヲ受ケントスルモノハ此際其旨ヲ内務班長ニ届出ヘシ内務班長ハ其官等級氏名ヲ週番下士ニ通報ス

起床ノ後窓ヲ開キ毛布敷布ヲ振ヒ丁寧ニ疊ミ枕ヲ蒲團ト寢臺トノ間ニ挿ミ顔ヲ洗ヒ兵器ヲ拭ヒ被服ヲ整頓シ馬ノ手入飼付ヲナス
寢具ハ午食後之ヲ展ヘ蚊帳ハ通常夕食後寢臺ニ掛ケ日夕點呼後之ヲ張ルモノトス

日夕點呼ハ消燈前三十分ニ於テ行フモノニシテ其方法ハ日朝點呼ニ同シ命令訓示ハ通常此際授ケラルルモノトス

起床後ヨリ日夕點呼マテハ寢臺上ニ横ハルコトヲ許サス然レトモ一般休日夜間勤務ヲ爲シタル翌日等ノ場合ハ此限ニ在ラス

服裝ハ斷エス軍人ヲ監視スルモノニシテ其不正不締ナルハ心性ノ不確實ナル反應ナレハ服裝ニ付上官ヨリ注意ヲ受クルハ軍人ノ一人恥辱ナリト心得ヘシ其注意事項左ノ如シ

一、頭髮ハ短ク剪ルヘシ帽ヲ冠ルニハ左右ニ歪ミ又ハ仰向ニセス其徽章ヲ正シク鼻ノ線ニ一致セシムヘシ

二、釦「ホツク」「ビジョウ」ハ之ヲ脱シ置クヘカラス袴ニアリテハ特ニ注意スヘシ

三、下襟又ハ襟布ハ上衣ノ襟ヨリ適度ニ現ハスヘシ其他ノ物ヲ頸ニ卷クヘカラス又襦袢ノ袖口ハ上衣ノ袖口ヨリ多く出スヘカラス

四、上衣ハ釦ノ線ヲ正シク體ノ中央ニ置キ袴ハ下ラサル様著スヘシ脚胖ヲ用フルトキハ袴ノ皺ヲ外側ニ正シク集ムヘシ

五、上衣若クハ外套ノ上ニ刀劍ノ帶革ヲ締ムルトキハ其皺ヲ正シク體ノ兩側ニ集ムヘシ

六、衣服ノ表面ニ鎖紐其他布片等ヲ現ハスヘカラス

休日及外出

休日ニハ下士以下勤務ニ差支ナキ限リ本人ノ希望ニヨリ外出セシムルコトヲ得兵卒ノ外出ハ朝食後ヨリ夕食時限マテトシ下士ノ外出ハ日夕點呼時限マテトス

休業數日ニ互ル場合ニ於テ勤務ニ差支ナキトキハ品行方正ニシテ勤務ニ勉勵

シ技藝ニ熟達シ且旅費其他家計上差支ナキコトヲ確認シタル者ニハ聯隊長ハ其間歸省ヲ許スコトヲ得
演習勤務ニ差支ナキ下士ハ日々午後課業済ヨリ日夕點呼マテ業間外出ヲ許サル

下士兵卒臨時外出ヲ願出テ其事情已ムヲ得サルコトヲ確認シタルトキハ四十八時間以内ノ外出ヲ許可セラル

炊事 軍隊ノ食事ハ榮養ヲ旨トシ簡易質素ヲ貴フ軍隊炊事ノ目的ハ右ノ趣旨ヲ達シ又戰地ニ於テ迅速且善味ニ炊事スルコトヲ練習セシムルニアリ炊事場及浴室ハ炊事掛及當番卒ヲシテ其業務ニ服セシム

入隊兵取扱 聯隊長ハ聯隊區司令部ヨリ送付スル現役兵名簿其他戶籍身上ニ關スル書類ニ付入隊兵ノ教育職業身分本籍地ノ關係等ヲ顧慮シ成ルヘク平等ニ之ヲ中隊ニ配布ス
中隊長入隊兵ヲ受領セハ豫メ定メタル名簿ト本人ノ所持セル現役兵證書ト照

シ引渡終レハ聯隊長ハ軍醫ヲシテ身體検査ヲ行ハシム中隊長ハ入隊兵ヲ區分シ内務班ニ編入シ被服其他所要ノ物品ヲ配與ス而シテ各自ノ被服ハ成ルヘク本人ヨリ付添人ニ渡サシメ付添人ナキ者ハ本人ノ望ニ依リ一時中隊ノ倉庫ニ預リ置クコトヲ得

入隊兵ノ所持スル金錢ハ聯隊長ノ定ムル制限以上ノモノハ父兄ニ返サシメ若クハ貯金セシムヘシ

中隊長ハ付添人ヲ集メ父兄ノ心得等ヲ懇話シ誘導者ヲ付シ營内ヲ參觀セシメ且營内ノ生活狀態ヲ説明セシム

中隊長ハ現役兵入隊ノ當日其面前ニ於テ將校特務曹長下士列席ノ上讀法ヲ讀聞セ且所要ノ訓示ヲナシ誓文帳ニ署名シ捺印若クハ拇印セシメ然ル後御眞影ヲ拜セシムヘシ之ヲ宣誓式ト云フ誓文左ノ如シ

今般御讀聞相成候讀法ノ條々堅ク相守リ誓テ違背仕間敷候事

聯隊長ハ現役兵入隊後營庭ニ整列セシメ勅諭ヲ奉讀シ現役兵入隊ノ旨ヲ告達

シ且所要ノ訓示ヲナス之ヲ入隊式ト云フ

第七章 陸軍懲罰令摘要

兵卒ニ科セラルル罰目ニ三種アリ降等重營倉及輕營倉トス
 凡テ罪ヲ犯スモ故意ト過失トアリテ各其罪ヲ異ニス下士ニ科セラルル罰目ハ重
 營倉輕營倉及禁足トス
 降等トハ屢々刑罰ノ處分ヲ受クルモ猶改心セサルモノニ科ス即チ一階級ヲ下ス
 ヲ云フ
 重營倉ハ故意ニ罪ヲ犯シタルモノヲ罰ス演習ノ外營倉ニ入レ寢具ヲ與ヘス飲食
 ハ飯ト湯ト鹽トヲ給スルノミ
 輕營倉ハ過失ニヨルモノヲ罰ス演習ノ外營倉ニ入レ置クモ寢具食物等ハ一般兵
 卒ニ異ナルコトナシ
 又演習ノ外營外ニ出サス雜役ニ使用スル苦役ト云フモノアリ重營倉一日ハ苦役

三日ニ換罰セラル又禁足ト云ヒテ勤務又ハ演習ノ外營外ニ出ツルコトヲ禁スル
 コトアリ輕營倉一日ヲ禁足三日ニ換フ服罰中ト雖特ニ功績アルモノ又ハ改悛ノ
 状著シキモノハ罰ヲ減セラレ或ハ免セラルルコトアリ

第八章 陸軍刑法摘要

陸軍軍人ニシテ罪ヲ犯シタルモノヲ罰ス其種類十一アリ
 一、叛亂ノ罪 黨ヲ結ヒ兵器ヲ執リ反亂ヲナシ又ハ敵國ヲ利スル爲メ凡テノ事
 ヲナスモノヲ云フ
 二、擅權ノ罪 自分ノ權限外ノ事ヲ紊リニ行フコトヲ云フ
 三、辱職ノ罪 步哨ナトカ故ナク守地ヲ離レ又ハ睡眠等ヲナシ其職分ヲ盡ササ
 ルヲ云フ
 四、抗命ノ罪 上官ノ命令ニ抗スルモノヲ云フ
 五、暴行脅迫ノ罪 上官ニ暴行シ又ハ脅迫ヲナシ或ハ哨兵ニ對シ暴行脅迫ヲナ

- 六、侮辱ノ罪、上官或ハ哨兵ノ面前ニ於テ侮辱シ又文書ヲ以テ上官等ヲ侮辱スルモノヲ云フ
- 七、逃亡ノ罪、軍人故ナク職務ヲ離レ又ハ職ニ就カス敵ニ走ルヲ云フ
- 八、軍用物損壞ノ罪、軍用ニ供スル物品ヲ燒燬又ハ破壊シタルモノヲ云フ
- 九、掠奪ノ罪、戰場ニテ住民ノ財物又ハ戦死者ノ財物ヲ褫奪シタルモノヲ云フ
- 十、俘虜ニ關スル罪、俘虜護送途中故意ニ逃亡セシメタル者又ハ俘虜ノ逃亡ヲ補助シタル者等ヲ云フ
- 十一、違令ノ罪、哨兵ヲ欺キテ哨所ヲ通過シ又ハ哨兵ノ制止ニ背キタル者、故ナク召集ノ期ニ後ルル者、兵役ヲ免ルルノ目的ヲ以テ疾病ヲ詐僞シ身體ヲ毀傷シ其他詐僞ノ行爲アル者、戦時ニ際シ軍事ニ關スル虚偽ノ命令通報又ハ報告等ヲナシタル者、禮砲號砲其他空砲ヲ發スヘキ場合ニ於テ彈丸瓦石等ヲ裝填シテ發砲シタル者

政治ニ關シ上書建白其他請願等ヲナシ又ハ演說文書ヲ以テ意見ヲ公ニシタル者

陸軍刑法ニ於テ罰スル罪目ハ左ノ如シ

- 死刑、無期懲役、有期懲役、無期禁錮、有期禁錮
- 軍人ノ裁判ハ軍法會議ニ依リ裁判セラル此刑法ニ依リ罰セラルル軍人ハ陸軍衛戍監獄ニ入監セシメラル尙改悛セサルトキハ懲治隊ニ編入セラレ懲治卒トナル不名譽此上ナシ恐レテ戒シメサルヘカラス

第九章 歩兵操典摘要

綱領

第一 戦闘ハ諸兵種協同一致シテ各々其固有ノ戦闘能力ヲ發揮スルニ依リテ好果ヲ得ルモノナリ而シテ歩兵ハ戦闘ノ主兵トシテ戰場ニ於テ常ニ主要ノ任務ヲ負擔シ戦闘ニ最終ノ決ヲ與フルモノナリ故ニ他兵種ノ協同動作ハ歩兵ヲシテ其

任務ヲ達セシムルヲ主眼トシテ行ハルルヲ通則トス

歩兵ノ本領ハ地形及時期ノ如何ヲ問ハス戰鬪ヲ實行シ得ルニアリ故ニ歩兵ハ縦ヒ他兵種ノ協同ヲ缺クコトアルモ自ラ能ク戰鬪ヲ準備シ且之ヲ遂行セサルヘカラス

第二 歩兵戰鬪ノ主眼ハ射撃ヲ以テ敵ヲ制壓シ突撃ヲ以テ之ヲ破摧スルニ在リ射撃ハ戰鬪經過ノ大部分ヲ占ムルモノニシテ歩兵ノ爲緊要ナル戰鬪手段ナリ而シテ戰鬪ニ最終ノ決ヲ與フルモノハ銃劍突撃トス

第三 軍紀ハ軍隊ノ命脈ナリ戰線幾十里ニ亘リ到ル處地形ト境遇トヲ異ニシ且諸種ノ任務ヲ有スル幾萬ノ軍隊ヲシテ能ク一定ノ方針ニ從ヒ一致ノ運動ニ就カシメ所謂萬人ノ心ヲ以テ一人ノ如クナラシムルモノ即チ軍紀ナリ故ニ軍紀ハ上將帥ヨリ下兵卒ニ至ルマテヲ一貫スル脈絡ニシテ其弛張ハ實ニ戰鬪ノ勝敗ヲ定メ軍ノ運命ニ關スルモノナリ

第四 攻撃精神ノ鞏固體力ノ强健及武技ノ熟練ハ歩兵必須ノ要件ナリ抑歩兵戰

鬪ハ頗ル靱強ノ性質ヲ有スルモノナルカ故ニ歩兵ハ剛膽ニシテ忍耐ニ富ミ沈著ニシテ勇敢ナラサルヘカラス勝敗將ニ岐レントシ戰鬪慘酷ヲ極ムルトキニ於テ特ニ然リ此時ニ方リテハ敵モ亦既ニ我ト同一若クハ以上ノ苦境ニ在ルヘキヲ以テ能ク毅然トシテ之ニ堪ヘ奮然トシテ邁カハ遂ニ敵ヲシテ抵抗ヲ斷念セシムルニ至ルモノトス

攻撃精神ハ忠君愛國ノ至誠ト獻身殉國ノ大節トヨリ發スル軍人精神ノ精華ナリ武技之ニ依リテ精ヲ致シ教練之ニ依リテ光ヲ放チ戰鬪之ニ依リテ捷ヲ奏ス蓋シ勝敗ノ數ハ必スシモ兵力ノ多寡ニ依ラス精練ニシテ且攻撃精神ニ富メル軍隊ハ毎ニ寡ヲ以テ衆ヲ破ルコトヲ得ルモノナリ

第五 軍隊ノ志氣ハ旺盛ナラサルヘカラス狀況困難ナルトキニ於テ特ニ然リ抑指揮官ハ軍隊志氣ノ中心ナリ故ニ常ニ士卒ト苦樂ヲ俱ニシ率先躬行部下ノ儀表トシテ其尊信ヲ受ケ戰況慘烈ノ極所ニ立ち勇猛且沈著ニシテ部下ヲシテ望ミテ山嶽ヨリモ重キヲ感セシムルノ德量氣概無カルヘカラス

第六 協同一致ハ戰鬪ノ目的ヲ達スル爲最モ重要ナルモノニシテ命令ヲ以テスルノ外各人ノ獨斷專行ニ待ツモノトス蓋シ兵種ヲ論セス指揮官タルト兵卒タルトヲ問ハス各々自己ノ任務ノ遂行ニ努力スルハ即チ協同一致ノ趣旨ニ合スルモノニシテ戰況ノ變化ニ應スル臨機ノ手段ハ一ニ各人ノ獨斷ニ待タサルヘカラス而シテ獨斷專行ハ必ス軍人精神ヲ基礎トスル公義心ニ出テ時トシテハ自ラ任シテ友軍ノ犠牲トナルノ覺悟アルヲ要ス

抑獨斷專行ハ其精神ニ於テ服従ト相離ルルコトヲ許サス常ニ上級指揮官ノ意圖ヲ忖度シ必ス其範圍ニ於テスヘキモノトス然レトモ戰場ニ於テハ或ハ不意ノ變局ニ遭遇シ其範圍ヲ超越スルヲ要スルコトナキヲ保セス此場合ニ於テモ尙上級指揮官ノ意圖ヲ察シ之ニ投合スルコトヲ勉メ決シテ擅恣ニ陥ラサルヲ要ス

第七 戰鬪ニ於テハ百事簡單ニシテ且精練ナルモノ能ク成功ヲ期シ得ヘシ操典第一部ハ實ニ此趣旨ニ從ヒ少數單一ノ制式及主要ナル戰鬪法則ヲ示セリ故ニ操典ノ制式及法則ヲ嚴守シテ之ニ習熟シ第二部戰鬪ノ原則ニ照シ能ク實際ニ應用

スルヲ以テ操典ノ本旨トス乃チ徒ニ外形ノ齊一ヲ期シ妄ニ細密ナル規定ヲ作り以テ活用ノ餘地ヲ減縮スルヲ許サス

第一部 教練

總 則

一、教練ノ目的ハ指揮官及兵卒ヲ訓練シテ諸制式及戰鬪ノ諸法則ニ習熟セシムルト同時ニ軍紀嚴正ニシテ精神鞏固ナル軍隊ヲ練成シ以テ戰鬪百般ノ要求ニ適應セシムルニアリ

二、戰鬪ノ基礎タルヘキ諸教練ハ中隊ニ於テ之ヲ完了スルモノトス

三、教練ハ順序ヲ逐ヒ簡ヨリ繁ニ入り其經過ヲ急遽ナラシムヘカラス之カ實施ニ方リテハ上下常ニ熱心事ニ從ヒ縱ヒ些末ノ注意ト雖之ヲ等閑ニ附スヘカラス

四、指揮官ノ意圖ハ號令ニ依リテ告達ス號令ハ能ク部下ヲ驅テ水火ヲモ敢テ辭セサラシムヘキモノナルヲ以テ堅確ノ決意嚴肅ノ態度明快ノ音調ヲ以テ發唱ス

ヘシ號令ニシテ其意ヲ盡ササルニ至リ始メテ命令ヲ用フヘシ而シテ命令ハ簡明
確切ニシテ下達迅速ナルヲ要ス又狀況ニ依リテハ號音若クハ記號ヲ以テ號令ニ
代フルコトアリ

號令ヲ豫令及動令ニ分ツヘキ場合ハ豫令ハ明瞭ニ長ク動令ハ活潑ニ短ク發唱シ
其間ニ適當ノ時間ヲ存スヘシ

記號ハ行進ニハ高ク武器若クハ手ヲ舉ケ停止ニハ之ヲ舉ケテ直ニ下スモノトス
又將校ハ射擊中止ノ爲或ハ射擊セサルトキニ限り部下ノ注意ヲ喚起スル爲小笛
ヲ用フルコトアリ

五、指揮官ハ教練ニ於テモ實戰ニ在リテ取ルヘキ姿勢ト位置トニ在リテ部下ヲ
指揮スルコトニ慣ルルヲ要ス

第一 各個教練

徒手

不動ノ姿勢

不動ノ姿勢ハ軍人基本ノ姿勢ナリ故ニ常ニ嚴肅ニシテ端正ナラサルヘカラス軍
人精神内ニ充ツルトキハ外容自ラ嚴正ナルモノトス
不動ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

氣ヲ著ケ

兩踵ヲ一線上ニ揃ヘテ之ヲ著ケ兩足ハ約六十度ニ開キテ齊シク外ニ向ケ兩膝ハ
凝ラスシテ之ヲ伸ハシ上體ハ正シク腰ノ上ニ落チ著ケ且少シク前ニ傾ケ兩肩ヲ
稍後ロニ引キ一様ニ之ヲ下ケ兩臂ハ自然ニ垂レ掌ヲ股ニ接シ指ハ輕ク伸ハシテ
之ヲ竝ヘ中指ヲ袴ノ縫目ニ當テ頸ヲ眞直ニシ頭ヲ正シク保チ口ヲ閉チ兩眼ハ十
分之ヲ開キ前ノ方ヲ直視ス

休憩ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

休メ

先ツ左足ヲ出シ爾後片足ヲ舊ノ所ニ置キ姿勢ト動カサルトニ意ヲ留ムルコトナク其場ニ立チテ休憩ス休憩中ト雖話スコトヲ禁ス

右(左)向 半右(左)向及後向

右(左)向或ハ半右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)向々 右(左)

或ハ 半右(左)向々 右(左)

左足尖ト右足トヲ少シク上ケ左踵ニテ九十度或ハ四十五度右(左)ニ向キ右踵ヲ

左踵ニ著ケテ同線上ニ揃フ

後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

廻ハレ 右

右足ヲ其方向ニ引キ足尖ヲ僅ニ左踵ヨリ離シ兩足尖ヲ少シク上ケ臍ヲ屈ムルコ

トナク兩踵ニテ後ロニ廻ハリ次ニ右踵ヲ左踵ニ引キ著ク

行 進

行進ニハ威嚴ヲ保チ勇往邁進ノ氣象ヲ現ハササルヘカラス

速歩ハ一步ノ長サヲ踵ヨリ踵マテ七十五珊米トシ其速度ハ一分時間ニ百十四歩

トス

速歩行進ヲ起サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

前へ 進メ

左股ヲ少シク上ケ脚ヲ前ニ出シ足尖ヲ僅ニ外ニ向ケ上體ヲ少シク前ニ傾ケ右足ヨリ七十五珊米ノ所ニ脚ヲ伸ハシツ、故ラニ地面ヲ敲クコトナク踏著ケ同時ニ臍ヲ地面ノ方ニ壓シテ伸ハシ全ク體ノ重ミヲ踏著ケタル足ノ上ニ移ス左足ヲ踏著クルト同時ニ右踵ヲ地ヨリ離シ左脚ニ就キテ說示セント同法ニテ右脚ヲ前ニ出シ同距離ノ所ニ踏著ケテ行進ヲ續ケ兩足ヲ交叉スルコトナク膝ヲ必要ヨリ高く上クルコトナク兩肩ヲ廻ハスコトナク頭ヲ真直ニ保チ兩臂ヲ自然ニ振ル

速歩行進間行進ヲ容易ナラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

歩調止メ

正規ノ歩法ヲ守ルコトナク速歩ノ歩長ト速度トニテ姿勢ヲ崩スコトナク行進ス
再ヒ正規ノ歩法ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

歩調取レ

兵卒ヲ止ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

分隊 止レ

後ノ足ヲ前ノ足ニ引著ケテ止ル
足踏ヲ爲ザシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

足踏ミ 進メ

進ムコトナク少シク膝ヲ屈メ交々兩足ヲ踏著ケテ調子ヲ取ル
更ニ行進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス動令ハ通常左足ノ地ニ著カントスルトキ
下スモノトス

前へ 進メ

左足ヨリ踏出シ續キテ行進ス
行進間右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス動令ハ通常右(左)足ノ地ニ著
カントスルトキ下スモノトス

右(左)向ケ前へ 進メ

左(右)足ヲ前ニ踏著ケ其足尖ニテ體ヲ右(左)方ニ向ケ右(左)足ヨリ新方向ニ行
進ス

斜行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス行進間ニ在リテハ動令ハ通常右(左)足
ノ地ニ著カントスルトキ下スモノトス

斜メニ右(左)へ 進メ

行進間ニ在リテハ左(右)足ヲ前ニ踏著ケ其足尖ニテ體ヲ半右(左)方ニ向ケ右
(左)足ヨリ新方向ニ行進ス

停止間ヨリ直ニ斜行進ヲ爲スニハ先ツ半右(左)向ヲ爲シ左足ヨリ新方向ニ行進

直行進ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜メニ左(右)へ 進メ

斜行進ヲ爲スト同法ヲ以テ直行進ニ復ス

行進間後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス動令ハ通常右足ノ地ニ著カントス
ルトキ下スモノトス

廻ハレ右へ 止レ

或ハ

廻ハレ右前へ 進メ

左足ヲ前ニ踏著ケ其足尖ニテ後ロニ廻ハリ右足ヲ左足ニ引著ケ其儘止リ或ハ更
ニ左足ヨリ行進ス

駈歩ハ一步ノ長サヲ八十五珊米トシ其速度ハ一分間ニ百七十歩ヲ基準トス

駈步行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

駈歩

進メ

豫令ニテ兩手ヲ握リ腰ノ高サニ上ケ肘ヲ後ロニス

動令ニテ左脚ヲ前ニ出ス其法兩脚ヲ少シク屈メテ僅ニ左股ヲ上ケ足尖ヨリ下シ
テ右足ヨリ八十五珊米ノ所ニ踏著ケ次ニ左脚ト同法ヲ以テ右脚ヲ前ニ出シ常ニ
體ノ重ミヲ踏著ケタル足ニ移シ兩肘ヲ自然ニ振り續キテ行進ス

「分隊止レ」ノ號令ニテ二歩前進シタル後速歩ト同法ニ依リ停止シ兩手ヲ下ス
駈步行進ヨリ速步行進ニ移ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

速歩

進メ

二歩前進シタル後速歩ニ移リ兩手ヲ下シ續キテ行進ス

駈步行進間ノ諸動作ハ速步行進間ニ於ケル要領ニ準シテ行フ但後向ヲ爲スニハ
二歩前進シタル後行ヒ又足踏右(左)向、斜行進ニ在リテハ通常速歩ニ於ケルヨ
リモ一步前ニ動令ヲ下スモノトス

足踏ヲ爲シアルトキ更ニ駈步行進ニ移ラシムルニハ「前へ進メ」ノ號令ヲ用フル

モノトス

執銃

立銃ニ於ケル不動ノ姿勢

立銃ニ於ケル不動ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

氣ヲ著ケ

不動ノ姿勢ヲ取り右手ヲ以テ銃ヲ握ル其法腕關節ヲ自然ノ位置ニ保テ銃身ヲ拊指ト食指トノ間ニ置キ其他ノ指ハ食指ト共ニ閉テ輕ク屈メテ銃床ニ添フ銃口ハ右臂ヨリ一握程約十ヲ隔テ銃身ヲ後ロニシ床尾踵ヲ右足尖ノ傍ニ置キ銃身ヲ垂直ニ保ツ

立銃ニ於ケル休憩ハ徒手ノトキニ同シ但照星ヲ擦ラサル如ク銃ヲ保ツ

右(左)向 半右(左)向及後向

立銃ニ在ルトキ右(左)向、半右(左)向及後向ヲ行フニハ右手ヲ以テ少シク銃ヲ上ケ小指ヲ木被ノ上ニ當テテ腰ニ支ヘ動作終レハ直ニ之ヲ下ス

立銃ヨリ擔銃及擔銃ヨリ立銃

擔銃及立銃ハ臂及手ヲ以テ確實ニ行ヒ其舉動ハ速度ニ同シ

立銃ヨリ擔銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

擔銃

第一舉動 右手ヲ以テ銃ヲ上ケ拳ヲ概テ肩ノ高サニシ銃身ヲ右ニシテ之ヲ垂直ニシ同時ニ右手ヲ以テ照尺ノ下ヲ握リ肘ヲ下ケテ輕ク體ニ接ス

第二舉動 左手ヲ以テ少シク銃ヲ上ケ銃身ヲ半ハ前ノ方ニ向ケ右手ヲ伸ハシテ食指ト中指トノ間ニ床尾踵ヲ置ク如ク床尾ヲ握ル

第三舉動 右手ヲ以テ銃ヲ右肩ニ擔ヒ銃身ヲ上ニシ左手ヲ遊底ノ上ニ置キ右肘ハ輕ク體ニ接シ床尾ノ環ヲ體ヨリ一握程離シ銃ハ上衣ノ釦ノ線ト平行セシメ槓ノ高サヲ概テ其第一第二釦ノ中央ニス

第四舉動 左手ヲ下ス

擔銃ヨリ立銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

立テ 銃

第一、舉動、右手ヲ伸ハシテ銃ヲ下ケ銃身ヲ半右ノ方ニ向ケ之ヲ垂直ニシ左手ヲ以テ照尺ノ下ヲ握リ肘ヲ下ケテ輕ク體ニ接ス

第二、舉動、左手ヲ以テ銃ヲ下ケ銃身ヲ右ニシ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ其拳ヲ概ネ肩ノ高サニス

第三、舉動、銃身ヲ後ロニシ之ヲ下ケ小指ヲ木被ノ上ニ當テテ腰ニ支ヘ同時ニ左手ヲ下ス

第四、舉動、靜ニ銃ヲ地ニ下ス

着劍及脱劍

著劍及脱劍ハ停止行進間如何ナル姿勢ニ在リテモ之ヲ行フ

著劍及脱劍ハ注目シテ之ヲ行フモノトス

著劍ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

著ケ劍

立銃ニ在ルトキハ右手ヲ以テ銃ヲ左ニ傾ケ銃身ヲ少シク右ニシ銃口ヲ概ネ體ノ中央ニシ左手ヲ以テ逆ニ銃劍ノ柄ヲ握リ銃劍ヲ抜キテ確ニ銃口ノ所ニ著ケ兩手ヲ以テ銃ヲ起シ立銃ノ姿勢ニ復ス

脱劍ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

脱レ劍

立銃ニ在ルトキハ右手ヲ以テ銃ヲ左ニ傾ケ左手ニテ銃劍ノ柄ヲ握リ右手ヲ上ケ其拇指ニテ駐筭ヲ押シ左手ニテ銃劍ヲ脱シ之ヲ右ノ方ニ倒シテ劍尖ヲ下ニシ右手ノ食指中指ト拇指トニテ及ヲ挟ミ其餘ノ指ニテ銃ヲ保チ左手ヲ翻シテ柄ヲ握リ銃劍ヲ全ク輕ニ納メ左手ヲ以テ右手ノ下ヲ握リ右手ヲ下ケテ木被ノ所ヲ握リ兩手ヲ以テ銃ヲ起シ立銃ノ位置ニ復ス

彈藥ノ裝填及抽出

裝填ハ通常停止間ニ於テ行フモノトス

裝填ハ屢教習シテ熟達セシムルヲ要ス是兵卒ハ如何ナル姿勢ト場合トヲ問ハス

確實迅速ニ行フヲ要スレハナリ
裝填ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

彈藥ヲ込メ

立銃ニ在ルトキハ頭ヲ正面ニ保チタル儘半右向ヲ爲シツツ右足ヲ新線上右ノ方
へ約半歩ノ所ニ踏開キ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ上ケツツ前ニ倒シ左手ヲ以テ概ネ
銃ノ重點ノ所ヲ握リ其臂ヲ體ニ著ケ指ハ銃床ノ溝ニ置キ銃口ヲ眼ノ高サニシ床
鼻ヲ右乳ヨリ少シク下ニシ床尾ヲ體ニ接ス
右手ヲ以テ下ヨリ槓桿ヲ握リ之ヲ起シツツ十分後ロニ引キ彈藥盒ノ蓋ノ留革ヲ
脱シ其蓋ヲ開キ注目シテ彈藥ヲ撮ミ出シ彈頭ヲ前ニシ挿彈子溝ニ嵌メ拇指ノ頭
ヲ彈藥ノ後部ニ當テ彈倉内ニ押シ入レ次ニ槓桿ヲ握リ遊底ヲ閉チ右掌ヲ以テ擊
莖駐脚ヲ押シ右ニ廻ハシ(三十年式步兵銃ニ在リテハ食指ヲ以テ)銃ヲ安全裝置ニシ
前ノ方ヲ直視シ彈藥盒ノ蓋ヲ閉チ留革ヲ掛ケ木被ノ所ヲ握リ舊方向ニ向キツツ
右足ヲ左足ニ引著ケ立銃ヲ爲ス

彈藥ヲ抽キ出サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

彈藥ヲ抽ケ

立銃ニ在ルトキハ裝填ト同一ノ姿勢ヲ取リ右手ヲ以テ彈藥盒ノ蓋ノ留革ヲ脱シ
其蓋ヲ開キ注目シテ右掌ヲ以テ擊莖駐脚ヲ押シ左ニ廻ハシ(三十年式步兵銃ニ在
リテハ食指ヲ以テ副
鐵鉤ヲ後ロニ引キ)銃ヲ擊發裝置ニシ左手ヲ尾筒ノ所ニ持チ來タシ其四指ヲ伸ハ
シテ方窓部ニ當ツルカ如クニ徐カニ遊底ヲ進退シテ彈藥ヲ出シ之ヲ彈藥盒ニ收
ム彈藥ヲ出シ盡セハ左手ノ中指ト無名指トニテ受筒飯ヲ壓シテ遊底ヲ閉チ引鐵
ヲ下シ前ノ方ヲ直視シ彈藥盒ノ蓋ヲ閉チ留革ヲ掛ケテ裝填ノ時ニ於ケルト同様
ニ立銃ヲ爲ス

射 擊

射擊ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

立射(膝射・伏射)ノ構ヘ 銃

立銃ニ在ルトキハ立射ノ姿勢ヲ取ルニ裝填ト同様ニ銃ヲ構ヘ右手ヲ以テ銃把ヲ

握ル

立銃ニ在ルトキ膝射ノ姿勢ヲ取ルニハ半右向ヲ爲シツツ右足尖ヲ左足ノ延線上其踵ヨリ約半歩後ロヘ引キ左手ヲ以テ劍鞘ヲ前ニ拂ヒ右脚ヲ左足ノ方向ト殆ト直角ナル如ク平ニ地ニ著ケ臀ヲ右足ニ載セ左脚ヲ立テ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ前ニ倒シ左手ヲ以テ立射ノ如ク之ヲ保チ其前臂ヲ左膝ノ上ニ置キ床尾板ヲ右股ノ内部ニ當テ次ニ右手ヲ以テ銃把ヲ握リ上體ヲ自然ノ方向ニ眞直ニ保ツ

立銃ニ在ルトキ伏射ノ姿勢ヲ取ルニハ左手ヲ以テ彈藥盒ヲ左右ニ開キツツ半右向ヲナシ床尾ヲ前方約一步ノ所ニ出シ其方向ニ於テ兩膝ヲ地ニ著ケ直ニ左手ヲ兩膝ノ前ニ出シ地ニ著ケ上體ヲ射擊方向ニ對シ約三十度ニシテ伏臥シ立射ノ如ク銃ヲ保チ銃把ヲ腮ノ稍前ニ在ル如クシ兩肘ヲ地ニ支フ

何レノ姿勢ニ在リテモ頭ヲ舊方向ニ保チ銃口ヲ眼ノ高サニシ銃ヲ擊發裝置ニシ右手ノ食指ヲ用心鐵ノ内ニ入レテ伸ハス裝填シアラサルトキハ銃ヲ構ヘタル後直ニ裝填ス

射擊ノ動作ハ如何ナル場合ニ在リテモ正確ニ實施シ得ラレサルヘカラス而シテ照準點ハ常ニ目標ノ下際トス

射擊ヲ中止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

擊方待テ

銃ヲ構ヘ次發ノ用意ヲ爲ス

射擊ヲ止メシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

擊方止メ

銃ヲ安全裝置ニシ彈藥盒ノ蓋ヲ閉チ留革ヲ掛ケ照尺ヲ舊位ニ復シ立射ニ在リテハ裝填ノトキニ於ケル如ク膝射ニ在リテハ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リテ起チ舊方向ニ向キツツ右足ヲ左足ニ引著ケ伏射ニ在リテハ伏射ノ姿勢ヲ取リタルトキト概ネ反對ノ順序ヲ以テ起チ立銃ヲ爲ス

行 進

執銃ノ速歩行進ハ「進メ」ノ動令ニテ銃ヲ擔ヒツツ行進ヲ起シ駢步行進ニ在リテ

ハ豫令ニテ擔銃ヲ爲シ劍韃ヲ握ル

「止レ」ノ動令ニテ停止シ立銃ヲ爲ス

銃ヲ擔フコトナク行進スル場合ハ右手ヲ以テ少シク銃ヲ上ケ小指ヲ木被ノ上ニ

當テテ腰ニ支ヘ駈歩ヲ行フトキハ劍韃ヲ握ル停止セハ直ニ立銃ヲ爲ス

折敷(伏セ)ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

折敷(伏セ)

行進間ニ在リテ折敷ヲ爲スニハ左足ヲ前ニ踏出シ左手ヲ以テ劍韃ヲ前ニ拂ヒ右
脚ヲ地ニ著ケ臀ヲ右足ニ載セ立銃ノトキニ於ケルカ如ク銃ヲ下ケ右膝ノ前ニ立
テ銃身ヲ後ロニシ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ左前臂ヲ膝射ノ姿勢ニ於ケル如ク
左膝ノ上ニ置ク「伏セ」ヲ爲スニハ停止シ立銃ヲ爲シ伏射ノトキニ於ケル如ク伏
臥シ木被ノ所ニ就キ銃ヲ左前臂ニ載セ槓桿ヲ上ニス
停止間ニ在リテモ亦之ニ準ス
折敷(伏セ)ニ在ルトキ起立セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

起テ

「撃方止メ」ノ時ト同様起テ立銃ヲ爲ス

直ニ行進スルニハ「前へ」或ハ「駈歩」ノ豫令ニテ起テ執銃行進法ニ從ヒ行進ス

突 擊

突撃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

突撃ニ

進メ

豫令ニテ右手ヲ以テ木被ノ所ニ就キ銃ヲ提ケ若シ擔銃ニ在ルトキハ擔銃ヨリ立
銃ヲナス方法ニ準シ銃ヲ肩ヨリ下シ床尾ヲ少シク地面ヨリ離シ銃口ヲ概ネ右肩
ノ前ニ在ラシメ左手ヲ以テ劍韃ヲ握リ動令ニテ駈歩ト同要領ニテ前進シ次テ
「突込メ」ノ號令ニテ吶喊シ猛烈果敢ニ敵ニ向ヒテ突入シ格闘ス

演習ニ在リテハ格闘ニ先チ「止レ」ノ號令ヲ下ス然ルトキハ停止シ立射ノ構ヲ
爲ス

散 兵

散兵ノ教練ハ散兵ノ動作即チ地形ヲ利用シテ行進シ停止シ射撃シ突撃スルコトニ慣熟シ且攻撃精神ヲ養成スルヲ目的トス
散兵ニハ位置姿勢及銃ノ使用ニ關シ自由ヲ與フルモノトス是レ任務ヲ盡スニ便ナラシメンカ爲ナリ

地物利用ノ要旨ハ射撃ノ効力ヲ主トシ次ニ遮蔽ノ効力ヲ顧慮スルニ在リ

行進及停止

散兵ノ行進ニハ通常速歩ノ速度ヲ用フ
散兵ハ常ニ銃ヲ安全装置ニシ表尺ヲ倒シ彈藥盒ノ蓋ヲ閉チ留革ヲ掛ケ銃ハ銃口ヲ上ニシテ之ヲ提ケ適宜ノ歩法ヲ以テ運動スルモノトス
散兵停止スルトキハ銃ノ最大威力ヲ現ハシ得ヘキ位置ヲ選ヒ次テ身體ノ遮蔽ニ注意スヘシ
散兵停止セハ地物ニ應シ其姿勢ヲ選フヘシト雖若シ據ルヘキモノナキトキハ概ネ伏臥スルモノトス而シテ射撃ノ構ヲナシ銃ヲ擊發装置ニス若シ裝填シアラサ

ルトキハ直ニ裝填スヘシ

前進(退却)セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

前(後)へ

斜行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜メニ右(左)へ

直行進ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜メニ左(右)へ

速ニ前進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

駈歩

前へ

「駈歩」ノ號令ニテ散兵ハ銃ヲ安全装置ニシ表尺ヲ倒シ彈藥盒ノ蓋ヲ閉チ留革ヲ掛ケ前進ノ用意ヲ爲ス
「前へ」ノ號令ニテ散兵ハ直ニ駈歩ニテ前進ス

行進間ニ於テ速ナル歩度ニ移ラシメ或ハ之ヲ舊歩度ニ復セシムルニハ單ニ「駈歩」或ハ「速歩」ノ號令ヲ下ス

止レ

散兵ハ常ニ敵方ニ面シテ停止ス

射 擊

射擊ハ停止シテ行フモノトス
射擊ノ効果ハ通常速度ノ迅速ニ依ルコトナク射擊ノ諸規則ヲ守リ特ニ照尺裝置ヲ精密ニシ沈著シテ射擊スルコトニ依リテ求ムヘキモノトス照尺裝置ノ正シキコト据銃ノ速ニシテ確實ナルコト及特ニ目標發見ノ早キコト竝ニ視ヘ難キ目標ニ對スル照準ハ散兵ノ習熟スヘキ要件ナリ
銃ヲ地物ニ依託スルハ射擊効力ヲ發揚スルニ價値アルモノトス故ニ小ナル土塊ト雖之カ利用ヲ忽ニスヘカラス樹木ノ後方ニ在リテ立射若クハ膝射ヲ爲ストキハ左手ノ前臂ヲ樹木ニ託ス

胸牆ニ據ル射擊ハ身體ノ左側又ハ胸ヲ内斜面ニ接シ左肘或ハ兩肘ヲ臂座ニ置キ銃ヲ胸牆ニ託ス此場合ニ在リテハ左手ヲ以テ床尾ヲ握リ拇指ヲ内側ニ當テ他ノ四指ヲ外側ニ當テテ銃ヲ肩ニ引著ケ右手ヲ以テ強ク銃把ヲ握リ射擊スルヲ可トス
膝射ノ姿勢ニ在リテハ右足尖ヲ立テ臀ヲ右踵ノ上ニ載セ或ハ臀ヲ右足(右踵)ヨリ上ケ或ハ兩膝ヲ開キテ地ニ著ケ或ハ兩脚ヲ前ニ出シ臀ヲ地ニ著ケ又左手ノ掌ヲ用心鐵ニ接シテ之ヲ内ニ向ケ或ハ左肘ヲ膝ヨリ離シテ立射ノ如クスルコトアリ

第二 中隊教練

要 則

中隊ハ戰鬥ノ單位ニシテ中隊長ヲ核心トセル士氣結合ノ基礎ナリ中隊教練ハ即チ中隊ヲシテ如何ナル場合ニ於テモ中隊長ノ號令又ハ命令ニ從ヒ舉止恰モ一體

ノ如ク整正確實ニ規定ノ運動ヲ實行シ得シムルヲ主眼トス此趣旨ニ基キ能ク訓練セラレタル中隊ハ豫メ習得セサル事ト雖中隊長ノ意圖ニ應シ制式ノ適當ナル應用ニ依リ目的ヲ達シ得ルモノトス

中隊教練ヲ準備スル爲分隊及小隊ヲ以テ教練ヲ行フ

密集教練ニ在リテハ小隊長ハ要スレハ其小隊ノ爲スヘキ動作ヲ小聲ニテ豫告スルモ妨ケナシ

密集

編成

中隊ハ之ヲ三小隊ニ分チ中少尉ヲ以テ小隊長ト爲ス兵員三等分スヘカラサルトキハ第三小隊ニ一人ヲ減シ次ニ第二小隊ニ一人ヲ減ス

小隊ハ兵卒身幹ノ順序ニ從ヒ前後二列ニ排列ス其前後ニ立ちタル二人ヲ伍ト云フ兵員奇數ナルトキハ左翼ノ第二列ヲ缺ク之ヲ缺伍ト謂フ

後列兵ハ前列兵ノ背若クハ背囊ヨリ胸マテニ七十五珊米ノ距離ヲ取リテ正シク

前列兵ニ重ナリ同方向ニ位置ス

各兵卒ノ間隔ハ左手ヲ腰ニ當テ肘ヲ側方ニ張りタルトキ輕ク左隣兵ノ右臂ニ觸ルルヲ度トス

小隊ノ各伍ハ第一列ニ於テ右ヨリ左ニ番號ヲ附ス之ヲ小隊ノ正面トス

小隊ヲ若干ノ分隊ニ分チ軍曹伍長ヲ以テ分隊長ト爲シ小隊ニ於テ右翼ヨリ順序ニ番號ヲ附ス其兵員ハ四伍乃至八伍トス

小隊ノ兩翼ニ各々其翼ノ分隊長ヲ置ク其他ノ分隊長ハ分隊ノ中央伍ニ重ナリ後列ヨリ二歩ノ所ニ位置ス之ヲ押伍ト謂フ

將校ニ缺員アルトキハ特務曹長若クハ古參ノ下士ヲ以テ下士ニ缺員アルトキハ上等兵ヲ以テ之ニ代フルモノトス

隊形

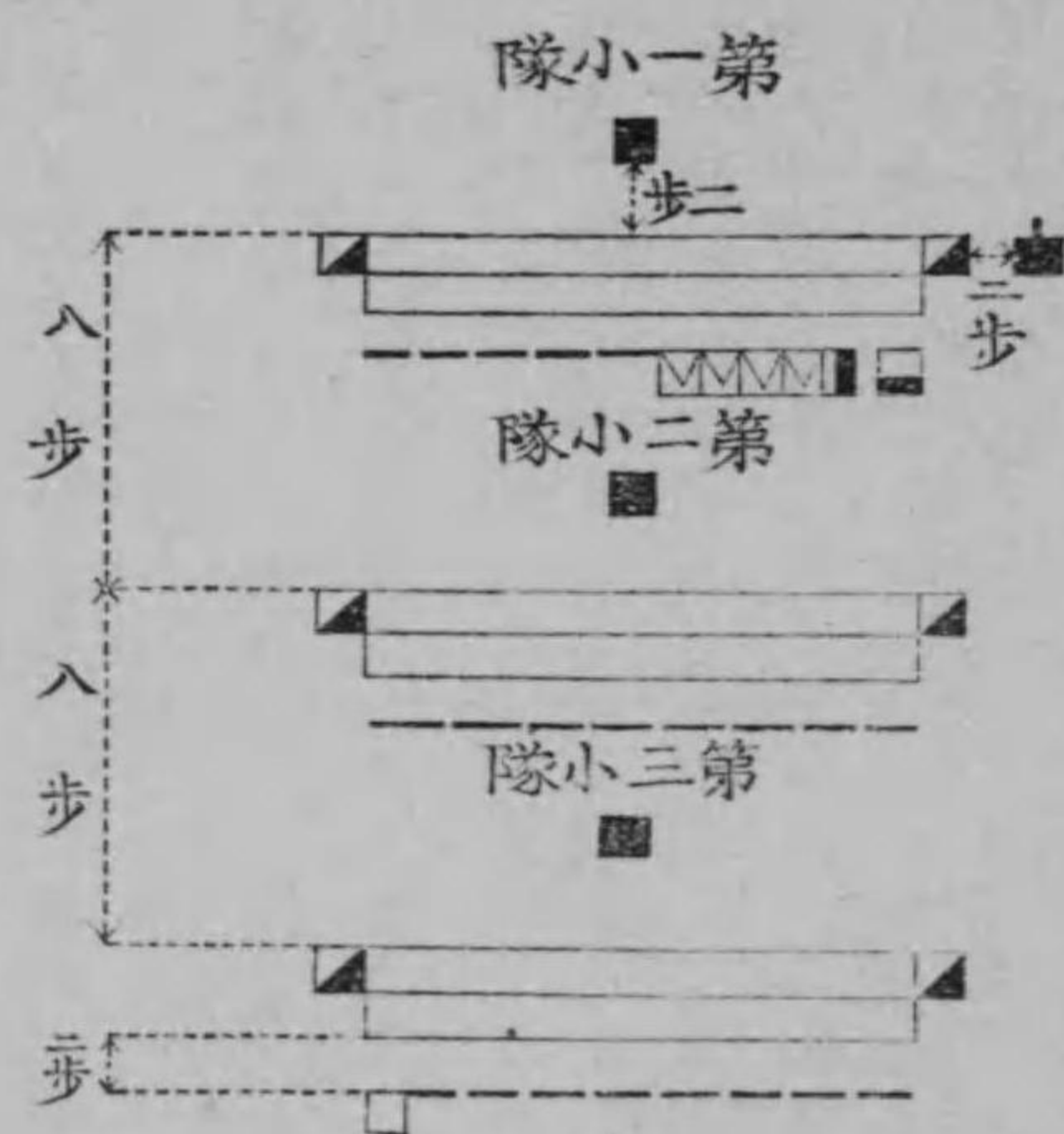
密集隊形ハ軍隊ノ集結力ヲ鞏固ニシ且指揮官ノ掌握ヲ容易ナラシムルモノニシテ敵火ノ効力甚シカラサル所ニ於テハ此隊形ヲ以テ停止シ運動スヘキモノトス

又決戦ニ際シテハ此團結ノ威力ヲ逞クスル爲之ヲ戰線ニ用フルコトアリ
 密集隊形ハ正規ト應用トニ分ツ正規隊形ハ整正嚴格ニ演練シ密集隊形ノ本旨ヲ
 發揮スヘキモノニシテ應用隊形ハ敏捷ニ之ヲ實際ニ適用スルヲ以テ目的トス
 中隊ノ正規隊形ハ中隊縱隊トス
 時宜ニ依リ八歩ノ距離ヲ伸縮シ又小隊ノ順序ニ拘ラス重疊シ或ハ小隊ヲ一列ト
 爲スコトアリ

特務曹長曹長及喇叭手ハ常ニ第一小隊ト共ニ運動ス
 中隊ノ應用隊形ハ通常併立縱隊橫隊及側面縱隊トス
 併立縱隊ハ中隊縱隊ヲ側面向ト爲シタルモノ橫隊ハ三小隊ヲ一線ニ併列シタル
 モノ側面縱隊ハ側面向ニ在ル小隊ヲ重疊シタルモノトス
 小隊長ハ併立縱隊及側面縱隊ニ在リテハ其先頭分隊長ノ外側ニ接シ橫隊ニ在リ
 テハ小隊ノ中央前二歩ニ位置ス

整頓

中隊縱隊



- 中隊長
- 小隊長
- 特務曹長
- 曹長
- 翼分隊長
- 上等看護卒
- 喇叭手
- 押伍列

整頓完全ナルトキ各兵卒ハ整頓線上ニ正シキ姿勢ヲ取り頭ヲ右(左)ニ廻ハスト
キ右(左)ノ眼ヲ以テ其右(左)隣兵ヲ視他ノ眼ヲ以テ全線ヲ視通スコトヲ得ルモ
ノトス

兵卒整頓線ニ就クトキハ頭肩又ハ上體ヲ前後ニ出スコトナク正シキ姿勢ヲ以テ
スルヲ要ス若シ足ノ位置正シカラサル者アルトキハ之カ爲兩肩整頓線ニ在ラス
シテ其害自己ニ止マラス必ス隣兵ニ及フモノトス
中隊縱隊ヲ整頓セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

嚮導(何歩)前へ

先頭小隊ノ兩翼分隊長ハ銃ヲ擔ハスシテ前進シ中隊長ハ其位置ヲ正ス
次ニ左ノ號令ヲ下ス

右(左)へ 準へ
直レ

「準へ」ノ號令ニテ中隊ハ銃ヲ擔ハスシテ前進シ最後ノ一步ヲ縮メ少シク整頓線

ノ後方ニ止リ次ニ頭ヲ右(左)ニ廻ハシ胸ヲ屈ムルコトナク小歩ニテ靜ニ整頓線
ニ就キ銃ヲ下ス但後列及押伍列ニ在ル者ハ正シク前方ノ兵卒ニ重ナリテ距離ヲ
取り右(左)ノ方ニ整頓ス

整頓翼ノ分隊長ハ速ニ整頓ノ基礎ヲ定ムル爲反對翼ノ分隊長ヲ目標トシ先ツ己
ニ近キ二三兵卒ノ位置ヲ正シ要スレハ逐次ニ整頓ヲ正ス

反對翼ノ分隊長ハ要スレハ己ニ近キ二三兵卒ノ位置ヲ正シ以テ整頓ヲ補助ス
後方小隊ノ整頓翼ノ分隊長ハ正シク距離ヲ取り前方小隊整頓翼ノ分隊長ニ重ナ
ルモノトス

「直レ」ノ號令ニテ中隊ハ頭ヲ正面ニ復ス
其位置ニ於テ整頓セシムルニハ單ニ「右(左)へ準へ」「直レ」ノ號令ヲ下ス

擔銃立銃著劍脫劍裝填及抽出

擔銃及立銃ノ操作ハ中隊齊一ニ行ヒ著劍及脫劍ハ各自ニ行フモノトス
裝填スルニハ後列兵ハ約一步右前ニ閉テ動作終レハ舊位ニ復ス彈藥ヲ抽キ出ス

トキモ亦同シ

射撃

中隊ノ射撃ハ通常小隊ヲ指定シテ行ハシメ要スレハ其位置ヲ示ス
 射撃ヲ行フニハ豫メ方向目標姿勢及照尺要スレハ照準點ヲ令スルモノトス
 正面ハ目標ニ對スル方向ト成ルヘク直角ナルヲ可トス故ニ要スレハ豫メ方向ヲ
 換フヘシ
 立射ニ在リテハ右翼分隊長ハ半右向ヲ爲シ左翼分隊長及押伍列ニ在ル者ハ動作
 スルコトナシ
 膝射(伏射)ニ在リテハ翼分隊長及押伍列ニ在ル者ハ膝射(伏射)ノ姿勢ヲ取り銃
 ヲ構フルコトナシ
 伏射ハ通常一列ニテ行フモノトス
 「立射(膝射)ノ構ヘ」ノ豫令ニテ後列兵ハ裝填ニ於ケルカ如ク距離ヲ閉ツ押伍列
 前方ニ在ルトキハ後列ノ後方ニ移ル

射撃ヲ分チテ一齊射撃及各個射撃トス

一齊射撃ヲ爲サシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

一本松ノ傍ノ密集隊

立射 (膝射 伏射)ノ構ヘ 銃

千二百 (千百) (九百)

狙ヘ

撃

「狙ヘ」ノ號令ニテ照準シ「撃」ノ號令ニテ發射シ銃ヲ構ヘ次發ノ用意ヲ爲ス續キ
 テ射撃セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

狙ヘ

撃

各個射撃ヲ爲サシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

森ノ右ニ現ハレタル砲兵

步兵操典摘要 第一部教細 第二中隊教練

立射 (膝射) 伏射ノ構へ 銃

九百 (七百) (四百)

各個ニ撃テ

兵卒ハ各個ニ射撃ヲ連續ス

射撃ヲ止メタルトキハ右翼分隊長及後列兵ハ舊位ニ復ス

二種ノ照尺ヲ用フルトキハ第一列ハ近キ照尺第二列ハ遠キ照尺ヲ取ルモノトス
散開シタルトキモ亦之ニ準ス

右(左)向及後向

中隊右(左)向ヲ爲セハ偶數兵(奇數兵)ハ奇數兵(偶數兵)ノ右(左)ニ出テ伍ヲ組
ミ四兵卒相併ヒ側面向トナル

翼分隊長及押伍列ニ在ル者ハ各々其位置ニ在リテ右(左)向ヲ爲ス

側面向ニ在リテ左(右)向ヲ爲セハ伍ヲ解キ正面向トナリ兵卒各自ニ右(左)ノ方
ニ整頓ス

中隊後向ヲナセハ翼分隊長及缺伍ハ前列ニ就ク

行進

直行進ハ常ニ右方ニ嚮導ヲ取ル若シ左方ニ取ルトキハ特ニ之ヲ示スヘシ

中隊長ハ號令ヲ下スニ先チ通常行進目標ヲ先頭小隊ノ右(左)翼分隊長ニ示スモ
ノトス

中隊ハ一齊ニ行進ヲ起シ嚮導ニ準ヒテ行進シ嚮導ハ列兵ニ關スルコトナク正規
ノ歩長ト速度トヲ保チ與ヘラレタル目標ニ向ヒ若クハ正面ト直角ニ行進ス

各兵卒ハ嚮導ノ方ニ整頓スル爲頭ヲ廻ハスコトナク常ニ隣兵ニ注意スヘシ然レ
トモ一般ニ整頓ハ歩長及速度ノ齊一ト間隔ノ保存トニ依リテ保チ得ルモノトス

後方小隊ノ嚮導ハ其前方小隊ノ嚮導ノ足跡ヲ踏ミ常ニ八歩ノ距離ヲ保ツヘシ
行進中嚮導ヲ他翼ニ取ルヲ要スルトキハ「嚮導左(右)」ノ號令ヲ下ス

行進間ノ右(左)向及後向ハ前ニ述ヘタルト同要領ニ從フ側面向ヨリ正面向ニ移
リ續キテ行進スルトキ要スレハ嚮導ヲ示スヘシ

側面向ノ行進ニ在リテハ各兵卒ハ常ニ舊正面ノ方ニ整頓シ嚮導ノ後ロニ在ル兵卒ハ其足跡ヲ踏ミテ行進シ其他ノ兵卒ハ列中ニ在リテ互ニ重ナリ直前ニ在ル兵卒ノ頭ヲ以テ其前方兵卒ノ頭ヲ掩フ如ク行進ス此行進ニ於テ先頭四兵卒ノ整頓不正ナルトキハ其害各列ノ整頓ニ及フモノトス

併立縦隊ノ行進ニ在リテハ通常基準小隊ヲ示スモノトス

斜行進ニ在リテ各兵卒ノ位置正シキトキハ其肩互ニ平行シ右(左)斜行進ニ在リテハ各兵卒ノ右(左)肩其右(左)隣兵ノ左(右)肩ノ後ロニ在ルモノトス

各兵卒ハ常ニ斜行スル方ニ整頓ス

直行進ニ復シタルトキ要スレハ「嚮導右(左)」ノ號令ヲ下ス

行進間兵卒ノ守ルヘキ要件左ノ如シ

嚮導何レノ方ニ在ルモ常ニ頭ヲ正シク保ツコト

整頓翼ヨリ押シ來タルトキハ之ニ從ヒ反對ノ方ヨリ押シ來ルトキハ之ヲ支フルコト

整頓線ヨリ進ミ或ハ後レ又間隔ヲ失ヒタルトキハ漸次ニ回復スルコト

若シ歩ノ違ヒタルトキハ踏替ヲナシ速ニ整頓翼ノ方ナル隣兵ノ歩ニ準フヘシ

踏替ヲ爲スニハ後ロノ足ヲ前ノ足ニ引著ケ前ノ足ヨリ行進ス駈歩ニ在リテハ

片足ニテ二步行進ス足踏間ニ在リテハ駈歩間ノ方法ニ準ス

「步調止メ」ノ號令アルトキ野外ニ在リテハ必スシモ歩ヲ揃フルヲ要セス

中隊ヲ止ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

中隊 止レ

中隊ハ停止シ兵卒各自ニ嚮導ノ方ニ整頓ス側面向ニ在リテハ動クコトナシ

側面向ニ在リテ行進セルトキ之ヲ止メ直ニ正面ニ向カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

左(右)向ケ 止レ

中隊ハ停止シ各自伍ヲ解キ左(右)向ヲナシ嚮導ノ方ニ整頓ス

方向ヲ換ヘ

方向ヲ換フルニハ停止間ニ在リテハ銃ヲ擔フコトナク歩度ヲ伸ハシテ行ヒ若シ
 駈歩ヲ以テ之ヲ行フヲ要スルトキハ豫令ノ次ニ「駈歩」ノ號令ヲ加ヘ行進間ニ在
 リテハ常ニ駈歩ヲ用フ而シテ駈歩ヲ爲ストキハ豫令ニテ劍鞘ヲ握ルモノトス
 中隊縱隊ノ方向ヲ換ヘシムルモノニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)ニ方向ヲ換ヘ

進メ

停止間ニ在リテハ先頭小隊ノ軸翼ニ在ル分隊長ハ右(左)向ヲ爲シ其他ハ半右
 (左)向ヲナシ捷路ヲ經テ逐次新線ニ到リテ停止シ其右(左)隣兵ニ整頓ス後方小
 隊ハ兵卒各自ニ己ノ占ムヘキ位置ニ到リ右(左)ノ方ニ整頓ス
 行進間ニ在リテハ先頭小隊ハ方向ヲ換ヘ續キテ行進シ後方小隊ハ先頭小隊ト同
 所ニ到リ號令ナクシテ方向ヲ換ヘ先頭小隊ニ續行ス中隊長ハ先頭小隊ノ方向ヲ
 換ヘ終ラントスルトキ要スレハ嚮導ヲ示ス

橫隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ前ト同一ノ號令ヲ用ヒ中隊縱隊ノ先頭小隊ニ準シ
 テ之ヲ行フ但行進間ニ在リテハ軸翼ノ者ハ足踏ヲ爲シ其他ノ者ハ駈歩ヲ以テ逐

次新線ニ就キ中隊長ノ號令ニ依リ前進スルモノトス

側面縱隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ「伍々左(右)へ進メ」ノ號令ヲ下ス此號令ニテ
 先頭伍ハ小ナル環形ヲ歩ミ停止間ニ在リテハ前進ヲ起スト同時ニ以上ノ動作ヲ
 ナシ旋回軸ニ在ル兵卒ハ最初ノ數歩ヲ縮メ外翼ニ在ル兵卒ハ正規ノ歩長ヲ以テ
 行進シ常ニ旋回軸ノ方ニ整頓シツツ左(右)ニ方向ヲ換ヘ續キテ行進ス各伍ハ其
 前ノ伍ト同所ニ到リ同法ヲ以テ方向ヲ換フ

併立縱隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ「右(左)ニ方向ヲ換ヘ進メ」ノ號令ヲ下ス此號
 令ニテ停止間ニ在リテハ軸翼ニ在ル小隊ハ伍々右(左)ニ方向ヲ換ヘ小隊ノ深サ
 タケ新方向ニ進ミテ停止シ他ノ小隊ハ逐次其齊頭ニ到リテ停止ス

行進間ニ在リテハ軸翼ニ在ル小隊ハ前ト同法ヲ以テ方向ヲ換ヘ續キテ行進シ其
 他ノ小隊ハ逐次其齊頭面ニ到リ續キテ行進ス

少シク方向ヲ換ヘシムルニハ豫メ新目標(方向)ヲ示スヘシ

隊形變換

隊形ヲ換フルニハ既ニ掲クル諸制式ニ從ヒ實施スルノ外次ノ要領ニ從フヘシ

一、中隊縱隊ヨリ横隊ヲ作ルコト

號令 横隊作レ 進メ

動作、 小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭小隊ハ動カサルカ或ハ續キテ行進シ中央小隊

ハ右斜メニ後尾小隊ハ左斜ニ行進シ先頭小隊ノ線ニ出テ之ニ整頓ス

二、一側ニ横隊ヲ作ルコト (中隊縱隊ヨリ)

號令 右へ横隊作レ 進メ

或ハ 左へ横隊作レ 進メ

動作、 停止間ニ在リテハ先頭小隊ハ動カス中央及後尾小隊ハ右斜(若クハ左

斜)ニ進ミ先頭小隊ノ線ニ出テ之ニ整頓ス

行進間ニ在リテハ右ノ動作ヲ駈歩ニテ行フ

三、横隊ヨリ中隊縱隊ヲ作ルコト

號令 中隊縱隊作レ 進メ

動作、 停止間ニ在リテハ中央小隊ハ動カス其他ノ小隊ハ捷路ヲ經右翼小隊ハ

中央トナリ左翼小隊ハ後尾トナリ中隊縱隊ノ定位ニ到ル

行進間ニ在リテハ中央小隊ハ續キテ行進シ其他ノ小隊ハ足踏ヲ爲シツ

ツ適當ノ距離ヲ取り右翼小隊ハ斜左ニ左翼小隊ハ斜右ニ駈歩ニテ進ミ

正規ノ距離ヲ取り先頭小隊ニ續行ス

四、翼小隊ヲ基準トシテ中隊縱隊ヲ作ルコト

號令 右へ中隊縱隊作レ 進メ

或ハ 左へ中隊縱隊作レ 進メ

動作、 停止間ニ在リテハ右(左)翼小隊ハ動カス中央小隊ハ右翼(左翼)小隊ノ

後ロニ左翼(右翼)小隊ハ尙其後ロニ捷路ヲ經テ進ミ重疊シ各八歩ノ距

離ヲ取ル

行進間ニ在リテハ右翼(左翼)小隊ハ行進ヲ續ケ中央及左翼(右翼)小隊

ハ足踏ヲ爲シ適當ノ距離ヲ取レハ駈走ニテ斜右(斜左)行進ヲ爲シ各八

歩兵操典摘要 第一部教練 第二中隊教練

歩ノ距離ヲ取ル

五、側面縱隊ヨリ同方向ニ中隊ノ横隊ヲ作ルコト

號令 左へ並ヒ 進メ

或ハ 右へ並ヒ 進メ

動作 先頭ニ在ル分隊長ハ動かサルカ或ハ足踏ヲナシ各自ハ伍ヲ解キ捷路ヲ

經テ新線ニ就キ右(左)方ニ整頓スルカ或ハ之ニ準ヒテ足踏ヲ爲ス行進

間ニ在リテハ次テ「前へ進メ」ノ號令ヲ下ス

六、側面縱隊ヨリ同方向ニ中隊縱隊ヲ作ルコト

號令 中隊縱隊作レ 進メ

動作 小隊長ノ指示ニ從ヒ小隊毎ニ(左へ並ヒ進メ)ノ動作ヲ爲シテ横隊ヲ作

リ後方小隊ハ定規ノ距離ヲ作ル但行進間ニ在リテハ足踏ヲ爲スコトナ

シ

七、側面縱隊ヨリ同方向ニ併立縱隊ヲ作ルコト

號令 併立縱隊作レ 進メ

動作 小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭小隊ハ動かサルカ或ハ續キテ行進シ中央小隊

ハ右方ニ後尾小隊ハ左方ニ定規ノ間隔ヲ得ル如ク進出ス

八、一側ニ併立縱隊ヲ作ラシムルコト

號令 左へ併立縱隊作レ 進メ

或ハ 右へ併立縱隊作レ 進メ

動作 先頭小隊ハ動かサルカ或ハ續キテ行進シ中央小隊ハ其左方(右方)ニ後

尾小隊ハ尙其左方(右方)ニ定規ノ間隔ヲ得ル如ク進出ス

突 撃

中隊突撃ヲ爲ストキハ喇叭手ハ突撃ノ譜ヲ連奏ス敵ヲ撃退スルヤ前線ニ在ル小
隊ハ成ルヘク速ニ追撃射撃ヲ始ムヘシ後方ニ在ル小隊ハ地域ノ許ス限り側方ニ
進出シテ追撃射撃ニ加ハルヲ要ス

夜間ノ突撃ハ至近ノ距離ニ於テ行ヒ喇叭ヲ吹カス喊聲ヲ發セサルモノトス

途 步

行進間途歩ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

號令 途歩

陣中要務令ノ規定ニ從フ即チ歩ヲ調フルヲ要セス特別ノ時ヲ除クノ外ハ談話シ唱歌シ刀ハ鞘ニ納メ銃ハ各兵ノ欲スル所ニ從ヒ(要スレハ中隊長之ヲ規定ス)右肩(左肩)ニ擔ヒ或ハ負革ヲ以テ肩ニ懸クヘシ

途歩行進間速歩(駈歩)ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

號令 速歩(駈歩) 進メ

又銃及解銃

又銃及解銃ハ注目シテ之ヲ行フモノトス

又銃ヲ爲サシムルニハ著劍ノ後左ノ號令ヲ下ス

又メ銃

奇數伍ノ前列兵ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ銃身ヲ前ニシツツ床尾踵ヲ右足尖

ヨリ床尾鉞ノ三倍タケ前ニ出シ右手ヲ放チ銃ヲ左ノ方ニ傾ク

偶數伍ノ前列兵ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ床尾踵ヲ左足尖ヨリ床尾鉞ノ三倍

タケ前ニ出シ銃身ヲ後ロニシ右手ヲ放チ銃ヲ右ノ方ニ傾ケ右隣兵ト鏢ヲ組合ス

奇數伍ノ後列兵ハ左手ヲ以テ下帶ノ上ヲ握リ兩手ヲ以テ銃ヲ上ケ右足ヲ踏出シ

既ニ組ミタル前列兵ノ鏢ニ組合シ床尾踵ヲ左隣兵トノ間隔ノ中央前ニ置ク

偶數伍ノ後列兵ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ銃身ヲ右斜ニシ左足ヲ踏出シ其照

星ノ下ノ所ヲ既ニ組ミタル鏢ノ左ニ寄セ掛ケ銃ハ奇數伍ノ後列兵ノ銃ト平行ニ

ス

左翼伍奇數ナルトキハ翼分隊長或ハ押伍列ニ在ル者ト又銃ヲ爲ス已ムヲ得サレ

ハ著劍ヲ爲スコトナク棚杖ヲ以テ又銃ヲ爲スコトアリ

又銃ヲ解カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

解ケ銃

偶數伍ノ後列兵ハ左足ヲ踏出シ右手ヲ以テ其銃ヲ取り其他ノ三名(奇數伍ノ後列

兵ハ右足ヲ踏

シ出)ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ銃ヲ上ケ靜ニ交叉ヲ解キ立銃ヲ爲ス

解レ及集レ

中隊ヲ解散セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

解レ

又銃ニ在ルトキ各自之ニ觸ルルコトナク解散スヘシ

翼分隊長及押伍列ニ在ル者ノ銃ハ適宜列兵ノ又銃ニ寄せ掛ルモノトス但一又銃ハ五挺ヲ超ユヘカラス

中隊ヲ集合セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

集レ

右翼分隊長ハ速ニ中隊長ノ前ニ來リ中隊縱隊ノ定位ニ就キ各自ハ其ノ方ニ番號ノ順序ニ從ヒ二列トナリ整頓ス

又銃ヲ爲シ解散シアルトキハ各自ハ直ニ又銃ノ所ニ集リ靜ニ己ノ位置ニ就ク翼

分隊長及押伍列ニ在ル者ハ其銃ヲ取ル

散開

要旨

散開隊形ハ歩兵戰鬪ノ主要ナル制式ニシテ之ヲ以テ火戰ヲ行フノミナラス多クノ場合ニ於テ突撃モ亦此隊形ヲ以テ行フモノトス然レトモ散開隊形ノ指揮ハ困難ニシテ動モスレハ軍隊ハ指揮官ノ手裏ヲ脱シ易キカ故ニ散開ノ時期ハ過早ナラサルヲ要ス

中隊獨立シテ戰鬪スルハ例外ノ場合ノミニシテ通常大隊内ニ在リテ戰鬪スルモノトス

大隊内ニ在ル中隊ハ其負擔スヘキ正面(約百五十米突)ニ所要ノ散兵ヲ配布シ他ノ中隊ト協同シテ戰鬪ス而シテ中隊長ハ専ラ正面前ノ狀況ニ注意スヘシト雖側方及背後ニ於ケル狀況モ亦顧慮スルヲ要ス

獨立スル場合ニ在リテハ全ク獨力ヲ以テ戰鬪シ且自ラ側方ヲ警戒セサルヘカラ

ス故ニ成ルヘク永ク援隊ヲ控置スルヲ要ス
中隊既ニ陣地ヲ占領セハ其配備ハ地形ニ適合セサルヘカラス故ニ通常所要ノ小
隊ニ散開地域ヲ示シ爾餘ノ小隊ヲ後方ニ控置ス而シテ未タ火線ニ就クヲ要セサ
ル間ハ遮蔽ヲ主トシ所要ノ監視兵ヲ出シ警戒スヘシ何レノ場合ニ在リテモ前方
及側方ニ斥候ヲ派遣シ又必要ナル地點ノ距離ヲ測定シテ之ヲ標示スルヲ要ス

幹部及兵卒ノ責務

一般ノ通則

凡ソ幹部ハ困難ニ遭遇スル毎ニ益々勇氣ヲ倍加シ常ニ部下ノ志氣ヲ鼓舞激勵セ
サルヘカラス特ニ突撃ニ際シテハ滿身ノ氣力ヲ奮ヒ率先敵陣ニ突入シ奮戰勇闘
以テ勝利ヲ得ルコトニ全力ヲ盡スヘシ
戰鬪間命令通報及報告ノ傳達ハ最モ迅速確實ナルヲ要ス故ニ其方法ト熟練トハ
持ニ幹部ノ意ヲ用フヘキ要件ナリ

戰鬪ハ行軍及劇働ヲ爲シ日缺乏ニ堪ヘタル後始マルヲ常トス而シテ數晝夜ニ亘
ルコト多シ故ニ各自勇猛沈著ニシテ自信ト耐忍トニ富ミ歩兵戰鬪ノ慘烈ナル感
情ニ克チ以テ戰鬪ノ要求ヲ充足シ得サルヘカラス

一、戰鬪間中隊長ノ責務

- a. 中隊ノ一部若クハ全部ヲ散開スヘキヤ
- b. 全線若クハ一部毎ニ前進スヘキヤ
- c. 射撃目標ヲ示スコト
- d. 距離ヲ測定シ照尺ヲ定メ射撃ノ開始ヲ命シ彈著ヲ觀測ス
- e. 敵情及比隣部隊ノ動作ニ注意スルコト
- f. 散兵線ニ近クシテ全線ヲ通視シ敵情ヲ觀察シ且中隊ヲ指揮スルニ適宜ナル位置ニアルコト
- g. 大隊長ト確實ニ連絡ヲ保ツコト
- h. 戰線ノ狀況ヲ適時大隊長ニ報告シ或ハ比隣中隊長竝ニ部下小隊長ニ知ラ

二、戰鬪間小隊長ノ責務

シムルコト

- a. 戰鬪ノ指揮ニ關シ中隊長ヲ輔佐シ其意圖ヲ確實ニ其小隊ニ實施セシムルコト
- b. 所要ニ應シ中隊長ノ號令ヲ復令スルコト
- c. 射撃ニ便ナル位置ニ小隊ヲ誘導シ射撃目標ヲ示スコト
- d. 各分隊ノ占有位置適當ナルヤ射撃ノ諸法則ヲ守ルヤ否ヤヲ監視スルコト
- e. 敵情ニ注意シ彈著ヲ觀測シ中隊長ニ報告スルコト
- f. 携帶彈藥數ヲ顧慮シ射撃ノ應用ヲ適切ナラシメ隣接小隊ト協同動作スルコト
- g. 戰況ニヨリ小隊長ハ獨斷ヲ以テ射撃ノ指揮ヲ爲シ散兵線ノ運動ヲ規定スルコト

三、戰鬪間分隊長ノ責務

- a. 分隊長ハ小隊長ヲ輔佐シ號令普及ヲ以テ主要ノ任務トス
- b. 分隊長ハ要スレハ中隊長小隊長ノ號令ヲ復令スルコト
- c. 其分隊ヲ誘導シテ射撃ニ便ナル位置ニ就カシメ敵情ニ注意ス
- d. 兵卒能ク地物ヲ利用スルヤ正シキ照尺ヲ裝スルヤ目標ノ選定宜シキヤ精密ニ照準シ沈著シテ射撃スルヤ彈藥ヲ浪費セサルヤ能ク指揮官ニ注意スルヤヲ監視スルコト
- e. 必要ト認ムレハ自ラ火線ニ加ハリ射撃スルコト
- f. 小隊長ニ代ハリ小隊ヲ指揮スルコトアルコト

四、戰鬪間兵卒ノ責務

- a. 兵卒ハ勇猛沈著ニシテ自信ト耐忍トニ富マサルヘカラス
- b. 敵ノ火力熾ニシテ死傷極メテ多キトキト雖從容自若トシテ事ニ當リ決シテ逡巡スヘカラサルコト
- c. 疑懼退走ハ敗滅ニ陥リ猛烈果敢ナル前進ハ常ニ勝利ヲ得ヘキモノナルコト

トヲ銘肝スルコト

- d. 防禦ニアリテハ專心其位置ヲ固守シ敵兵愈々接近スルニ從ヒ我カ火器ノ殺傷力益々多キコトヲ確信シ泰然逆襲ノ時機ヲ待ツコト
- e. 彈藥ヲ射盡シ又ハ敵ノ重圍ニ陥リタルトキハ自己ノ銃劍ニ信賴シ最後ノ勝利ヲ求ムルコト
- f. 負傷シテ戰鬪ニ堪ヘス戰線ヲ退ク場合ハ其所有ノ彈藥ヲ戰友ニ渡スコト
- g. 數個ノ中隊混淆シ新ニ區分セラレサルトキハ最寄分隊長ノ指揮ヲ受ケ奮闘スルコト
- h. 恣ニ所屬部隊ヲ離ルルヲ得ス又戰線ヲ去リ或ハ戰鬪中命令ヲ受ケスシテ負傷者ヲ介護若クハ運搬ス可カラサルコト
- i. 若シ其所屬部隊ノ所在ヲ失ヒタルトキハ近傍ニ於テ戰鬪スル部隊ニ合シ其將校ニ届告シ其命ニ從ヒ戰鬪終レハ直ニ其所屬部隊ニ復歸スルコト

散兵線ノ構成

散開ハ順序正シク靜肅且迅速ニ諸方向ニ施行シ得ルヲ要ス

散開スルトキ各散兵ノ間隔ハ約二步ヲ定規トス要スレハ之ト異ナル間隔ヲ取ラシムルコトアリ

中隊ハ中隊長ノ下ス散開ノ號令ニテ通常散兵線ト援隊ニ區分セラルルモノトス援隊ハ中隊長ノ指示ニ從ヒ必要ノ距離ヲ得ル迄通常其位置ニ停止ス

停止或ハ行進シアル中隊ヲ前方ニ散開セシムルニハ散開スヘキ小隊基準要スレハ小隊ノ關係位置ヲ示シタル後左ノ號令ヲ下ス

散レ

基準兵ハ眞直ニ前進シ其他ノ者ハ駈歩ヲ以テ右若クハ左ニ斜行シ間隔ヲ取り後列兵ハ其前列兵ノ左側ニ出テ續キテ前進ス

其位置ニ於テ散開セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

其場ニ散レ

基準兵ハ其場ニ位置ヲ占メ他ノ者ハ右若クハ左向ヲ爲シ駈歩ヲ以テ間隔ヲ取ル

側面縱隊ニテ停止或ハ行進シアル中隊ヲ前方ニ散開セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス (其位置關係ヲ示ス)

左(右)へ散レ

先頭ニ在ル小隊ノ嚮導ノ直後ノ兵卒ハ行進ヲ起スカ或ハ續キテ行進シ各伍ハ分解シ駈歩ヲ以テ左(右)ニ斜行シ捷路ヲ經テ散開シツツ新線ニ就ク

側面縱隊ニテ停止或ハ行進シアル中隊ヲ其場ニ散開セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス (其位置關係ヲ示ス)

其場ニ左(右)へ散レ

其場ニ位置ヲ占ムル外散開ノ動作前ニ同シ

退却スル中隊ヲ散開セシムルニハ先ツ敵方ニ向ケ次ニ散開ノ號令ヲ下スモノトス

定規外ノ間隔ニ散開セシムルニハ「散レ」ノ前ニ「何歩ニ」ヲ加フヘシ

斜方向ニ散開セシムルニハ號令ノ前ニ目標(方向)ヲ示スヘシ

散兵線ノ運動

散兵線ノ運動ハ勉メテ秩序ト連繫トヲ維持シ成ルヘク速ニ敵ニ接近スルヲ主要トス

散兵ハ必スシモ整頓及間隔ヲ墨守スルヲ要セス是レ地形ヲ充分利用センカ爲ナリ然レトモ散兵線ノ各部ハ運動中行進方向ヲ保チ且其正面ヲ擴ケサルコトニ注意シ又若干兵卒ノ遮蔽ヲ顧慮シテ全隊一致ノ運動ヲ妨クルコトナキヲ要ス

行進方向ヲ保チ長距離且困難ナル地形ニ於テ連繫スル散兵線ノ秩序アル運動ハ教練ノ最モ必要ナル事トス

散兵ハ營ニ其長ノ指揮ニ從フノミナラス尙停止及行進間ニ於テ其隣兵ニ注意スルヲ要ス

敵火ノ下ニ在リテ散兵線ヲ側方ニ移スハ不利ナリ然レトモ其効力未タ甚シカラサル間ハ斜行進ニ依リテ僅ニ其行進方向ヲ移スコトヲ得ヘシ

散兵線ノ運動ハ通常速歩ノ速度ヲ用フルモノトス但敵ノ有効射撃下ニ在リテ一

地區ヨリ一地區ニ達スル爲ニハ駈歩ヲ用ヒ時宜ニ依リ其歩度ヲ速ムルヲ要スル
コトアリ而シテ其經過スヘキ行程長キトキハ若干距離毎ニ停止スルヲ可トス
一躍シテ經過スヘキ距離ハ土地ノ景況軍隊ノ狀態敵火ノ強弱等ニ依リ一定セス
ト雖成ルヘク短キニ失セサルヲ要ス然レトモ百米突ヲ超ユルトキハ往々照準ノ
精度ヲ害スルニ至ルコトアリ

前進愈々困難ナルトキハ敵火ノ狀態ニ考ヘ散兵線ヲ區分シ交互ニ前進セシムル
コトアリ然レトモ之カ爲前進益々遲緩シ且指揮ノ統一ヲ困難ナラシムルモノナ
ルカ故ニ縦ヒ之ヲ行フトキト雖小隊ニ充タサル兵力ヲ以テスルコトヲ避クヘシ
散兵線ハ動モスレハ其地ニ固着シ易キモノ故一地ニ永ク停止セシムルコトヲ避
ケ間斷ナク勇進スルノ氣勢ヲ保持セシムヘシ

散兵線ハ中隊長ノ號令ニ依リ其指示スル目標ニ向ヒ前進ス

散兵ハ分隊長ヲ 分隊長ハ小隊長ヲ 小隊長ハ中隊長ノ中央ヲ基準トシテ行進シ
分隊長及小隊長ハ通常中央前ニ在リテ其部下ヲ誘導ス要スレハ中隊長ハ基準小

隊ヲ示ス

散兵線ヲ區分シテ前進セシメントスルトキハ豫メ其區分ヲ示スヘシ

散兵ハ分隊長ノ誘導スル位置ニ停止ス

停止或ハ行進セル散兵ノ方向ヲ換ヘシムルニハ新目標(方向)ヲ示シ左ノ號令ヲ
下ス

右(左)ニ方向ヲ換ヘ

軸翼ニ在ル分隊長ハ若干ノ兵卒ヲ新方向ニ止ラシメ散兵ハ駈歩ニテ新線ニ到リ
停止ス

散兵線ノ射撃

散兵線ノ射撃ハ各個射撃ヲ用フルヲ常トス是精密ニ照準シ好機會ヲ待チテ發射
シ最大ノ効力ヲ收メ得ヘケレハナリ
指揮官若シ射撃ノ速度ヲ増減スルノ必要ヲ認ムルトキハ「尙早ク」或ハ「尙遅ク」
ノ注意ヲ與フルモノトス

射撃スヘキ目標ノ全正面ニ射撃ヲ分配スルコトハ特ニ緊要ナリ故ニ各個射撃ニ在リテハ示サレタル目標ノ幅員中己ニ對向セル部ニ射撃ヲ向クルモノトス
 一齊射撃ハ敵ノ有効射撃ヲ被ラサル時ノミ應用シ得ルニ過キサルモノトス是レ一齊射撃ハ軍隊ヲ掌握シ得ルノ利アリト雖戰鬪ノ喧噪ナル時ニ方リテハ密集セル小隊ト雖尙聲音ヲ達セシムルコト難ク散開セル小隊ニ於テハ一層困難ナルモノナレハナリ

射撃指揮ノ良好ナル基礎ハ正確ナル距離ノ測定ニ在ルモノトス

近距離 六百米突以内ヲ云フ

中距離 六百米突以上千米突以内ヲ云フ

遠距離 千米突以上ヲ云フ

近距離ニ於テハ低キ目標ト雖好成績ヲ收メ得ヘシ然レトモ中距離ニ於テハ多數ノ彈藥ヲ用フルニアラサレハ十分ノ効力ヲ收メ難シ遠距離ニ在リテハ特ニ有利ノ目標ニアラサレハ射撃セサルモノトス

射撃ノ開始ハ必ス十分ナル好果ヲ豫期シ得ヘキトキ若クハ射撃スルニアラサレハ敵ニ接近スルニ多クノ犠牲ヲ供スヘキ場合ニ於テスルモノトス精練ナル軍隊ハ縦ヒ敵火ノ下ニ在リテモ我カ射撃効力ヲ現ハス能ハサルトキハ自若トシテ妄ニ射撃セサルモノナリ

射撃目標ハ最も多ク我ニ危害ヲ與フルモノヲ選フヘシ多クノ場合ニ在リテハ對抗スル敵ノ歩兵ヲ選フヘシト雖砲兵ヲ射撃スルコトモ亦忽ニスヘカラス

目標ヲ示スニハ隣接中隊ノ目標トノ間ニ空隙ヲ存セサルコトニ注意スヘシ

目標ノ指示困難ナルトキハ其近傍ノ地物ヲ示シテ其補助ト爲スヘシ且目標ハ特ニ必要ナル場合ニアラサレハ變換スヘカラス是屢目標ヲ換フルトキハ射撃ヲ錯亂スルヲ以テナリ

距離ヲ確知シ難キトキ遠キ距離ニ在リテハ百米ノ差アル二種ノ照尺ヲ用フルヲ可トス

距離ノ測定ハ多クノ場合目測ニ依ルモノナレトモ若シ近傍ニ於テ射撃セル砲兵

若クハ歩兵アレハ之ニ間フコト肝要ナリ
射撃効力ノ觀測ハ最モ必要ナリ是絶ニス彈著ヲ注視シ且敵ノ状態ヲ視察スルト
キハ之ニ依リテ射撃指揮ヲ適當ナラシムルコトヲ得ルヲ以テナリ

援隊

援隊ノ用途ハ散兵線ヲ増加シ又敵襲ノ虞アル側面ヲ掩護スルニ在リ故ニ援隊ノ
位置ハ此趣旨ニ依リ定ムルモノトス
散兵線ノ翼ヲ隣接ノ中隊若クハ障碍物ニ依託セサルトキハ援隊ヨリ斥候ヲ出シ
側方ノ搜索ニ任セシムヘシ (戰鬪斥候)
援隊ト散兵線トノ距離ハ戰況ト地形トニ依リ定マルモノニシテ其主トスル所ハ
時機ヲ失セス散兵線ヲ援助シ得ルニアリ
援隊ハ地形ヲ利用シ密集隊形ヲ保チテ散兵線ノ運動ニ從フモノトス
敵火ノ効力ヲ減スル爲要スレハ小隊或ハ分隊毎ニ分離シ或ハ一時散開隊形ヲ取
ルコトアリ而シテ二小隊相合スルトキハ古參ノ小隊長之ヲ指揮ス

援隊ノ長ハ命令ニ應シテ直ニ散兵線ヲ援助シ得ンカ爲敵及散兵線ノ狀況ニ適應
スル如ク援隊ヲ誘導シ成ルヘク中隊長ヨリ通視セラルル所ニ位置スヘシ若シ遠
隔スルトキハ中間ニ傳令ヲ配置ス

散兵線ノ増加ハ中隊長ノ命令ヲ以テ伍間ニ入レ或ハ翼側ニ伸ハス
兩側ヲ依託セル中隊ハ其正面ニ多クモ二小隊ヲ散開シ得ルニ過キス故ニ火線ノ
増加ハ伍間ニ於テ行ハルルヲ常トス
一翼ヲ依託スル中隊又ハ獨立シテ戰鬪スル中隊ハ多クハ延伸増加ヲ爲シ得ルモ
ノトス

増加ヲ命セラレタル部隊ハ其長ノ號令ヲ以テ散開シ伍間増加ニ在リテハ散兵線
ノ間隔ニ入ル如ク延伸増加ニ在リテハ散兵線ノ翼ニ連接スル如ク其位置ニ到ル
ヘシ
伍間増加ニ在リテハ各小隊長及分隊長ハ成シ得レハ必ス新ニ其部下ヲ區分スヘ
シ

突擊及追擊退却

戰鬪ノ進捗ニ從ヒ損傷ヲ補充シ尙散兵ヲ増加シテ火力ヲ増シ漸次敵ニ近接シ適時銃劍ヲ著ケ終ニ敵ニ肉薄シ得ルニ至レハ中隊長ハ率先頭ニ立チ中隊ノ全力ヲ擧ケテ猛烈果敢ニ敵陣ニ突入スヘシ中隊ノ精神的團結ノ鞏固ハ實ニ此瞬間ニ發現スルモノナリ

一回ノ突擊ニシテ若シ成功セサルトキハ再三再四突擊ヲ反復スヘシ苟モ死力ヲ竭シテ奮戰セハ如何ニ頑強ナル敵ト雖終ニ敗滅ニ陥ラシムルコトヲ得ヘシ

突擊功ヲ奏セハ敗退スル敵ニ向ヒ直ニ追擊射擊ヲ行フヘシ此際沈著セル散兵ノ射擊ハ多大ナル効果ヲ收メ殆ト敵ヲ殲滅スルニ至ルモノトス

退却ヲ命セラレタルトキハ全線同時ニ退却スルヲ有利トス時トシテハ散兵線ノ一部ヲシテ敵ヲ抗拒セシメ以テ他部隊ノ退却ヲ掩護セシムルコトアリ尙援隊ヲ有スルトキハ成ルヘク側方後ノ地點ヲ占領シ射擊ヲ以テ前線ノ退却ヲ收容セシムルヲ利トスルコトアリ

退却ハ秩序ヲ保チ整然トシテ行ヒ號令ナクシテ駈歩ヲ爲スヘカラス此際幹部ハ特ニ部下ヲ掌握スルコトヲ勉ムヘシ

集レ及併セ

戰鬪中兵力ヲ集結スルヲ必要トスルトキハ集合若クハ併合ヲ行フ又戰鬪結局後若クハ敵ノ追擊ヲ受ケサルニ至レハ直ニ中隊ヲ集合スルモノトス

集レ

散兵線ノ集合號令

併セ

小隊長ハ之ヲ復令ス散兵ハ各自ノ定位ニ復スルカ(若クハ復セス)駈歩ニテ小隊長ノ許ニ至ル

集合及併合ハ小隊或ハ分隊毎ニ行ハシムルコトアリ

第二部 戰鬪ノ原則

一、戰鬪一般ノ要領

戰鬪ハ通常前方ニ在ル騎兵ノ接敵ヲ以テ起リ次テ警戒部隊等特別ノ任務ヲ有スル部隊ニ依リテ其端緒ヲ開カル此局ニ當ル指揮官ハ速ニ所要ノ配備ヲ爲シテ敵ノ前進ヲ防止シ敵情及地形ヲ偵察シ同時ニ我軍ノ動作ヲ敵ニ對シテ掩蔽センコトヲ勉ムヘシ而シテ全般ノ爲ニ必要ナル地點ハ勇敢ナル動作ニ依リ速ニ之ヲ占領スルヲ要ス

開進地ノ位置ハ戰鬪ノ部署ニ大ナル影響ヲ與フルモノナリ其開進地ニ備フヘキ性能ハ敵眼ニ遮蔽シ成ルヘク敵砲兵ノ有効射距離外ニシテ前方及側方ニ進出スルコト容易ナルニ在リ而シテ開進スル部隊ハ通常密集隊形ヲ用フ但地形ニ依リ爾後ノ前進ヲ顧慮シテ行軍縱隊ノママ併列セシムルヲ利トスルコトアリ凡ソ戰鬪ニ關スル各指揮官ノ決心ハ任務地形及敵情ノ判斷ニ基クモノナリ然レ

トモ任務ハ決心ノ基礎ニシテ地形ノ不利敵情ノ不明等ニ依リテ躊躇スヘキモノニアラス

命令ヲ受クルヤ歩兵ハ敵ヲ攻撃スル爲運動ヲ開始ス

砲兵ハ射撃ノ特性ヲ發揮シ其威力ニ依リテ歩兵ヲ援助ス

野戰重砲兵ハ堅固ナル掩護物ヲ破壊シ或ハ遠距離ノ射撃ヲ行ヒ戰鬪ノ進捗ニ勉ム

騎兵ハ敵情ヲ搜索シ機ヲ誤ラス之ヲ報告ス又我側背ヲ掩護シ歩砲兵ヲシテ其側方及背後ニ顧慮スルコトナク戰鬪ヲ遂行セシムルコトヲ勉ムヘシ

戰鬪間各指揮官ノ位置ハ敵情ヲ觀察シ部下ヲ指揮スルコトヲ主トシテ之ヲ定ムヘシ

戰鬪ノ進捗ニ伴ヒ歩兵ハ射撃ノ威力ヲ最高度ニ發揚シ以テ遂ニ突撃ヲ實施ス歩兵ノ突撃ニ先チ砲兵ハ攻撃點ニ火力ヲ集中シ機關銃ハ瞬間ニ至大ノ効力ヲ現ハシ工兵ハ必要ニ依リ突撃部隊ノ爲進路ヲ開キ騎兵ハ敵ノ側背ヲ脅威スル等諸兵

種協同ノ實ヲ發揮シ以テ戰勝ヲ收ムルコトニ努力スヘシ
戰勝ヲ得タル軍隊ハ其効果ヲ完全ナラシムル爲猛烈果敢ニ追撃ヲ行ヒ敵ヲシテ
殲滅ニ陥ラシムヘシ

二、攻撃

要領

凡ソ攻撃ハ勝利ヲ得ヘキ唯一ノ手段ナリ故ニ指揮官ハ狀況已ムヲ得サルトキノ
外常ニ攻撃ヲ行フヘシ攻撃ノ要ハ剛健ナル意思ヲ以テ専心敵ニ向ヒ勇進スルニ
アリ
攻撃部署ノ要訣ハ攻撃點ニ優勢ノ兵力ヲ使用スルニアリ
攻撃點ハ狀況特ニ地形ヲ判斷シ陣地ノ弱點若クハ敵ノ爲最モ危險ナル方向ニ選
フヘシ且包圍ニ依ルヲ有利トス
射撃ノ効力ハ敵ニ近クニ從ヒ益々大ナリ故ニ指揮官ハ絶エス其戰線ヲ前進セシ
ムルコトヲ努ムヘシ之カタメニハ火力ヲ優勢ニシ且之ヲ維持スルヲ以テ主要ト

ス

一旦占有セル地區ハ尺土ト雖再ヒ之ヲ敵ニ委スヘカラス
突撃ヲ行ヒタル軍隊ハ其陣地ヲ奪取シタルヲ以テ足レリトセス敵ヲ殲滅センカ
爲追撃射撃ヲ爲シ得ル地點マテ攻撃ヲ續行スヘシ而シテ追撃射撃ニ加ハラサル
部隊ハ速ニ隊伍ヲ整ヘ必要ナル警備ヲナシ敵ノ恢復攻撃ニ備ヘ且爾後ノ追撃運
動ヲ準備セサルヘカラス

遭遇戰

遭遇戰ニ在リテハ特ニ先制ノ利ヲ占ムルコト肝要ナリ之カ爲斷乎タル決心ヲ以
テ速ニ軍隊ヲ部署セサルヘカラス故ニ指揮官ハ勉メテ前方ニ位置シ自己ノ觀察
ト既ニ得タル諸報告トニ基キ一般ノ狀況ヲ判斷シテ其意思ヲ確定シ速ニ之ヲ部
下諸隊長特ニ先ツ前衛司令官ニ指示スヘシ
遭遇戰ニ在リテハ敵ニ先チ展開ヲ終ラシムルヲ必要トス之カ爲指揮官ハ行軍縱
隊ヨリ直ニ展開セシムルヲ有利トス

敵兵若シ我ニ先ンシテ展開ヲ終ヘントスル虞アルトキハ適宜敵ト離隔シテ戦闘準備ヲ整ヘ敵ノ包圍ヲ豫防シ且終始優勢ナル敵ト對戦スルノ不利ヲ免レンカ爲十分ナル兵力ヲ展開シ得ルニ至ルマテ眞面目ノ戦闘ヲ避クルヲ要ス

防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對スル攻撃

防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對シテハ攻者ハ通常敵情及地形ヲ偵察シ攻撃ノ時期方向及方法ヲ選フ爲ニ要スル時間ノ餘裕ヲ有スルモノトス故ニ指揮官ハ豫メ綿密ナル計畫ヲ定メ且十分ナル準備ヲ爲スヲ要ス敵陣地偵察ハ指揮官自ラ百方手段ヲ盡シテ之ヲ爲スヘシ各部隊攻撃準備ノ位置ニ就クモ我砲火ノ効力十分ナラス且晝間力攻ヲ要セサルトキハ夜暗ヲ利用シテ敵ニ接近スルヲ有利トスルコト多シ最モ堅固ナル陣地ニ對シテ攻撃ヲ行フ場合ニ於テハ已ムヲ得ス逐次攻撃陣地ヲ構成シテ敵ニ近迫スルヲ要ス

三、防禦

防禦ハ動モスレハ全ク受働ノ守勢ニ陥リ我動作ノ自由ヲ失フニ至ルモノトス故ニ苟モ時機ヲ得ハ決然攻勢ニ轉セサルヘカラス

凡テ防禦ニ在リテハ敵情就中其企圖ヲ速ニ察知スルコト必要ナリ

決戰的勝利ヲ得ントスル防禦ニ在リテハ必ス攻撃ノ動作ヲ併セ行ハサルヘカラス之ニ反シ單ニ防止ノミヲ目的トスルトキニ在リテハ全力ヲ盡シテ其陣地ヲ固守スルニ止マルモノトス

陣地ハ兵力ニ適合セサルヘカラス而シテ高地村落森林等ヲ利用スルヲ可トス然レトモ之カ爲攻勢移轉ヲ妨クルニ至ルヘカラス

陣地前ノ地形開豁ニシテ遠キ射界ヲ有シ且其内部及背後ノ交通自在ニシテ敵眼ヲ遮蔽シ其翼ヲ堅固ナル支撐點ニ託スルコトヲ得ハ最モ有利ナリ

陣地ヲ占領セントスルニハ通常其前方ニ一部隊ヲ出シ以テ我陣地占領ヲ掩護セシム

掩護隊ハ適宜ノ時機ニ於テ退却スヘシ然ルトキハ本陣地ヲ占領スル我部隊ノ射

撃ヲ妨ケサルコトニ注意スヘシ

守兵ヲ陣地ニ配置スルニハ過早ナルヘカラス之レ敵ニ對シ陣地ヲ曝露シ且敵情ニ應シ配備ヲ變更スルニ不便ヲ來スヲ以テナリ又機ニ遅ルルトキハ敵ヲシテ損害ナク我ニ近カシムルノ不利アリ要スルニ指揮官ノ責任トス

射撃開始ノ時機ハ戰鬪ノ目的及準備彈藥數ニ依リ異ナリト雖敵兵我カ有効射撃界内ニ現ハルルヲ待チテ始ムルモノトス

戰鬪經過中遂ニ乘スヘキ機會ナク敵兵最近距離ニ來リタルトキハ右ラン限りノ火器ヲ使用シテ敵ヲ震駭セシメ全線舉ケテ突出スヘシ

敵兵若シ我陣地ニ突入セハ其守兵ハ最後マテ奮鬪スヘシ

四、追撃及退却

凡ソ戰勝後ニ於テハ動モスレハ半途ノ成功ニ甘ンシ往々果敢ナル追撃ヲ躊躇シ功ヲ一篋ニ缺クニ至ルコト多シ故ニ敵兵退走セハ直ニ猛烈ナル追撃ヲ始メ之ヲ窮追シ敵ヲ殲滅シテ戰捷ノ效果ヲ完ウスルコトヲ勉ムヘシ

退却戰鬪ヲ指揮スルノ要ハ速ニ敵ト離隔スルニアリ之カ爲指揮官ハ明確ニ行進目標收容部隊及收容陣地ヲ示シ退却シ來ル軍隊ヲ待チ更ニ爾後ノ處置ヲ爲スモノトス

收容陣地ハ成シ得レハ退路ノ側方ニ選ミ其火力ニ依リ敵ノ急迫ヲ妨ケ以テ前線ヲシテ潰亂ニ陥ラシメサルヲ要ス

敵ニ撃退セラレタルトキ歩兵ハ唯現在ノ隊形ヲ以テ正面ト直角ノ方向ニ退却シ得ルノミ

戰場ヲ離脱スル爲ニハ敵ノ攻撃最モ激烈ナル所ニ於テ最モ永ク抗拒スルヲ原則トス狀況ニヨリ夜暗ヲ利用スルモノトス又我カ企圖ヲ秘匿セン爲時トシテ一部隊ヲ以テ猛烈果敢ナル逆襲ヲ行ヒ其機ヲ利用シテ敵ト離隔スルヲ勉ムルコトアリ

五、夜戰

夜戰ハ兵力及企圖ヲ秘シ損害ヲ避ケテ敵ニ近接シ得ヘキ利アリ然レトモ通視困

難運動不便ナリ從テ指揮ノ統一困難ナル缺點アリ

夜戰ニ在リテハ指揮官ハ精密ナル計畫ヲ定メ部隊ノ行進目標行進路竝ニ相互ノ連絡及識別到着地點等ヲ明示スヘシ

夜襲ハ殆ト步兵ノ專任スル所ニシテ其奏功ノ要訣ハ不意ニ敵ニ肉薄シ銃劍ヲ揮ヒ一舉ニ決戰ヲ求ムルニアリ是夜間ハ火力ヲ發揚シ得サルノミナラス之カ爲我カ企圖ヲ曝露シ又行進ヲ遲滯セシムルノ不利アレハナリ

夜襲ノ部署ハ決戰ニ必要ナル兵力ヲ最初ヨリ第一線ニ備ヘ其各部隊ヲシテ勉メテ集團セシムルヲ必要トス

夜間ノ突擊ハ至近ノ距離ヨリ之ヲ始メ各指揮官ハ成シ得ル限り部下ヲ掌握シ敵陣ノ一部ヲ猛烈ニ突破スヘシ而シテ突擊功ヲ奏セハ各部隊ハ迅速ニ秩序ヲ恢復シ警備ヲ嚴ニシ敵ノ恢復攻撃ニ備ヘ成ルヘク速ニ敵ヲ追擊スヘシ

夜間ノ防禦ニ在リテハ防禦線前ニ警戒兵ヲ出シ諸種ノ手段ヲ盡シテ敵ノ近接ヲ警ムヘシ

夜間攻撃ヲ豫察シタルトキハ所要ノ守兵ヲ火線ニ就カシメ各其位置ヲ固守シ最近距離ニ於テ火力ヲ發揚シ敵ヲ殲滅セシムヘシ即チ敵兵咫尺ノ地ニ來ルトキ之ニ猛射ヲ加ヘ或ハ手榴彈ヲ投シ此瞬間ニ於テ銃劍ヲ揮ヒ決然逆襲ヲ行フヘシ

六、持久戰

持久戰ハ決戰ヲ避ケ時間ノ餘裕ヲ得ルヲ以テ目的トス

掩護ノ任務ヲ有スル部隊戰鬪ヲ交ヘサルヘカラサルトキハ通常持久戰ヲ行フモノトス又正面ノ部隊ヲシテ包圍或ハ迂回等ニ任スル部隊ノ好機ニ出ルヲ待タシメンカ爲持久戰ヲ爲サシムルコトアリ

持久戰ニ在リテハ成ルヘク敵ヲ遠距離ニ支持スルヲ可トス

持久戰ニ於ケル軍隊ノ部署ハ目的時間及地形ニ依リ差異アリ何レノ場合ニ在リテモ第一線ノ各部隊ハ通常兵力ニ比シテ廣キ正面ニ散開スルモノトス

持久戰ニ任スル部隊ハ其目的ヲ達センカ爲陽ハニ攻撃動作ヲ行フヲ要スルコトアリ

七、山地及河川ノ戰鬪

山地ハ一般ニ展開地域狹ク交通不便ニシテ運動容易ナラス只兵力及運動ヲ敵ニ秘スルコトヲ得ルト寡兵ヲ以テ衆敵ヲ拒止シ得ルトノ益アリ
 山地ニ在リテハ攻防共ニ敵ヲ瞰制スヘキ位置ヲ占ムヘシ
 山地ノ戰鬪ニ於テ攻者ハ敵方ニ通スル道路及谷等ヲ利用シテ前進シ以テ敵ヲ包圍シ若クハ遠ク迂回シテ敵ノ背後ヲ脅威シ其退路ヲ遮斷スルヲ必要トス
 山地ノ防禦ニ在リテハ敵方ニ通スル諸道路ヲ堅固ニ守備スルヲ要ス敵兵攻撃シ來レハ防者ハ射撃ヲ以テ十分之ヲ擾亂セシムヘシ
 河川ノ戰鬪ニ於テ敵前渡河ヲ行フハ極メテ困難ナリ故ニ攻者ハ常ニ敵ノ不意ニ出テ若クハ陽動ニ依リ敵ヲ欺キ速ニ渡河スルヲ要ス
 河川防禦ノ要訣ハ敵ノ半途ニ乘シ攻勢ニ轉スルニアリ
 敵ノ利用スヘキ橋梁ハ豫メ之ヲ破壊スヘシ又徒涉場ヲ偵察シ之ニ要スル處置ヲ爲スヘシ

八、森林及住民地ノ戰鬪

戰場ニ散在スル森林及住民地ハ屢々戰鬪ノ焦點トナルモノトス防者ハ之ヲ占領シテ堅固ナル支撐點ヲ成形シ攻者ハ之ヲ利用シテ攻撃ノ據點ト爲スコトヲ得ヘシ
 森林内ヲ通過スルニ方リテハ特ニ方向ヲ誤ラサルコトニ注意スヘシ且常ニ接戰ヲ準備スルヲ要ス之カ爲側方ニ少數ノ散兵若クハ斥候ヲ配布スヘシ
 煉瓦若クハ石ヨリ成リ堅固ナル圍壁ヲ有スル家屋ノ集團地ハ敵ノ砲彈ニ對シ良好ノ掩護ヲ與フルモノニシテ其周縁ハ通常戰鬪ノ主線トナル然レトモ其内部ニ多數ノ軍隊ヲ入ルルハ之ヲ避クヘシ
 木造家屋ヨリ成ル住民地ハ敵彈ノ爲火災ニ罹リ易キヲ以テ寧ロ其前方ニ火線ヲ設クルヲ宜トス
 住民地ノ防禦ハ圍壁及家屋ノ景況ニ應シ其守備區域ヲ定ムルモノトス

九、他兵種ニ對スル歩兵ノ動作

沈著シテ射撃ヲ行フ所ノ歩兵ハ何等ノ隊形ヲ以テスルモ優勢ナル敵ノ騎兵ノ襲撃ヲ無効ナラシムルコトヲ得ルモノトス
交戦中ニ在ル歩兵ハ騎兵ニ牽制セラレサル様注意スヘシ
砲兵ニ對スル戦闘ハ遠距離ニ於テ砲兵ノ火力歩兵ニ優リ凡ソ千米ノ距離ニ至リ其効果略相等シク此以内ノ距離ニ於テハ歩兵ハ砲兵ニ優ルモノトス
歩兵ノ砲火ヲ受クルトキハ敏活ナル運動ヲ以テ隊形及地形ヲ利用シ又ハ歩度ヲ速ムル等諸種ノ手段ヲ盡シ其効力ヲ少クスルコトヲ勉ムヘシ

第十章 陣中要務令摘要

綱領

- 一、軍ノ主トスル所ハ戦闘ナリ故ニ凡百ノ事皆戦闘ヲ以テ基準ト爲スヘシ
- 二、軍ハ軍紀ヲ以テ成ル其消長ハ勝敗ノ由テ岐ルル所タリ軍紀ハ常ニ嚴肅ナラサルヘカラス而シテ軍紀ノ要素ハ服従ニ在リ全軍ヲシテ至誠上長ニ服従シ其命

令ヲ確守スルヲ以テ第二ノ天性ト爲サシムルヲ要ス

- 三、命令ノ實施ニハ獨斷ヲ要スル場合尠カラス蓋シ兵戰ノ事タル其變遷測リ難ク命令ノ指示情況ノ變化ニ伴ハサルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ受令者自ラ其目的ヲ達シ得ヘキ方法ヲ採リ獨斷專行ヲ以テ機會ニ投セサル可カラス然レトモ獨斷專行ハ應變ノ道ニシテ常經ニ非サルナリ漫ニ發令者ノ意圖以外ニ脱逸ス可カラス

- 四、典則ハ運用ヲ待ツテ始メテ其光彩ヲ發揮ス而シテ運用ノ妙ハ人ニ存ス人々宜ク身ヲ以テ責ニ任シ機宜ニ應シ之ヲ活用スヘシ固ヨリ濫ニ典則ニ乖ク可カラス又之ニ拘泥シテ實效ヲ誤ル可カラス

- 五、軍務ハ多端ナリ是レ各級指揮官ヲシテ各々其任務ヲ分擔セシムル所以ナリ故ニ各級ノ指揮官ハ一般ノ目的ト其任務トニ稽ヘ専ラ心力ヲ職責ノ在ル所ニ竭シ他ノ補助ニ倚賴スルコトナク毅然トシテ其任務ヲ完ウスルコトニ努ムヘシ此ノ如クニシテ後全軍ノ協同一致得テ期スヘキナリ

六、統帥ノ要訣ハ軍隊ヲシテ常ニ百般ノ準備ヲ整ヘ命令一タヒ下レハ勇往邁進シテ忠愛ノ至誠精銳ノ技能ヲ發揚シ自ラ信シテ優秀ナル成功ヲ期待セシムルニ在リ而シテ情況ヲ達觀シテ明斷果決敏活ニ處置スルハ又部下ノ自信ヲ鞏固ナラシムル要件トス

七、爲ササルト遲疑スルトハ指揮官ノ最モ戒シムヘキ所ト爲ス苟モ之ヲ爲シ之ヲ斷行セハ縱ヒ其方法ヲ誤ルモ尙爲ササルト遲疑スルトニ勝ル蓋シ此兩者ノ軍隊ヲ危殆ニ陥ルルコト寧ロ方法ヲ誤ルヨリモ甚シキモノアレハナリ

八、將校及下士ノ一舉一動ハ悉ク部下ノ模範タリ慎マサル可カラス殊ニ劍電彈雨滿目悽愴ノ間ニ立チテ沈著機ニ處シ泰然トシテ動カサルトキハ森嚴ナル威容自ラ外ニ顯ハレテ部下ノ屬望ヲ繫持シ以テ其志氣ヲ作興シ成功ノ因ヲ固ウスルヲ得ヘシ平生修養セサル可カラス

九、軍人ハ廉恥ヲ重ンセサル可カラス廉恥ハ軍人ノ精神ヲ維持スルモノナリ良ク其膽力ヲ補ヒ怯懦ヲ去リ死生ノ地ニ從容タラシム上將校ヨリ下兵卒ニ至ル迄

常ニ此心ヲ保有シ上下共ニ切磋シテ以テ全軍ノ名譽ヲ發揚スヘシ

十、軍人ハ艱苦缺乏ニ耐ヘサル可カラス常ニ之ニ慣熟スルヲ要ス夫レ陣中勤務ハ艱苦缺乏ニ克ツ者ニシテ始メテ敏活確實ニ之ヲ實施シ得ルモノトス

十一、實敵及危險悲慘ハ平時之ニ親炙スルヲ得ス然レトモ之ニ克ツノ道ハ則チ有リ大節ヲ守リテ君國ニ盡ス所謂軍人精神是レナリ此精神ヲ發揮シテ責ヲ重ンシ任ヲ竭シ斃レテ後已ム是レ軍人ノ本分ナリ

一、戰鬪ノ序列 (軍隊區分)

一、天皇ハ全軍若クハ其一部ヲ動員セシ時戰鬪序列ヲ令シ作戰軍ノ編組ヲ定メ戰役間ニ於ケル統御經理及衛生ノ關係ヲ律ス而シテ戰鬪序列ハ勅命ニ非サレハ變更スルヲ得ス

二、軍隊區分トハ作戰上ノ必要ニ基キタル軍隊ノ一時的編組ヲ謂フ而シテ此編組ヲ行フニハ戰鬪序列ニ基キ勉メテ建制部隊ヲ分割セサルヲ要ス

二、通報 (報告及其傳達法)

凡ソ情況ノ判斷ニシテ正鵠ヲ得サレハ命令及其實施ヲ時機ニ適合セシムル能ハス情況ヲ判斷スルニハ敵ヲ探偵視察シテ得タル情報ト他ノ諸徵候ヨリ得タル認識推測ヲ集メテ成レル證據トヲ以テスルヲ最モ確實ナルモノトス
命令ハ筆記等ニテ之ヲ付與シ或ハ口上若クハ電信電話等ニヨリ下達ス
命令トハ上官ヨリ下官ニ言ヒ付クルコトヲ謂フ
報告トハ下官ヨリ上官ニ申シ上クルコトヲ謂フ
通報トハ同等ノ者カ相互ニ牒シ合フコトヲ謂フ
報告ヲ記スルニハ報告者自ラ目撃セシコトト他人ノ實見セシコトト他人ノ聞知セシコトト又唯推測ニ係ルコトトヲ判然區別スヘシ
敵兵ニ關スル通報報告ニハ其兵種員數時刻先頭或ハ後尾等ノ位置ヲ記スルコト肝要ナリ
要圖ノ價值ハ簡約ニシテ時機ニ適應スルニ在レハ迅速ニ調製シ目的以外ニ屬スル不要部分ハ凡テ省略シ單ニ必要ノ符號事項並位置關係等ヲ記スルニ止ムルモ

ノトス故ニ距離ノ如キ數字ヲ註記スレハ足ル

例 河流某點ニ註記シテ幅何米ト記ス
兩村落ノ距離ヲ示スニ兩者ニ點線ヲ付シ何吉米ト記ス

命令通報及報告ハ距離ノ遠近ト其他ノ景況トニ從ヒ電信電話ヲ用ヒ又ハ自轉車自働車航空機乘馬若クハ徒歩ノ傳令ニ依リ筆記印刷若クハ口上ヲ以テ傳達ス
距離遠大ナル兩地間ニ通信頻繁ニシテ而モ電信電話等ノ通信確實ナラサルトキハ騎兵自轉車若クハ自働二輪車ヲ以テ遞傳哨ヲ設クルヲ利トスルコトアリ
遞傳哨ノ人員及其相互間ノ距離ハ交通ヲ保タントスル時間ノ長短豫想スル通信ノ繁閑交通路及哨所ノ安否ニ依リテ異ルモノトス而シテ其人員ハ哨長（通常下士）ノ外遞騎哨ニ在リテハ通常兵卒三人乃至六人遞自轉車自働車哨ニ在リテハ三人以上トス又各哨相互間ノ距離ハ遞騎哨ニ在リテハ十乃至十五吉米其他ニ在リテハ二十乃至三十吉米ト爲スモノトス遞傳哨ハ通常其名ヲ冠ス
遞步哨ハ地勢車輛及騎兵ノ使用ニ適セサル所ニ用フ而シテ其距離ハ二乃至四吉米トナスヲ適度トス

傳令ノ速度概ネ左ノ如シ

並ハ常歩二速歩一ノ割合ニテ一時間約八吉米

乘馬傳令 急ハ常歩一速歩二ノ割合ニテ一時間約十吉米

至急ハ馬力ノ耐ユルタケ戰場ニテ約二十吉米

並ハ速歩一時間約五吉米

徒歩傳令

急ハ駟歩ト速歩トヲ混用ス一時間約六吉米

至急ハ唯近距離ニ用ユルモノトス脚力ノ耐フルタケ駟走ス

命令通報報告ノ發信者ハ傳令ニ對シ確切ニ左ノ諸件ヲ示スヘシ

一、受信者及其所在地

二、經路 速度(要スレハ到着時刻)

三、傳達後ノ處置

發信者ハ傳令ニ往々其書中ノ趣旨ヲ知ラシメ置クヲ要ス特ニ途中敵ニ關スル顧慮ヨリ書簡ヲ破毀消滅ヲ要スル慮アル時ニ於テ然リトス而シテ其途次安全ナラ

サルトキハ數使ヲ發シ相異ル道路ヲ取ラシムルコトアリ

口上ヲ以テ命令通報報告ヲ傳フルトキハ傳令ハ出發前並歸來後其全文若クハ要旨ニ就キ之ヲ復唱スヘシ

文書記述法ハ極メテ簡易ナルヲ要ス

右側左側右翼左翼右側衛左側衛ノ語ハ敵ニ對スル方向ヲ行軍縱隊ノ先頭及後尾ナル語ハ行進方向ヲ基準トシテ稱呼ス

河川ノ右岸左岸トハ下流ニ面シテ之ヲ呼フモノトス

編合部隊ヲ部隊號ニ依リ單簡ニ稱呼シ能ハサルトキハ地名若クハ指揮官ノ氏ヲ以テ命名スルヲ可トス

日ヲ記スニ方リテハ單ニ明日又ハ昨日ト記スコトナク明日昨日等ト記載スヘシ

A 搜索及諜報勤務

搜索ノ目的ハ敵ノ位置動作及兵力ヲ探知スルニ在リ而シテ之ニ任スル部隊ハ又

屢々地形ノ偵察ヲモ併セ行フモノトス
搜索勤務ハ主トシテ騎兵ノ任スル所ナリ
戰況或ハ地形ニ依リ又ハ戰況ノ進捗ニ伴ヒ正面前ニ於ケル搜索ハ漸次他兵種ヲ以テ之ニ任スルニ至ルモノトス
搜索ハ敵ト遠隔セル場合ニ於テハ甚シク細部ニ涉ルノ要ナキモ敵ト愈々接近スルニ從ヒ益々周密ナラシムルヲ要ス殊ニ敵ト衝突スルノ時機切迫セルトキハ敵ノ戰術上ノ部署ヲ成ルヘク精密ニ偵知スルコト必要ナリ
搜索ニ任スル指揮官ハ任務情況及地形ニ稽ヘ先ツ搜索スヘキ方向及範圍ヲ確定シ之ニ應シテ軍隊ヲ部署シ且斥候派遣ノ區分ヲナスモノトス
搜索部署ニ於テ最モ戒シムヘキハ兵力分散ノ弊ニ陥ルニ在リ故ニカメテ支分スル兵力ヲ節約シ且適時之ヲ主力ニ復歸セシムルヲ要ス
搜索部隊ハ一度敵ト觸接スルトキハ晝夜ヲ論セス其踪跡ヲ失フヘカラサルノ責任ヲ有ス

諜報勤務ハ居民ノ口述信書ノ點檢俘虜ノ尋問間諜ノ使用其他諸種ノ徵候ニ依リテ其目的ヲ達スルモノニシテ其得タル結果ハ直接軍ノ搜索機關ニ依リテ蒐集スル諸情報ヲ補綴シ若クハ確定スルノ資料ト爲ルモノナリ
斥候及小部隊ハ搜索ノ爲視察ヲ以テ主要ナル手段トス然レトモ此目的ヲ達センカ爲敵ノ小部隊若クハ斥候ヲ驅逐スルヲ必要トスルコトアリ
緊要ナル任務ノ爲ニハ將校斥候ヲ用フルモノトス
徒歩斥候ハ隱蔽シテ行動シ得ルヲ以テ敵ト接近セル場合ニ在リテハ重要ナル任務ヲ果シ得ルモノトス特ニ歩兵將校斥候ハ此ノ如キ場合ニ於テ多ク之ヲ使用ス豫メ定メタル單簡ナル記號ハ徒歩斥候相互間竝後方ニ報告スル爲往々最良ノ通信法タルコトアリ
斥候勤務ニ要スル所ノ性質四アリ慧敏熱心沈著剛膽是ナリ就中剛膽ナル者最モ能ク其任務ヲ達成スルヲ得ヘシ然レトモ斥候ハ又常ニ不意ノ危害ヲ豫防スル爲細心ノ注意ヲ怠ル可カラス

斥候ハ情況ノ許ス限リ道路ニ依リテ行動シ一ノ展望地點ヨリ他ノ展望地點ニ躍進シ其目的ヲ達スルコトヲ勉ムヘシ休憩ニ際シテハ適當ノ潜伏所ヲ索メ敵ニ發見セラルルコトナク又敵狀監視ヲ中絶セサルコトニ注意シ尙敵意ヲ有スル地方ニ於テハ大ナル住民地ヲ再ヒ通過セス又村落等ニハ永ク位置ス可カラス
航空機ハ他ノ搜索機關ノ使用ヲ許サル場合ニ於テモ亦能ク之ヲ使用シ搜索ノ目的ヲ達シ得ルモノニシテ又騎兵及砲兵ノ搜索勤務ニ協力セシムルニ適スルモノトス就中飛行機ハ最モ迅速ニ情報ヲ得ルニ適シ航空船ハ飛行機ニ比シ長時間ノ搜索ヲ爲スヲ得ルモ繫留氣球ハ單ニ小距離ノ偵察及監視ニ用ヒルニ過キサルモノトス而シテ航空機ハ其特性上天候ト光明トノ影響ヲ受クルコト大ナルニ注意セサル可カラス
航空機ヨリスル報告ノ受領及其迅速ナル轉送竝航空機著陸ノ際及降陸中所要ノ援助ヲ爲スハ近傍ニ在ル部隊ノ義務トス

一、斥候ノ種類及區分

將校斥候 將校カ斥候長トナリ其兵力時トシテハ一分隊以上ニシテ緊要ナル所

ニ派遣セラルルモノトス

下士斥候 下士カ斥候長トナリ數名若クハ一分隊ヲ率キ稍緊要ナル所ニ派遣セラルルモノトス

斥候 選抜セル三名ノ兵ヨリ成リ必要ノ所ニ派遣セラル

斥候出發時ニ際シ左ノ諸件ニ注意スヘシ

一、復唱スルコト

二、裝填スルコト

三、記號ノ約束ヲナスコト

四、不時ノ集合點ヲ定メ置クコト

斥候行進スル時ノ隊形及連絡ハ左ノ如シ

一、長ヲ中央ニシ兩側ニ間隔ヲ取ルコト (橫廣キ隊形)

二、長ヲ先頭トシ兩側後(若クハ兩側前)ニ距離間隔ヲ取ルコト (三角形狀)

陣中要務令摘要

三、長ヲ先頭或ハ中央トシ前後ニ距離ヲ取ルコト (縦長形)

連絡ハ相互ニ目視若クハ記號ヲ以テスルコト

斥候敵兵發見ニ際シテハ左ノ處置ヲ取ルヘシ

- 一、速ニ身體ヲ遮蔽スルコト
 - 二、記號ヲ以テ協同動作ヲナスコト
 - 三、距離ヲ測リ射撃ノ準備ヲ爲シ敵情ヲ熟視スルコト
 - 四、任務ニ應シ更ニ前進スヘキヤ或ハ歸還スヘキヤ或ハ側方ニ迂回スヘキヤヲ定ムルコト
 - 五、斥候長ハ敵ヲ發見セシ後決心ヲ爲シ部下ニ記號ヲ以テ示スコト
 - 六、長トノ連絡ヲ失ハサル様靜肅且迅速ニ動作シ要スレバ一人ハ直ニ報告スルコト
- 斥候ノ射撃スヘキ場合大要左ノ如シ (任務ニ依リ異ナルコトアリ)
- 一、敵ノ斥候我ヲ見テ射撃スルトキ

二、敵ノ斥候若クハ部隊カ我ニ向ツテ前進シ來ルカ又ハ不意ニ敵ノ部隊ニ出

會セシトキ (駐軍間ノ斥候ノ時ハ射撃セサルヲ宜シトス)

三、後衛ノ斥候トナリシトキ

四、迂回スルニ道ナク敵容易ニ道路ヲ開カサルトキ

五、敵ノ傳令ヲシキモノ我ヲ見テ逃走セントスルトキ

六、自己ノ危態ニ陥リシトキ

斥候ノ報告スヘキ場合大要左ノ如シ

- 一、始メテ敵ニ遭遇セシトキ
 - 二、我ヨリ優勢ナル敵ニ遭遇セシトキ
 - 三、敵ノ部隊若クハ敵ノ陣地ヲ發見シタルトキ
 - 四、道路橋梁等破損若クハ阻絶シアルトキ
 - 五、指示セラレ搜索セシ地點ニ敵兵アラサルトキ
- 斥候ノ區分左ノ如シ

- 一、行軍間ノ斥候
 - 二、駐軍間ノ斥候
 - 三、停止間ノ斥候
 - 四、戦闘間ノ斥候
 - 五、潜伏斥候
- 一、行軍間ノ斥候
 - a 路上斥候 専ラ道路上ヲ行進ス但道路ノ左右若干距離ハ運動スルモ全ク道路ヲ離レテ敵情ニ關シテハ凡テ報告スルコト
 - 此斥候ハ尖兵長ト共ニ行動ス又無益ニ戦闘ヲナサス然レトモ僅少ナル敵兵ノ如キハ之ヲ撃破シテ前進スヘシ
 - b 側斥候 常ニ路上斥候ト目視ヲ以テ連絡ス且常ニ路上斥候ヨリハ稍前方ニ進出スル如ク斜行運動ヲ取ルヘシ
 - 二、駐軍間ノ斥候

- イ、我カ歩哨線ヲ通過スル場合ハ歩哨ニ就キ先ツ敵情ヲ尋ネ次ニ我任務及行進方向ヲ示シ又歸還ノ時刻及其歸路ヲ示スコト
- ロ、敵ノ歩哨線偵察ノ場合ハ先ツ敵ノ歩哨ヲ發見シ其歩哨ノ左右翼ヲ確カメ侵入シ得ラルル地區ヨリ潛行シ内部及後方部隊ノ位置ヲ確カムルコト
- ハ、敵ノ陣地偵察ノ場合ハ其陣地ノ位置及其兵力竝工事又其兩翼竝正面幅其障碍物ノ種類其他ノ徴候等ヲ視察スルコト
- ニ、斥候歸還ノ際我歩哨線ニ至レハ我見聞セシ情況ヲ告知シ又歩哨ノ見タル狀況ヲ聞キ之ヲ報告スヘシ(見聞及聞知又ハ推測等ヲ判別シテ報告ス)
- 三、停止間ノ斥候
歩哨配置ノ間又ハ陣地構成ノ間等ニ於テ某地點ニ派遣セラレ其監視ニ任スルコトアリ之ヲ停止斥候ト稱ス此斥候ノ動作ハ歩哨ノ時ニ同シトス
- 四、戦闘間ノ斥候
散兵線ノ翼側ニシテ敵ヲ視察スルニ適當ノ地物ヲ占領シ且散兵線ト行動ヲ共

ニシ連絡シ側方危険ナルトキハ急射撃ヲナシテ報告ス又敵ヲ見レハ戦闘シ散兵線突撃ニ移ルトキハ共ニ突撃ス

五、潜伏斥候

- イ、敵ヲ捕獲セン爲ニハ敵ヲシテ通過セシメタル後一ノ合圖ノ下ニ躍起シテ協力シ背面ヨリ敵ヲ捕ヘ其位置ヲ撤去スヘシ之カ爲適當ナル場所ヲ選ミ潜伏シアルヘシ(通常道路附近ノ叢樹若クハ崖下ニ隠蔽ス)
- ロ、敵ノ部隊若クハ敵襲等ノ如キ場合ニハ急射撃ヲナシテ警報シ其他ノモノハ捷路ヲ經テ速ニ報告スヘシ

B 警戒勤務

通則

警戒ノ目的ハ行軍及駐軍間不意ノ敵襲ヲ豫防シ且敵ノ視察ヲ妨クルニ在リ警戒ノ部署ハ一定不變ノモノニ非スト雖敵方ニ向ヒ逐次ニ小ナル數箇ノ部隊ニ

區分スルヲ通則トス然レトモ小ナル部隊ニ在リテハ僅カニ其警戒ニ要スル最小ノ兵力ヲ支分スルニ過キサルモノトス凡テ警戒隊ノ常ニ服膺スヘキ原則ハ敵方ニ近キ小ナル部隊ハ更ニ戰備ヲ嚴ニシ以テ逐次大ナル部隊ノ警戒ヲ擔任スルニアリ搜索ノ周密ナルハ警戒ノ主要條件トス故ニ警戒隊ハ絶エス其所在地附近ヲ搜索スルハ勿論尙所要ニ應シ遠距離ニ亘リ搜索ヲ行フヲ要ス

行軍ノ警戒

一、要領

行軍間ニ於ケル警戒ハ前衛側衛又ハ後衛ヲ以テス而シテ其任務ハ敵ノ攻撃ニ對シ本隊ニ動作ノ自由ヲ得セシメ且其行進ヲシテ澁滞ナカラシムルニ在リ行軍間ニ於ケル警戒隊ハ命令ナシト雖行軍間ノ駐止並行軍ヲ終レル後ニ於テ尙本隊ヲ掩護スルノ責任ヲ有ス故ニ警戒隊駐止セハ直ニ前哨ノ爲定メタル規定ニ從ヒ所要ノ部署ヲ爲スモノトス

二、前衛

前衛ノ行動ハ概ネ左ニ準據スルモノトス

一、行進路上ニ在ル障礙ヲ除去ス之カ爲敵ノ小部隊ノ如キハ之ヲ擊破シテ前進ス

二、敵ト接近スルニ至レハ其陣地若クハ行進方向及兵力ヲ偵察シ且我本隊ノ開進及展開ヲ掩護ス

三、敵ヲ追撃スルニ方リテハ速ニ之ニ追及シ其主力ヲシテ抗戦スルノ已ムヲ得サルニ至ラシム

前衛歩兵ノ兵力ハ通常全歩兵ノ三分ノ一以内トス(前衛歩兵ニハ機關銃ヲ配屬スル方可)前衛ト本隊トノ距離ハ我軍ノ目的敵情縱隊ノ大小地形ニ應シテ異ナルモノトス要スルニ時機ヲ失セス戰鬪ニ加ハルコトヲ確切ナラシムレハ足ル

前衛ハ通常前衛本隊前兵及前衛騎兵ニ區分ス但小ナル部隊ニ在リテハ單ニ尖兵中隊若クハ尖兵ノミヲ出スコトアリ

前兵ハ前衛歩兵ノ四分ノ一乃至三分ノ一ヲ以テス

前兵ト前衛本隊トノ距離ハ敵ト衝突ノ際前衛本隊ヲシテ展開ヲ爲スノ時間ヲ得シムルニ足ルヲ以テ度トス此距離ハ通常七百乃至千二百米ナルヘシ小ナル前衛ニ在リテハ前衛本隊不意ニ有効ナル小銃射撃ヲ受ケサルコトニ顧慮シテ其距離ヲ定ムヘシ

大ナル前兵ニ在リテハ其警戒ヲシテ益々確實ナラシメンカ爲更ニ尖兵一中隊ヲ前方約三百乃至四百米ニ出スコトアリ之ヲ尖兵中隊ト稱ス

前兵若クハ尖兵中隊ハ概ネ前ト同一若クハ尙大ナル距離ニ歩兵ノ尖兵ヲ出ス歩兵尖兵ハ一分隊以上ノ兵ヲ將校ノ指揮ニ屬シ行進路上ヲ搜索セシムルモノニシテ其將校ハ前方ニ發生スル事故ヲ速ニ判別スル爲尖兵群ノ前方ニ在リテ行進シ又連絡兵ヲ以テ前兵或ハ尖兵中隊ト連絡スルモノトス而シテ敵ニ接近スルニ至レハ所要ニ應シ行進路ノ近傍ニ斥候ヲ派遣シ又村落若クハ蔭蔽地ニ在リテハ特ニ意ヲ用ヒテ搜索ヲ爲スモノトス

歩兵獨立シテ行進スルトキハ尖兵ノ兵力ヲ有力ナラシムルヲ要ス
凡ソ前進運動ニ於テハ小ナル部隊ハ常ニ大ナル部隊ノ進退ニ從ヒテ行動ス而シ
テ相互間ハ連絡兵ヲ用フ而シテ連絡ハ大ナル部隊ヨリ小ナル部隊ニ向ヒテスル
ヲ原則トス

連絡兵ノ動作

連絡兵ハ前方部隊ト後方部隊トヲ連絡シ其行進方向ヲ相互部隊ニ報シ連絡ヲ失
ハシメサルヲ以テ任務トス
尖兵ヨリ出ツル連絡兵ハ前兵ノ運動ニ注意シ後方ニ連絡ヲ取ル前衛本隊又ハ本
隊等ヨリ出ツル連絡兵ハ常ニ前方部隊ニ連絡ヲ取ル
連絡兵ハ道路ノ分岐點及屈曲點ハ特ニ注意シテ連絡ヲ取ル又前方部隊ハ驅歩ヲ
ナシツツアルカ或ハ停止シツツアルカヲ注意シ前方部隊トノ距離ヲ正確ニ保ツ
戦闘開始セハ所屬部隊ニ歸還シ合圖ハ凡テ記號ニテナスヘシ

三、側衛

イ 側敵行ノ側衛

側敵行ニ於ケル側衛ノ行動ハ概ネ左ニ準據スルモノトス

- 一、本隊ト竝進シ其側敵行動ヲ掩護ス
- 一、要スレハ本隊行進路ノ側方ニ陣地ヲ占領シテ其通過ヲ安全ナラシム
- 三、非常ノ場合ニ於テハ敵ヲ攻撃シテ之ヲ抑留シ以テ敵ヲシテ我本隊ニ近迫
スル能ハサラシム

側衛ハ如何ナル場合ニ在リテモ本隊ヲシテ戦闘ヲ避ケシムルコト必要ナリ
側衛ノ部署及警戒方法ハ其時ノ形勢ニ從ヒテ異ナルモノトス而シテ本隊ト竝進
スル場合ニ在リテハ通常前兵側兵等ヲ以テ正面及側面ヲ警戒シ時宜ニ依リ後兵
ヲ以テ背後ヲモ警戒スルモノトス

□ 前進行及退却行ノ側衛

前進行ノ警戒ニ於テ前衛ハ前方ノ外側方ノ警戒ヲモ忽ニス可カラス側方警戒ノ
爲斥候ノミニテ十分ナラサルトキハ更ニ側衛ヲ分遣ス而シテ此側衛ハ形勢ニ應

シ前兵若クハ前衛本隊ヨリ分遣シ或ハ直ニ本隊ヨリ之ヲ分遣スルモノトス
 側衛ハ成ルヘク本隊ノ行進路ニ竝行スル道路ヲ取り通常前衛ニ於ルカ如キ部署
 ヲ以テ行進シ前衛又ハ本隊ト絶エス連絡スルモノトス
 退却行殊ニ優勢ナル敵前ニ於テハ敵兵遠ク側方ヲ繞回シテ本隊ニ迫ル虞アルヲ
 以テ特ニ側衛ヲ後衛又ハ本隊ヨリ派遣スルヲ要スルコト多シ
 退却行ニ於ケル側衛ニ關シテハ前進行ニ於ケル側衛ノ爲定メタル規定ヲ適用ス
 ルモノトス

四 後衛

イ 退却行ノ後衛

退却行ニ於ケル後衛ノ動作ハ本隊ノ情況敵ノ遠近及其動作ニ應シ異ナルト雖概
 ネ左ニ準據スルモノトス
 一、勉メテ行軍縱隊ヲ以テ行進シツツ本隊ノ退却ヲ掩護ス之カ爲其本隊トノ
 距離ハ之カ行進ノ遲滯ヲ顧慮シ通常前衛ニ於ケルヨリモ長遠ナラシム

二、要スレハ陣地ヲ占領シテ敵ノ前進ヲ拒守ス而シテ其陣地占領ニ方リテハ
 獨力ヲ以テ戦闘ヲ終始セサル可カラサルコトニ顧慮スルヲ要ス

三、非常ノ場合ニ於テハ全隊ノタメ犠牲ト爲リ以テ本隊ノ退却ヲ容易ナラシ
 ム

後衛ノ兵力及編組ヲ定ムルニハ後衛ハ前衛ノ如ク常ニ本隊ノ援助ヲ胸算スルヲ
 得サルコトニ顧慮スルヲ要ス

後衛ニシテ眞ノ戦闘ヲ爲サス且歩兵ヲシテ之ニ與ラシメサルヲ得ハ大ニ利アリ
 トス之カ爲後衛ノ編組中ニハ敵ヲ遠距離ノ外ニ壓シ得ヘキ野戰砲兵ヲ配屬シ尙
 其兵力ヲ強大ナラシムルヲ可トス然レトモ非常ノ場合ニ於テハ鞏軟ノ抵抗ヲ爲
 ササルヲ得サルヲ以テ歩兵ノ兵力モ亦前衛ニ於ケルヨリモ強大ナラシムルヲ要
 スルコトアリ

後衛ハ通常後衛本隊後兵及後衛騎兵ニ區分シ其編組及部署ハ前進行ニ於ケル前
 衛ニ準スルモノトス

後衛ハ常ニ敵ノ迂回若クハ包圍ヲ受ケ易キヲ以テ之ニ對スル注意ヲ爲シ又隣接シテ退却スル部隊ノ後衛アルトキハ之ト連絡スルコトヲ怠ル可カラス

□ 前進行及側敵行ノ後衛

前進行及側敵行ニ於テ縱隊ノ後方ニ敵ノ騎兵部隊等出沒シ背後安全ナラサルトキハ特ニ後衛ヲ備ヘテ警戒セサル可カラス而シテ其兵力及編組ハ全ク危殆ノ大小ニ關ス

c 前哨

一 要領

前哨ハ休止ノ軍隊ヲ警戒スルヲ以テ任トス而シテ警戒ハ敵軍ニ近ツクニ從ヒ益々之ヲ嚴ニスルヲ緊要トス

前哨ハ敵ノ小企圖ヲ排除シ眞面目ノ攻撃ニ對シテハ之ヲ抗拒シテ休止ノ軍隊ニ戰鬪準備若クハ出發準備ヲ整フルノ時間ヲ與ヘ又敵ノ偵察動作ヲ妨碍シ我軍ノ

情況ヲ掩蔽セサル可カラス

前哨敵ト近ク觸接セル場合ニ於テハ夜間ト雖敵ノ動靜ヲ審ニシ之ト觸接ヲ失ハサルコトニ關シテ前哨各部隊長ハ各其責ニ任セサル可カラス

前哨ノ兵力及編組ハ危險ノ大小我軍ノ衆寡及地形ノ難易ニ應シテ定ムルモノトス

前哨各部隊及哨兵ハ爲シ得ル限り其位置ヲ敵眼ニ觸レシメサルヲ要ス

前哨ハ常ニ完全ナル戰備ヲ整ヘ敵襲ニ對シテハ全力ヲ盡シテ抗戰セサル可カラス之カ爲前哨各部隊ハ常ニ所要ノ工事ヲ爲シ且各部隊間ニ通信連絡ノ設備ヲ爲スコト必要ナリ

凡テ前哨勤務ニ服スル部隊ハ決シテ自ラ無益ナル戰鬪ヲ求ム可カラス是レ無益ノ小鬪ハ全隊ノ靜肅ヲ妨碍シ且時トシテハ遂ニ前哨ノ抗拒シ得サル大戰ヲ惹起スルニ至ルノ虞アルヲ以テナリ

二 行軍前哨

イ 通 則

敵軍ト未タ甚シク接近セス主トシテ敵ノ騎兵ニ對スル顧慮アルニ過キサレバ情況ニ於テ行軍ヨリ宿營ニ移リ翌日更ニ行軍ヲ繼續セントスル軍隊ハ單簡ナル方法ニ依リ警戒セハ可ナリ而シテ通常各宿營地毎ニ外衛兵ヲ以テ直接警戒ヲ爲ス外微弱ナル部隊ヲ前哨ニ任スルヲ以テ足レリトス
時宜ニ依リ整然タル警戒線ヲ設クルコトナク單ニ敵方ニ近キ各宿營地毎ニ警戒法ヲ設クルヲ以テ足レリト爲スコトアリ
行軍中夜間宿營シテ翌朝更ニ行進セントスル軍隊ト雖敵軍ニ接近シ且不注意ノ敵襲ヲ受クルノ危険大ナル情況ニ於テハ所要ノ前哨部隊ヲ配置シ嚴重ニ警戒スヘシ

前哨ハ主トシテ歩兵ヲ以テ之ニ任スルモノトス
前哨ヲ配置スルニハ敵方ニ通スル主要ナル道路ヲ守備スル外敵ノ接近容易ナル地區及我軍ノ情況ヲ觀察シ得ル地點ヲ守備スルヲ要ス

前哨ハ通常分ツテ前哨本隊及前哨中隊ト爲ス而シテ前哨本隊及前哨中隊ニハ所要ノ騎兵ヲ配屬シ搜索及傳令勤務ニ充ツルモノトス

前哨本隊ハ前哨ノ豫備ニシテ敵襲ニ際シ前哨中隊ヲ増援シ要スレハ之ヲ收容スルモノトス之カ爲通常主要ナル道路ノ近傍ニシテ交通便利ナル地點ニ位置スルモノトス

前哨中隊ハ主要ナル警戒線ヲ形成スルモノニシテ敵襲ニ際シ之ヲ抗拒スルヲ任トス故ニ別命ナケレハ極力其位置ヲ保持スヘキモノトス

前哨中隊ハ小哨ヲ出シテ警戒ス又情況ニ依リ前哨中隊ノ外前哨本隊或ハ更ニ其後方ノ部隊ヨリ直ニ其前方若クハ側方ニ小哨ヲ配置スルコトアリ

敵ト甚シク接近セスシテ一地ニ駐留シアル軍隊ノ警戒法モ亦行軍前哨ノ要領ニ準スルモノトス

□ 前哨司令官及前哨本隊

前哨司令官ハ前哨本隊ノ宿營法戰備ノ度及直接ノ警戒法等ヲ規定ス

前哨司令官ハ通常前哨本隊ト共ニ位置スルモノトス
前哨司令官ハ勉メテ其定位置ニ在ルヲ要ス若シ各哨所ノ警戒法ヲ監視シ又ハ其
他ノ事ニ關シ自ラ現地ニ臨ムノ必要アルトキハ故參ノ將校ヲシテ代リテ其職務
ヲ執ラシムヘシ此規定ハ前哨中隊長又小哨長ニモ亦適用ス

ハ 前哨中隊

前哨中隊數及其配置ハ敵情地形殊ニ道路網ノ形狀ニ從フモノトス
前哨中隊ニハ特別ノ番號ヲ附スルコトナク各々其中隊ノ番號(前哨第何中隊)ヲ
稱フルモノトス
前哨中隊長ハ成ルヘク速ニ其中隊ノ位置及警戒法ヲ定メ各々其配備ニ就カシメ
然ル後現地ヲ偵察シテ所要ノ修正ヲ爲シ且敵襲ニ際シ取ルヘキ處置所要ノ工事
等ヲ決定ス

前哨中隊ニ適當ナル位置ハ敵ニ通スル主要ナル道路ノ附近ニシテ敵眼ニ觸レズ
且交通及進退ノ自在ナル地點ヲ良シトス

前哨中隊長ハ其中隊各部ノ配置及諸勤務ヲ定メ又時ノ形勢ト前哨司令官ノ指示
トニ應シテ必要ナル戰備ノ度ヲ規定シ敵襲ニ際シ中隊ノ常ニ戰備ヲ缺カサルコ
トニ關シテハ身ヲ以テ其責ニ任スヘシ
戰備ノ度トハ左ニ示スカ如シ

- 一、中隊及小哨ヲ掩蔽下ニ入ラシムヘキヤ否ヤ
- 二、天幕ヲ使用スヘキヤ否ヤ
- 三、中隊ノ下士兵卒ノ一部ニ假眠ヲ許スヤ否ヤ
- 四、其他炊爨焚火等

前哨中隊ニ在ル下士兵卒ハ通常背囊ヲ卸ス然レトモ其一部ハ常ニ又銃線ノ側ニ
在リテ戰備ヲ怠ル可カラス而シテ其任務ノ爲カ或ハ許可ヲ得ルニ非サレハ一人
ト雖哨所ヲ離ルルヲ許サス
前哨中隊ハ其隊ヲ直接警戒スル爲銃前哨(單哨)ヲ備フ若シ中隊掩蔽下ニ在ルト
キハ之ヲ複哨トス又地形甚タ蔭蔽ノ爲之ヲ要スルトキハ數箇ノ單哨若クハ複哨

ヲ配置ス

軍使來リシトキハ前哨中隊長ハ步哨線外ニ於テ其來意ヲ聽キ軍使ハ直ニ歸來セシメ之ヲ前哨司令官ニ報告スヘシ

前哨中隊長ハ小哨ヨリ送附シ來リタル者ニシテ我軍ニ屬スルヲ確認スル能ハス或ハ疑ハシキ者降參人及我軍ニ屬スル間諜(其眼ヲ縛シ)ハ所要ノ護衛兵ヲ附シ直ニ前哨司令官ニ送附スヘシ而シテ護衛兵ハ之ト談話ス可カラス

二 小哨

小哨ハ切要ナル道路又ハ要點ノ警備ニ任ス

小哨ハ一ノ前哨中隊ニ於テ右翼ヨリ順序ニ番號ヲ附スルモノトス

小哨ハ最前線ニ在リテハ警戒ヲ擔任ス故ニ小哨長ハ注意周密ニシテ職務ニ勤勉ナルヘク下士兵卒ハ精神ヲ奮勵シ監視ヲ嚴密ニセサル可カラス

小哨ニハ小隊或ハ其以下ノ兵力ヲ用ヒ其重要ノ度ニ應ジ將校又ハ下士ヲ以テ長ト爲ス

小哨ハ爲シ得ル限り黄昏前ニ其占ムヘキ地點ニ位置シ能ク地形ヲ認識シ且所要ノ工事ヲ施スヲ要ス

步哨ノ配置宜シキヲ得レハ多ク小哨ノ兵力ヲ減セスシテ能ク警戒ヲ嚴ニス

步哨ヲ配置スルニハ必スシモ其線ヲ連續セシムルヲ要セス主トシテ敵方ニ通スル道路竝重要ノ地點ヲ警備スヘシ而シテ其間ノ空隙ハ所要ニ從ヒ斥候及巡察ヲ派遣シテ之ヲ監視セシムヘシ

小哨長ハ步哨ノ數人員及位置ヲ定ム而シテ步哨ハ複哨(二人乃至四人)ト爲シ或ハ時宜ニ依リ下士哨トナスコトアリ

特別ニ重要ナルカ或ハ交代不便ナル地點ニハ下士哨ヲ用フヘシ此下士哨ノ人員ハ其任務ニ依リ異ナルト雖少クモ下士一人兵卒六人ヲ以テシ通常其二人ハ監視ニ任シ爾餘ハ直接其近傍ニ位置シテ成ルヘク遮蔽シアルヲ要ス但銃ハ必ス之ヲ手ニシアルヘシ

小哨ヨリ交代スヘキ複哨ハ其小哨ヲ距ルコト約四百米ヲ超エサルヲ通則トス

歩哨ノ配置法ハ通常一哨所ニ屬スル兵卒(交代兵共)ヲ歩哨掛又ハ下士哨長タル下士或ハ上等兵ニ引率セシメ小哨ノ位置ヨリ同時ニ捷路ニ依リ豫メ指示シタル地點ニ就カシム而シテ小哨長ハ各哨所ニ到リ歩哨掛又ハ下士哨長ニ守則ヲ授ケ且兵卒ニモ聽聞セシムヘシ然ル後歩哨掛又ハ下士哨長ヨリ受ケタル守則ヲ歩哨及其交代兵ニ能ク記憶理解セシム而シテ下士哨ハ其地ニ留マリ歩哨掛ハ交代兵ヲ率キテ小哨ニ歸ルモノトス

一哨所ニ屬スル歩哨ノ交代法ハ小哨長之ヲ定ムルモノトス
小哨長ハ歩哨ノ員數及其位置ヲ初ヨリ概定スル能ハサルトキハ豫想セル配置人員ヲ率キ必要ナル部分ヨリ逐次ニ之ヲ配置スヘシ
歩哨ハ各小哨毎ニ復哨ト下士哨トヲ通シテ右翼ヨリ順序ニ番號ヲ附スルモノトス
歩哨配置ノ間ハ前方ニ斥候ヲ派遣シテ警戒スヘシ而シテ歩哨ノ配置終レハ小哨ハ銃ヲ銃架ニ託シ若クハ又銃ヲ爲シ所要ノ銃前哨ヲ備ヘ以テ小哨直接ノ警戒ニ

任セシム

小哨長ハ歩哨ニ充テサル者ヨリ若干ノ斥候ヲ區分シ尙殘餘ノ兵ヲ以テ其他ノ勤務ニ充ツルモノトス而シテ歩哨ノ交代兵中同時ニ交代スヘキ者及各斥候毎ニ又銃シ若クハ銃ヲ銃架ニ託シ置クヘシ

小哨ニ在ル下士兵卒ハ小哨長ノ命令ニ依リ背囊ヲ卸スヲ得然レトモ帶革(銃劍彈藥盒共)雜囊及水筒ハ各自常ニ其身體ニ纏フヘシ

小哨ニ在ル者ハ夜間睡眠セサルヲ本則トス但下士卒ノ一部ヲシテ假眠セシムルコトヲ得

任務ノ爲カ或ハ許可ヲ得ルニ非サレハ一人ト雖小哨ヲ離ルルヲ許サス

小哨長ハ成ルヘク速ニ單簡ナル要圖ヲ以テ其配置ヲ中隊長ニ報告シ且相隣スル

小哨ト連絡スヘシ

小哨長ハ歩哨ヨリ報告シ來リタル者ニシテ我軍ノ者タルコト判然疑ヒナシト認定スレハ歩哨線ノ通過ヲ許ス可シ其我軍ニ屬スルヲ確認スル能ハス或ハ疑ハシ

キ者ハ所要ノ護衛兵ヲ附シ直ニ之ヲ前哨中隊ニ送付スヘシ降參人及我軍ニ屬スル間諜(其眼ヲ縛シ)モ亦然リ而シテ護衛兵ハ之ト談話ス可カラス
歩哨ヨリ軍使ノ來リシコトヲ報告セシトキハ小哨長ハ之ヲ前哨中隊長ニ報告スヘシ

晝間ニ於テ小哨ヲ配置セシトキハ小哨長ハ天光ノ有ル限リ警戒區域内ヲ巡視シテ地形ヲ認識スヘシ但常ニ其所在ヲ明カニスヘシ而シテ夜間ハ其小哨ノ位置ニ在ルヲ原則トス又小哨長ハ敵襲ニ對シテ常ニ必ス小哨ノ戰備ヲ缺カサルヲ以テ責任ト爲スヘシ

歩哨配置ノ爲小哨長ノ下ス命令

一例ヲ示セハ左ノ如シ

一、敵ハ何地附近ニ在リ

我中隊ハ前哨中隊トナリ何地ニ位置ス

前方向何村ニハ我前哨騎兵アリ又何村ニハ我歩兵ノ停止斥候アリ共ニ日沒歸還

ノ答

二、當小隊ハ第一小哨トナリ何村ヨリ何地ニ互ル間ヲ警戒ス

三、某上等兵ハ兵六名ヲ率キ何村某神社附近ニ位置シ敵方ヲ監視スヘシ

四、某軍曹ハ兵六名ヲ率キ何地ニ至リ敵方ヲ監視スヘシ

五、某伍長ハ兵九名ヲ率キ此道路ヲ前進シ約五百米ニアル橋梁ニ至レハ停止シ

遮蔽シテ敵方ヲ監視スヘシ

六、某伍長ハ兵六名ヲ率キ何村某寺附近ニ位置シ敵方ヲ監視スヘシ

七、予ハ右翼ヨリ順次ニ守則ヲ授ク

ホ 歩哨

歩哨ハ成ルヘク十分ナル展望ヲ有シ且敵眼ヲ避ケ得ヘク位置スルヲ要ス特ニ晝間歩哨ノ一人ハ樹木家屋堆土等ヲ利用シ望遠鏡ニ依リテ監視ニ任スルヲ可トス此場合ニ於テハ容易ニ敵ニ發見セラレサル爲哨所附近ノ地物ト同色ノ物件ヲ以テ歩哨ノ身邊ヲ掩フヲ利トスルコトアリ

凡テ高所ニ在ル歩哨ハ火光焰氣ヲ見音響ヲ聽クニ利益アリトス又夜間低地ニ在ル者ハ敵ヲ空際ニ透視シ得ルノ利アリ

歩哨線ニ在ル歩哨一般守則左ノ如シ

- 一、歩哨ハ絶エス敵軍ノ方向ヲ監察シ凡テ疑ハシキ徵候ニ深ク注意シ若シ敵ニ關シテ發見セシ事アレハ速ニ其一人ハ小哨ニ報告スヘシ若シ猶豫セハ危殆ニ陥ルト認メシトキハ連續數發ノ射撃ヲ爲シテ警報シ且其一人ハ小哨ニ報告スヘシ而シテ敵ノ單獨兵又ハ數人ヨリ成ル斥候ノ如キハ之ヲ射殺又ハ捕獲スルコトヲ圖ルヘシ

- 二、晝間ハ我軍ノ將校部隊斥候及傳令ニ歩哨線ノ出入ヲ許ス其他ノ者ノ通過ニ關シテハ凡テ小哨長ノ指示ヲ受クヘシ而シテ歩哨ノ命スル所ニ從ハサル者アレハ之ヲ射殺スヘシ

- 三、夜間歩哨ニ近ツク者アレハ銃ヲ構ヘ「誰カ」ト問フ若シ呼フコト三次ニ至ルモ尙答ヘサルトキハ射撃スヘシ凡テ其他ノ處置ハ晝間ノモノニ異ルコト

ナシ

- 四、白旗ヲ翻ヘシ遠方ヨリ軍使タルコトヲ標シ來ル者アルトキハ之ヲ待遇スルニ敵ヲ以テセス之ヲ歩哨線外ニ留メ小哨長ニ報告スヘシ此規則ハ敵ノ單獨兵銃ヲ投棄シ或ハ遠方ヨリ降參人タルコトヲ標シ來ル時ニモ亦適用ス然レトモ降參人ニシテ武器ヲ携帶シアルトキハ先ツ之ヲ放棄セシムヘシ
 - 五、歩哨ハ喫烟シ或ハ銃ヲ手ヨリ放スヲ許サス又命令アルニ非サレハ坐臥スルヲ得ス而シテ晝間立銃ヲ爲スカ或ハ提銃ヲ爲スカ若クハ腕ニ銃ヲ爲スヘキカハ其隨意トス然レトモ夜間ハ擔銃提銃又ハ腕ニ銃ヲ爲スモノトス
- 小哨長ハ歩哨ノ特別守則ヲ定メ一般守則ヲ補足ス
特別守則ニ含有スヘキ事項概ネ左ノ如シ

一、其歩哨ノ番號

二、敵情

三、前方ニ在ル我部隊及斥候ノ情況

陣中要務令摘要

- 四、特ニ監視スヘキ區域及必要ナル道路村落等ノ名稱
 - 五、隣歩哨ノ位置、番號及之トノ連絡法
 - 六、小哨竝中隊ノ位置及此各位置ニ通スル捷路
- 其他歩哨ノ人員ニ應シ如何ニ監視スヘキカ等須要ノ事ニ關スル守則ヲ定ムヘシ

特別守則ノ一例

- イ、此歩哨ハ前哨第一中隊第一小哨ノ第一複哨（歩哨ノ番號）
 - ロ、敵ハ足利町附近ニ出沒ス（敵情）
 - ハ、我騎兵中隊ハ栃木町附近ニ在リ日沒歸還ノ筈（前方ノ部隊）
 - ニ、此歩哨ノ監視區域ハ右ハ其松林ノ左角ヨリ左ハ彼ノ獨立家屋マテ特ニ右斜ノ凹地及前方ノ丘阜ヲ注意スヘシ（特ニ監視スル區域ヲ指示ス）
 - ホ、前面ノ村落ハ兒玉村左斜ノ村落ハ乃木村此道路ハ東郷街道
 - ヘ、右方約四百米ノ小丘阜ニ前哨第二中隊第二小哨ノ第三下士哨アリ
- 左方約二百米ノ獨立家屋内ニ我第二下士哨アリ（隣歩哨ノ位置）

左右トモ晝間ハ展望ニ依リ夜間ハ動哨ヲ以テ連絡スヘシ（隣歩哨ト連絡）

ト、第一小哨ハ此道路ノ後方約三百米ノ雜林中ニ在リ又其後方約三百米ノ無名祠附近ニ前哨第一中隊アリ之ニ通スル捷路ハ此道ナリ（小哨並中隊ノ位置及此各位置ニ通スル捷路ヲ指示シテ）

歩哨ハ我歩哨線ヲ出發スル斥候ニ自己ノ見聞セシ情況ヲ告ケ斥候ノ受ケタル任務及歸來ノ時刻場所等ノ概要ヲ聽キ又歸來スル斥候ヨリ其見聞セシ事件ヲ聽取スルモノトス

歩哨ノ交代ハ新舊兩兵敵ノ方向ニ面シテ位置シ舊歩哨ハ新歩哨ニ其服務中見聞セシ事件ヲ傳告スヘシ但此交代ニハ必ス歩哨掛ノ立會ヲ要ス

銃前哨ノ動作及守則ハ歩哨ニ準ス但凡テノ報告ハ通常其位置ヲ離ルルコトナク之ヲ爲スモノトス

歩哨敵兵ヲ發見セシトキハ左ノ動作ヲトルヘシ

- 一、直ニ身體ヲ蔭蔽スルコト

- 二、距離ヲ測リ照尺ヲ裝シ射擊準備ヲ爲スコト
 - 三、步哨ハ十分敵情ニ注意シ其一名ハ直ニ小哨ニ報告スルコト
 - 四、他ノ一名ハ身體ヲ蔭蔽シテ敵ノ動靜ヲ監視スルコト
- 步哨ノ射擊スヘキ場合概ネ左ノ如シ
- 一、步哨ノ命ニ從ハサルモノアルトキ
 - 二、敵襲ト知リタルトキ
 - 三、危殆ノ状態ニ陥リシトキ
 - 四、我ヲ見テ退却スルモノヲ認メシトキ
 - 五、有効射距離内ニ敵兵出現セシトキ

斥候及巡察

斥候ハ進退動作ニ深く注意シ靜肅ニシテ喧噪スヘカラス又屢駐止シテ音響ヲ聽取シ能ク地形ヲ諳識スヘシ是レ地形ニ就イテノ解説ヲ爲シ且時宜ニ依リ嚮導ト爲リ得ンカタメナリ而シテ要スレハ往路ト異ナル歸路ヲ擇ヒ敵ニ中斷セララル

危険ヲ避クヘシ

其他斥候ノ動作ハ斥候ノ種類及區分ノ部ニ於テ述ヘタルカ如シ
巡察ハ前哨各部隊ヨリ出ス而シテ其任務ハ步哨線内ヲ監視シ各哨所及步哨ヲ監視シ且步哨ヲ配置セサル土地ヲ搜索シ比隣哨所ト連絡ヲ通スルニ在リ而シテ其人員ハ臨時之ヲ定ムルモノトス
步哨線ニ於テ射擊或ハ喧噪セシ時ニ於テモ亦巡察ヲ派遣シ其事實ヲ究メ且步哨ヲ援助セシムルコトアリ

三 戰鬪準備前哨

軍隊敵ニ近ク宿營シ戰鬪準備ヲ必要トスル場合ニ於ケル前哨ノ配置區分及其勤務ハ專ラ戰鬪上ノ顧慮ニ基キテ之ヲ定メ其警戒ハ益嚴ナルヲ要ス
敵ト接近シ永ク相對峙スルトキハ一層警戒ヲ嚴ニシ前哨線ハ相連絡シテ空隙ナキヲ要ス

前哨ハ主トシテ歩兵ヲ以テ之ニ任シ之ニ所要ノ機關銃及騎兵ヲ屬ス

前哨各部隊ハ警戒ノ嚴ナルヲ要スルニ從ヒ漸次距離及間隔ヲ閉縮シ抗戰ニ適スル陣地ニ接近シテ配置シ敵襲ニ際シテ直ニ密接セル防禦線ヲ形成シ得ルヲ要ス
情況ニ依リ前哨各部ノ區分ヲ省略シ其全部若クハ一部ノ防禦陣地ヲ占領シテ警戒スルコトアリ此場合ニ於テハ單ニ前方及側方近距離ニ小部隊若クハ步哨斥候等ヲ出シテ警戒スルモノトス
步哨ハ互ニ近ク相接シテ配置シ一人モ步哨ノ眼ヲ逃レ或ハ其射撃ヲ受ケスシテ其線ヲ通過スルコトヲ得サラシムヘシ
夜間相互ノ識別ニハ低音ナル口笛或ハ互ニ氏名ヲ呼フヘシ
對陣久シキニ涉ル時要スレハ最高級指揮官ハ暗黒中ノ認識ニ要スル暗號ヲ選ヒ之ヲ指定ス
此ノ如キ場合ニ在リテハ步哨(巡察)ハ先ツ「誰カ」ト問ヒ其答ニ依リ我軍ノ者タルヲ認知セシ後更ニ「暗號ニ進メ」ト呼ヒテ之ヲ確認スヘシ暗號ヲ唱フル聲音ハ唯聞キ得ルヲ以テ度トスヘシ

我軍ノ者タルヲ認知スト雖モ暗號ヲ知ラス或ハ暗號ノ不正ナル者ハ先ツ其地ニ停止セシメ小哨長ノ指示ヲ受クヘシ若シ遁逃セントスルノ狀アルトキハ之ヲ射撃スヘシ
以上述ヘタル外前哨ノ部署隸屬竝勤務ノ要領ハ行軍前哨ノ部ニアル規定ヲ準用ス

D 斥候ノ諸種ノ地形ニ於ケル搜索法

搜索ハ敵眼ヲ避クルヲ以テ最モ良キ手段トス若シ敵ニ發見セラルトキハ爾後ノ動作非常ニ困難トナル之ニ反シ敵ニ發見セラレス先ツ我ヨリ敵ヲ發見セハ搜索上最モ利益ヲ得ルモノトス而シテ搜索ニハ勉メテ展望ニ便ナル所ヲ選ムヘシ

森林ノ搜索法

先ツ森林縁ヲ觀察シ敵ナキヲ確カメタル後内部ニ侵入シテ搜索ス故ニ斥候長カ又ハ他ノ一人同時ニ異ナル地點ニ向ツテ潛行シ他ノ一人ハ後方ニ止リテ之ヲ注視シ前進ノ記號ヲ待ツテ續行スヘシ尙注視連絡上間隔ヲ少クスルヲ要ス

村落ノ搜索法

村落ハ諸種ノ地形中搜索最モ困難ニシテ且危険ナリ敵ノ已ニ通過セシ際ノ如キ時ニ於テ殊ニ然リ故ニ斥候ハ村外ノ高所又ハ村縁ヨリ觀察シ或ハ住民ニ尋問シ斥候長ハ村縁ニ沿ヒ前進シ又ハ兵一名ヲ率キテ、決然村落内ニ侵入スヘシ

道路ニ沿ヒタル狹長ノ村落ヲ搜索スル場合ハ斥候長ハ中央道路ヲ行進シ他ノ二名ハ左右側方ニ沿ヒテ搜索シ空地アルカ若クハ通視シ得ラルル道路アレハ相互停止シ連絡ヲ取りタル上更ニ行進ス

斥候ハ村落ニ侵入スルニ先チ村落ノ入口ニ最モ注意スヘシ是レ敵兵アルトキハ必ス村端ニ監視兵ヲ出シ置ケハナリ

斥候ハ又人家ニ立寄り若クハ村落内ニ駐止スヘカラス而シテ出口ニ達スレハ一時停止シ他ノ者ノ進出ヲ待チ前地ヲ注視シ後更ニ他ノ地域搜索ニ移ルヘシ

高地ノ搜索法

斥候高地ニ接近セハ身ヲ隠シテ高地ヲ注視シ敵兵已ニ占

領シ居ルカ否カヲ確カム若シ怪シキ形跡ナキトキハ一名ハ高地上ニ登リ一名ハ後方ニ殘留シ異狀ナケレハ後方ノ者ヲ招致ス若シ高地上ニ敵ノ斥候カ又ハ歩哨ヲシキモノヲ發見セハ直ニ他方面ニ移リ後續部隊ノ有無兵種兵數或ハ防禦工事ノ有無ヲ確カムルヲ要ス

隘路ノ搜索法

隘路凹道ニシテ長キトキハ斥候長ハ高キ縁側ヲ行進シ他ノ者ハ凹道ヲ行進ス

隘路外ヲ行進スル能ハスシテ隘路長キトキハ斥候ハ互ニ大ナル距離ヲ取り同一敵彈ノ爲ニ損害ヲ受ケサル如ク前進スヘシ

隘路短キトキハ先ツ後岸ニ於テ停止シ前岸ヲ熟視シ敵兵存在ノ形迹ナシト認ムルトキハ一名ヲ殘シ一名ヲ從へ前岸ニ躍進シ異狀ナケレハ記號ニ依リ部下ヲ招致ス

開濶地ノ搜索法

開濶地ニ在リテハ互ニ連絡シ得ル限り遠ク離レテ行進シ廣ク搜索スルコトヲ努ムヘシ

開濶地長クシテ中途ニ地形起伏シ又ハ樹木等アル場合ハ躍進法ヲ用キ一地物ヨリ他ノ地物ニ疾走シテ其處ニテ更ニ前方ニ倚ルヘキ次ノ地物ヲ選定シツツ漸進スヘシ又互ニ目視又ハ記號ヲ以テ連絡ヲ取ルヘシ若シ地物ナキトキハ伏臥スヘシ

五 行軍

一 通則

凡ソ戰時軍隊ノナスヘキ事業ノ大部分ハ行軍ニ在リ行軍ハ凡テノ作戰ノ基礎ヲ成スモノニシテ其實施ノ確實ナルハ諸般ノ企圖ニ好果ヲ獲ルノ要素ナリ
行軍中軍紀ヲ嚴格ニシ徒歩兵ニ在リテハ特ニ靴傷ニ注意スルハ行軍力ヲ保持シ且之ヲ増進スルニ最モ有效ノ方法ナリ長途行軍ニ於テ靴傷者ノ多寡ニ依リ如何ニ行軍軍紀ノ嚴格ナリシヤ否ヤヲ判定スルコトヲ得

二 行軍ノ種類

行軍ノ種類ニ二種アリ旅次行軍及戰備行軍是ナリ

旅次行軍ハ敵ニ觸接スヘキ虞ナキ時ニ於テ行フモノニシテ主トシテ軍隊ヲ休養スルコトヲ顧慮スルモノトス

戰備行軍ハ敵ニ觸接スヘキ虞アル時ニ於テ行フモノニシテ戰鬪準備ヲ主トスルモノトス之カ爲行軍序列ヲ定メ且警戒法ヲ設クルモノトス

旅次行軍ト戰備行軍トヲ問ハス情況ニ依リ急行若クハ強行ヲ必要トスルコトアリ此場合ニ於テハ其行程ヲ増大シ或ハ爲シ得ル限り休憩時間ヲ減少シ尙夜間ニ於テモ行軍ヲ繼續スルモノトス

夜行軍ハ又敵ニ對シ我行動ヲ秘匿スル爲又ハ往々炎熱時ニ於テ晝間ノ行軍ニ代ヘ之ヲ行フコトアリ

三 行軍ノ隊形及行軍々紀

歩兵ノ行軍隊形ハ側面縱隊トス

行軍中ハ下士缺伍ノ兵卒皆四人ヲ以テ一伍ヲ作ルヘシ而シテ行軍中ハ常ニ道路

ノ一側ヲ虚フシ置クヘシ
中隊長及小隊長ハ行軍中其中隊若クハ小隊ヲ監視スルニ便利ナル位置ニ在ルヘシ然レトモ一將校ハ中隊ノ後尾ニ在リテ行進スヘシ
歩兵機關縱隊ノ行軍隊形ハ縱隊トシ銃隊長以下ノ位置ニ關シテハ歩兵中隊ニ準ス
騎兵ノ行軍隊形ハ四伍縱隊若クハ二伍縱隊トス
騎兵機關銃隊ノ行軍隊形ハ縱隊トス
砲兵ノ行軍隊形ハ砲車縱隊トス
工兵ノ行軍隊形ハ歩兵ニ準ス
速歩ヲ以テ行進スルトキハ通常各人ハ操典ニ定ムル位置ヲ占メ中隊長ハ其先頭ニ在ルモノトス

四 行軍實施及休憩

軍隊出發後道路ニ出ツレハ歩兵ニ在テハ「途歩」ノ號令ヲ傳フ是ニ於テ歩ヲ調フ

ヲ要セス特別ノ時ヲ除クノ外ハ談話ヲ許シ刀ハ鞘ニ納メ銃ハ各兵ノ欲スル所ニ從ヒ右肩左肩ニ擔ヒ或ハ負革ヲ以テ肩ニ懸クヘシ而シテ軍隊ハ路上便利ナル側方ヲ擇ヒ行進スヘシ又他部隊ニ遭遇セシトキハ行進方向ニ對シテ道路ノ右側ヲ行進スヘク且各人ハ勉メテ前後ニ重疊シ以テ縱隊面ヲ擴ケサルコトニ注意スヘシ
廣キ街道ニ於テハ常ニ其一側ヲ虚ウシ他部隊ノ通過ニ供スヘク狹キ道路ニ在リテモ單獨ノ乘馬者ヲシテ縱隊ノ行進ヲ妨碍スルコトナク疾走スルヲ得セシムヘシ
各人恣ニ服裝ヲ紊スヲ禁ス
兵卒若シ已ムヲ得ス隊列ヲ離ルルヲ要スルトキハ小隊長若クハ分隊長ノ許可ヲ受クヘシ

行軍中休憩ノ命アリタルトキハ左ノ諸件ニ注意スヘシ

- 一、速カニ休止ノ姿勢ニ移ルヘシ且背囊ノ著脱及又銃ヲ速カニスヘシ

二、休憩中可成用便ヲナスコト又歩兵ハ靴下ノ皺ヲ伸ハシ靴傷ヲ豫防スルコト

三、休憩中ハ道路ニ立塞リ交通ノ妨害ヲ爲ササルコト

四、休憩地ヨリ遠ク離ルルヲ禁ス又休憩中ハ敬禮ヲ爲スニ及ハス

F 宿營及^内衛兵_外

宿營ノ種類宿營地ノ位置及廣狭ハ主トシテ戰術上及休養上ノ顧慮ニ基キテ之ヲ定ムルモノトス

宿營ニ三種アリ舍營露營及村落露營トス

舍營

戰鬪準備容易ナル能ハスト雖モ風雨ヲ障蔽シテ人馬ヲ休養シ需用品ノ補充被服ノ補修等ニ便ナルヲ以テ極メテ惡キ舍營モ人馬ノ休養上ヨリスレハ尙露營ニ優レリトス故ニ苟モ戰術上妨ケナケレハ宿營ハ舍營ヲ以テ優レリトス

露營

敵ニ觸接シ戰術上ノ顧慮ヨリ夜間尙一定ノ地域ニ位置セサルヲ得サ

ル時或ハ舍營スヘキ住民地ニ乏シク他ニ方法ナキトキハ露營ヲ爲スモノトス即チ森林原野等全ク露天ニ曝露シ泊ルコトヲ云フ

村落露營

敵ニ接近セルカ或ハ大部隊ヲ稠密ニ集合スルヲ要スルカ若クハ其地方ニ家屋ノ乏シキカ爲舍營ヲ爲ス能ハサルトキハ村落露營ヲ爲ス即チ一部ハ民家ニ入ルヲ得レトモ他ノ一部ハ庭内又ハ其附近ノ空地ニ露營スルナリ

舍營中ノ心得ハ左ノ如シ

一、舍營ニ就ケハ直ニ武器ノ手入ヲ爲スコト

二、銃架(丸太又ハ竹ニ繩ヲ卷キ付ク)ヲ作り銃ヲ立掛ケ又ハ被服ノ手入ヲ爲スコト

三、靜肅ヲ守リ舍主ニ迷惑ヲ掛ケサルコト

四、猥リニ外出セサルコト又翌日ニ關スル命令ヲ聞キ後寢ニ就クコト

五、警報アレハ武器ヲ携ヘ靜肅ニ中隊ノ緊急集合場ニ集合ノコト

各舍營區ニ舍營日直將校一人(通常大尉)ヲ置ク時宜ニ依リ尙巡察將校若干人ヲ置ク

舍營日直將校ハ舍營ノ内務及其警戒ニ關シ舍營司令官ノ指示ヲ受ク日直將校ハ内衛兵及外衛兵ノ長官ニシテ之ニ所要ノ區處ヲ與ヘ且絶エス之ヲ監督スルヲ以テ責任トス

一舍營地ノ兵員寡少ナルトキハ別ニ舍營日直將校ヲ置カス舍營司令官自ラ之ヲ兼ルコトアリ

敵ニ關スル顧慮アルトキハ舍營地直接警戒ノ爲外衛兵ヲ置ク

外衛兵ノ兵力及配置ハ危殆ノ度ト地形トニ應シ定ムルモノトス

外衛兵ハ舍營地ノ出口及外圍或ハ外方ニ在ル要點ニ複哨若クハ下士哨ヲ配置シ時宜ニ依リ外方ニ對シ道路ヲ閉塞スルコトアリ又常ニ近隣ノ宿營地ト連絡ヲ保持スルコトニ注意スヘシ

外衛兵ハ小哨勤務ノ規定ニ從ヒ動作スルモノトス

軍機ヲ保護シ間諜ヲ防キ衛生ヲ監督シ安寧秩序ヲ維持スル爲各舍營區毎ニ一ノ内衛兵ヲ設置ス而シテ其勤務ハ舍營司令官之ヲ規定スルモノニシテ就中住民ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ公示スルモノトス

内衛兵ハ衛戍勤務ノ規則ニ從ヒ動作スルモノトス

小部隊ニ在リテハ特別ニ外衛兵ヲ設ケス内衛兵ヲシテ舍營地外部ノ警戒ヲモ擔任セシムルコトヲ得ヘシ

警備上必要ナルトキハ若干部隊ヲシテ嚴肅ナル戰備ヲ保持セシム然ルトキハ此部隊ハ適當ナル家屋ニ相合シテ緊急舍營ヲ爲ス

緊急舍營ハ勉メテ建制部隊毎ニ一家屋ニ舍營シ服裝ヲ整ヘ武器裝具ヲ身邊ニ置キテ臥眠シ凡テ窓戶ヲ開キ各家屋ニ少クモ兵卒一人點燈シテ警戒ヲ爲ス

警報ノ爲ニハ非常號音ヲ吹奏ス

警報アル時各皆武裝ヲ整備シ先ツ小隊(分隊)毎ニ集合シ然ル後速ニ其中隊ノ集合地ニ集合スルカ或ハ豫メ指示セラレタル地點ヲ守備ス衛兵ハ舍營司令官ヨリ

受ケタル命令ニ從ヒテ動作ス

G. 行李及給養

行李ハ通常小行李及大行李ニ分チ小行李ハ戦闘間必要ノ物品ヲ積載シ大行李ハ主トシテ宿營間必要ノ物品ヲ積載スルモノトス

小行李ハ所屬隊ニ隨從スルモ大行李ハ將校(大行李長)ノ指揮ニ屬シ本隊ノ後方若干距離ニ在リテ行進ス

戰地ニ於ケル人馬ノ給養ハ軍隊ノ携行スル糶秣(各自携帶スル糶秣及大行李)倉庫(糧食縱列ニ積載スル糶秣)ノ糶秣若クハ部隊ノ直接ニ購買徵發セル糶秣ニ依リ又稀ニ舍主ノ供給スル糶秣ニ依リ之ヲ行フ

出征軍ニ屬スル軍人軍屬ノ糧食一日分ノ定量ハ左ノ如シ

精米 四合五勺

挽割麥 一合九勺

一日分 罐詰肉 四十匁

食鹽 三匁 醬油エキス 五匁

其他 野菜類 漬物類 調味品若干

馬糶、一日分ハ大麥五升(馱馬)干草一貫匁及藁一貫匁トス

携帶糶秣ハ軍隊出征ノ時ヨリ各自携帶スル所ノ豫備糶秣ニシテ終始必ス携帶スヘキモノトス此糶秣ハ他ニ給養ノ方法ナク已ムヲ得サル時ニ非サレハ之ヲ用ヒサルモノトス(携帶口糶ノコトナリ)

携帶口糶ハ徒步者ニ在リテハ背囊又ハ背負袋ニ乘馬者ハ鞍囊ニ收容ス即チ左ノ如シ

(甲) 精米一日分(六合)

(乙) 乾麵麩一日分(百八十匁)

副食物、罐詰肉四十匁食鹽六匁

軍隊ハ通常大行李積載糶秣ヲ使用シ其缺乏ヲ補充スルハ糧食縱列ヨリス

軍隊ノ給養品ヲ後方ヨリ輸送シ若クハ之ヲ購買スルノ途ナキ場合ニ於テハ各部

陣中要務令摘要

隊ヲシテ直接ニ地方糧秣ヲ徵發(部隊徵發)セシム此時ニ當リテハ高級指揮官其部隊ニ一定ノ地域ヲ指示シ徵發隊ヲ以テ其地ニ就キ糧秣ヲ徵發セシムルモノトス之ヲ徵發ト云フ

徵發隊ノ指揮官ハ必ス將校ヲ以テス而シテ徵發物件ニ對シテハ賠償ヲ與ヘ若クハ領收證ヲ付與スルモノトス
野戰倉庫ヲ充實スル爲メ徵發ハ軍又ハ師團ノ經理部長ヲシテ之ヲ行ハシムルヲ適當トス (官憲徵發)

H. 衛生、彈藥補充、兵站

一 隊屬衛生人員及材料

各隊ニハ衛生勤務ノ人員即チ軍醫看護長上等看護卒ヲ屬ス又步兵及砲兵中隊ノ兵卒中擔架術ノ教育ヲ受ケタル者アリ而シテ步兵隊ニ在リテハ隊繙帶所ノ開設ニ際シ此兵卒ニ補助擔架卒ヲ命シ砲兵隊ニ在リテハ步兵隊ニ準シ必要ニ應シテ之ヲ使用スルモノトス

將校以下凡テ其上衣ノ左裾裏ニ繙帶包ヲ納ルルモノトス
各隊ノ衛生材料ハ醫扱及擔架トス

二 戰鬪間及戰鬪後ノ動作

戰鬪間多數ノ傷者ヲ生スルニ至ルモ衛生隊未タ到着セサルカ或ハ遠隔シアルトキハ步兵隊ハ直ニ隊附衛生部員及衛生材料ヲ用ヒテ隊繙帶所ヲ設ク此時該隊ノ衛生部員ハ其一部ハ隊繙帶所ニ位置シ他ノ一部ハ戰線ニ到リテ傷者ノ收容及救護ニ從事ス

補助擔架卒ハ其銃ト背囊トヲ隊繙帶所ニ置キ白布ヲ右ノ上膊ニ纏ヒ擔架及繙帶囊ヲ携ヘ戰線ニ前進シ傷者ノ運搬及救護ニ從事ス

隊繙帶所ハ衛生隊到着シ作業ヲ開始セハ之ヲ撤シ其衛生部員及補助擔架卒ハ速ニ復隊スルモノトス (以上隊繙帶所)

衛生隊ハ戰鬪間ニ於テ初療ヲ完全ナラシメンカ爲繙帶所ヲ設置ス
繙帶所ニ於ケル衛生勤務ハ師團軍醫部長之ヲ統轄ス